關係人員　地主　五人　小作人　一人
關係土地　田　四反五畝歩

（一）爭議ノ原因

小作人ハ農民組合幹部ニシテ昭和六年度迄ニ既ニ相當額ノ小作料ヲ滯納セシガ、昭和七年度ハ降雹ノ被害ヲ理由トシ減額ヲ要求セルノミナラズ、關係田地ハ小作料高率ナリトシ永久三割減ヲ要求セシモ、地主之ニ應ゼザリシ爲小作人ハ昭和七年度小作料ハ全部滯納シ地主ノ策動ニ對シ應戰スルニ至リシニ因ル。

（二）小作人ノ要求、地主ノ主張

昭和六年度迄ニ滯納アリト地主ハ主張スルモ之ハ不作ニ拘ハラズ地主ハ小作料ノ減額ヲ好マザル爲ニ小作人ハ不得已一部分借用ノ名義ニテ延納セシモノニシテ、實質ハ減額ナレバ之ヲ納付スルノ必要ナシ。昭和七年度ハ相當ノ收穫ヲ豫想セシモ刈取期ニ迫リ降雹アリ著シク減收トナリタル次第ニテ數量ヲ明示シテ減額ノ要求ハナサザリシモ部落内ノ實例ニ準ジ減額ヲ要求スルモノナリ。元來關係土地ハ他部落ニ比シ小作料高率ナリ。其ノ立證トシテ隣接部落ハ反當土地價格七百圓乃至八百圓ナルモ、本部落ノ田地ハ四百圓以下ナルニ不拘小作料ハ大差ナシ。而モ耕地整理ノ結果水利其ノ他ニ變革ヲ來

シ益々小作料高率トナルヲ以テ小作料永久三割減ヲ要求スル次第ナリ。然ラザレバ年々小作料減額要求ノ必要ヲ生ズベク地主ニ於テ之ヲ肯ゼザルトキハ小作人トシテ立行カズト主張セリ。

之ニ對シ地主側ハ昭和七年度ハ降雹アリシハ事實ナリシモ減額ヲ要スル程度ノ被害ナク、小作人モ其ノ當時ハ何等ノ申出モナク收穫ヲ了シタルモノナリ。小作人ハ關係土地ハ小作料高率ナリト稱スルモ我々ハ之ヲ認メ居ラズ。卽チ他部落ニ於テハ時々小作料ヲ增額セシ者アリシ爲ニ問題化シ遂ニ段下ゲ（永久減）ノ不得已ニ至リ一般地主迄モ迷惑ヲ見タルコトアルモ、關係土地ニハ小作料增額ノ事實ナク又耕地整理ノ結果ハ何等水利等ニ變化ヲ見ズ。然レドモ小作人トシテ小作料高率ニシテ經營上引合ハズトセバ、地主ニ於テ數年間自作ヲ試ミ果シテ引合ハズトセバ段下ゲノ上再ビ小作セシムベキニ付一應土地ヲ返還セラレタク、此ノ儘ニテ小作料ノ永久減ニハ絶對ニ應ズルコト能ハズト主張セリ。

（三）手段竝ニ經過

小作人ハ前記要求ノ下ニ小作料ヲ滯納シ地主ノ策動ニ應戰セントスル態度ヲ取リ、地主側ハ示談協調ノ餘地ナク合法的解決ノ外ナキモ一應小作調停法ニ據リ協調ヲ講ズルコトノ穩當ナルヲ認メ調停ノ申立ヲナセリ。

受理裁判所ニ於テハ小作調停委員會ヲ開設シ實地ノ踏査竝ニ双方ノ主張其ノ他ノ資料ニ基キ審議ノ結果左記條件ヲ内示シテ双方ヲ勸告セシニ、小作人ハ調停條件ハ公平ニシテ異議ナキモ一家ノ經濟上

之ガ履行ノ見込立タズ、仍テ小作料三割減(段下ゲ)ヲ不可能トセバ滯納小作料全額棒引トセラレ度申出タリ。地主ハ小作人ニ於テ調停案ニ同意スルトセバ地主トシテモ亦同意セザルヲ得ザルモ、小作人ノ最後ノ要望ノ如ク小作料ノ段下ゲ竝ニ滯納小作料ノ棒引キハ何レニモ應ズルコトヲ得ズ。此ノ上ハ他ニ解決ノ方法ヲ講ズルノ外ナシトテ遂ニ調停ノ取下ゲヲナシタリ。

調停條項案

一　申立人(地主)ハ本件地所ヲ從來通リノ小作料ニテ引續キ相手方(小作人)ニ小作セシムルコト

二　小作料ノ納期ハ毎年十二月末日限リトシ小作人ニ於テ故ナク滯納セシトキハ小作契約ヲ解除シ地主ハ土地返還ノ請求ヲナスコトヲ得

三　不作ノ爲小作料ノ減額ヲ要スルトキハ小作人ハ刈取前地主ニ申出テ双方立會ノ上檢見シ免引ノ協定ヲナスコト、若シ當事者間ニ於テ協定不能ノトキハ双方當事者ノ同意スル第三者ノ決定ニ一任スルコト

四　水害ヲ被リタル場合立毛ノ損害ニ對シテハ前項ニ依リ協定シ耕地ノ復舊ニ付テハ地主、小作人協議ノ上施行シ其ノ工事費ノ內勞力ニ付テハ地主、小作人折半負擔シ其ノ他ノ費用ハ地主ノ負擔トスルコト

五　水田ニ水稻以外ノ作物ヲ栽培シタルトキハ勝手作ト見做シ不作免引ノ要求ヲナシ得サルコト

六　地主ハ昭和六年度迄ノ滯納小作料ヲ免除スルコト

七　小作人ハ昭和七年度滯納小作料ヲ左記方法ニ依リ地主ニ納付スルコト

記

昭和八年末ニ滯納總額ノ一割乃至二割
昭和九年末以後殘リヲ七箇年間ニ分納

(四)　結　末

小作官ハ調停取下ゲ後双方ヲ勸告シ調停委員會案ト異ナル方針ノ下ニ示談解決ヲ講ズベク指導シ遂ニ左記條件ニテ示談成立シ解決ヲ告ゲタリ。

一　小作人ハ關係土地ヲ昭和八年度稻作限リ地主ニ返還スルコト

二　地主ハ小作人ニ對シ從來ノ滯納小作料竝ニ昭和八年度ノ小作料全額ヲ免除シ尙反當金二十圓ヲ交付スルコト

四〇　高知縣吾川郡秋山村　(小作料一時的減額)

發　生　昭和八年二月二十二日
未解決

關係人員　地主　二十二人　小作人　三十一人

關係土地　田　十一町七反九畝一歩

（一）爭議ノ原因

係爭地ノ昭和七年度ノ稻作ハ蟲害ヲ蒙リ甚ダシク減收ヲ來セル爲小作者等協議ノ上團體的ニ地主ニ對シ各作柄ニ應ジ四割乃至全免ノ小作料減額要求ヲ爲シタルモ、地主ハ之ヲ拒絶シ却テ昭和七年度ノ契約小作料全額及昭和六年度小作料ニシテ昭和七年度割拂分一割ヲ併セテ納入スベシト催告シ、應ゼザルニ於テハ小作地ヲ返還スベシト主張シ、双方強硬ニ自己ノ主張ヲ固執シタルニ因ル。

（二）小作人ノ要求、地主ノ主張

（イ）小作人ノ要求

第一次

一　二割減ハ中晩稻前作關係ヲ含メ全部一率ナルコト

二　特別不作地約二十筆ハ右ヨリ除外シ別ニ減額スルコト

三　昨年度分割拂一割納入ハ承認ス

四　二割減タル殘リ八割ノ納入方法ハ左ノ通リトセラレ度シ

五割五分即納、一割五分ハ三箇年賦、一割ハ豐年拂トスルコト

第二次

一　特別不作地二十筆ハ五割減トシ內二筆ハ全免タルコト

二　一般小作地ハ三割五分減

三　合意申立ニヨル調書作成ハ將來ノ事ヲ規定セザル限リ之ニ應ズ

四　全ク支拂能力ナキ二、三ノ小作人ニ付テハ個人的ニ別ニ考慮スルコト

五　西瓜、蘭等ノ跡作ハ切離シ別問題トサレ度シ

六　昨年ノ割拂分一割モ同樣別扱ニサレ度シ

（ロ）地主ノ主張

第一次

一　昭和七年度小作料ハ同村協調組合ノ減額率ニ準ジ一割五分減、五分奬勵米給與、計二割減トスルコト

但シ晩稻竝ニ西瓜、蘭、桑、苗代ノ跡作タル水稻ハ之ヲ除外ス、中稻ハ減免協定濟ノモノハ協定通リトシ檢見申込アリシモノハ晩稻ニ準ズルコト

二　昭和六年度分小作料ニシテ本年割拂分一割モ同時ニ納入スルコト（本項ハ昭和六年度減額問題ニ關シ同村醫師北村氏ノ調停ニ係ルモノ）

三　前二項ノ減額協定成立セバ其ノ效力確保ノ爲合意ノ調停申立ヲ爲シ裁判所ノ調書トスルコト

第　二　次

一　特別不作地ノ五割減ハ之ヲ承認スルモ其ノ筆數ハ更ニ調査審議スルコト

二　一般ノ小作地ハ三割減トス

三　合意申立ニヨル調書ハ小作人ノ主張ヲ容レ將來ノ事ヲ規定セズ

四　支拂能力ナキ小作人二名モ一般ト同一ニ取扱フコト

五　跡作關係地ハ切離シ一般率ニヨリ減額セズ

六　昨年ノ割拂分一割ヲモ納入スルコト

七　小作料完納セザル時ハ土地ヲ返還スルコト

（三）手段竝ニ經過

（イ）小作人側全農秋山支部設立及地主側地主組合組織

小作人ハ全國農民組合秋山支部（總本部派）ヲ組織シ、昭和七年度水稻ガ蟲害等ノ爲減收セリトノ理由ニテ作柄ニ應ジ小作料ノ四割乃至全免ヲ地主ニ團體要求ヲナシ、地主側モ亦地主組合ヲ組織シ結束ヲ强固ニシテ對抗シ互ニ讓ラズ爭議次第ニ紛糾ス。

（ロ）小作官ノ作況調査及法外調停

是ヨリ先キ小作官ハ本係爭事件ノ惹起ヲ豫測シ、係爭地ノ水稻生育中其ノ立毛ヲ調査シ、更ニ縣農務課ノ技術者ヲシテ立毛ノ調査ヲナサシメ置キタリ。而テ收穫後小作者側ヨリ減免要求問題發生スルト共ニ數回現地ニ出張シ、兩當事者ト會見調停ニ努メ、双方ノ意見可成リ接近セシモ一致點ヲ見ズ、其ノ後二月五日大阪ノ森辯護士調停ノ爲秋山村ニ出張シ、調停ノ結果同村協調會ノ減額率ニ準ジ平均二割減トシ、細目ノ協定ハ小作官ノ指示ニ從フコトトシタルモ、其ノ調停頗ル不徹底ナリシ爲、後日小作官ノ細目協定ニ關スル調停ニ於テ全ク何等ノ效果モ擧ゲ得ズ小作官ノ法外調停モ遂ニ成立ヲ見ズ。

（ハ）地主ノ小作調停申立

地主側ハ二月二十二日不調ヲ見越シ、訴訟ノ前提トシテ調停ノ申立ヲナシ、小作料滯納ニ基ク土地返還及滯納小作料ノ納入ヲ請求シ五月六日、六月三日、六月二十日ノ三回ニ亘リ高知地方裁判所ニ於テ調停委員會ヲ開キ互讓妥協ヲ勸メ調停ニ努メタルモ、兩者强硬ニ各々主張ヲ固執シテ讓ラズ遂ニ調停不調トナレリ。

（ニ）直接交涉ニ依ル一部解決

地主側ノ調停申請ニ依リ小作側ヨリ個別交涉ノ結果、六月二十九日地主川島某ニ對スル小作人土居某外二名關係土地田四反三畝十歩ハ作柄ニ依リ三割乃至四割五分ノ減額交涉成立一部解決セリ。

（ホ）地主側ノ提訴準備

地主側ハ豫期ノ通リ調停不調トナリタル結果、訴訟提起ノ準備手段トシテ岡崎某外十七名ハ六月二十日付ヲ以テ小作人岡崎某外十九名ニ對シ左記内容ノ催告狀ヲ發セリ。

催　告　狀

一　昭和七年度小作料及昭和六年度支拂不足ノ小作料ヲ本月三十日迄ニ完納スルコト

二　右期間ニ完納セザル場合ハ地主ニ於テ賃貸借地ハ勝手ナル處置ヲナスコト

（ヘ）小作米共同賣却

二月下旬法外調停決裂シ又依法調停モ不調ニ終リタル結果、小作米百五十俵ヲ共同保管セシ全農側ニ於テハ同月二十三日ヨリ同月二十七日迄ニ四回ニ亘リ、一石十八圓五十五錢ノ相場ヲ以テ、吾川郡長濱町原光内某ニ小作米百二十五俵ヲ賣却シ、其ノ代金ヲ岡崎甲某、岡崎乙某ノ兩名保管セリ。

（ト）小作地返還竝ニ小作料請求訴訟提起

地主側中特ニ小地主ハ頻リニ土地返還訴訟提起ヲ主張セルモ、大地主ハ始メ提訴ニ氣乘リ薄ニテ意見一致セザリシガ調停不調トナリタル爲、數次協議シ六月二十七日ニ至リ愈々訴訟提起ニ決定シ、更ニ數次會合ヲ重ネ具體的方法ヲ協議シ、地主岡崎某外十八名ハ高知市辯護士濱田某ヲ訴訟代理人トシテ、小作人岡崎某他十七名ヲ相手取リ七月十五日繫爭土地五町一反歩ノ返還訴訟ヲ提起セリ。

（チ）西瓜ノ共同出荷

全農秋山支部ハ差押對策トシテ小作米ノ賣却ヲナシタルガ既ニ收穫期ニ在リタル西瓜ノ差押ヲ防止スル爲、森山支部長德廣某ノ協力ヲ得テ共同出荷セリ。

（リ）裁判所ノ和解勸告

土地返還訴訟提起トナリタルモ小作側ヨリ和解ノ要望モアリ、裁判所ニ於テハ一先ヅ和解ヲ試ミルコトトナシ公判ヲ延期シ、七月七日兩當事者ヲ招致シタルニ地主側七名小作人側三十名出頭シ、地主側辯護士小作人側全農幹部立會、係判事ハ地主側ノ意嚮ヲ質シタル處、各地主共小作人側ニ於テハ調停委員會ニ於ケル主張ニ依テモ明ラカナル如ク、地主ニ對スル誠意全クナク、今更調停委員會ヲ繰返スモ徒勞ナレバ調停ニハ絶對ニ應ズル能ハズト主張シ、係判事ハ兩者ニ對シ更ニ熟慮ヲ促シ、其ノ後再三和解勸告ニ努メタルモ双方相讓ラズ到底解決ノ見込立タザル爲、判事ハ昭和九年三月二十七日兩當事者ニ調停ヲ放棄シ訴訟ヲ進行スル旨ヲ通知セリ。

（ヌ）訴訟進行

前述ノ如キ經過ヲ經テ現在ハ法廷戰トナリ、地主小作人共自派辯護士ト訴訟對策ニ付キ協議シ目下訴訟審理中ニテ未解決ナリ。

發　生　昭和八年一月二十五日
終　熄　昭和八年六月十一日
關係人員　地主　一人　小作人　一人
關係土地　田　一反三畝十一歩

（一）爭議ノ原因

企救郡企救町ニ於テハ農村救濟事業トシテ同町大字志井ヨリ同町石田驛ニ至ル道路ノ新設ヲ企圖シ用地ノ買收ニ着手シタルニ、關係小作人中井手尾某ハ地主ガ何等小作人ノ了解ヲ求メズ無斷買收ニ應ジタルニ憤慨シ、全農福岡縣聯合會（總本部派）爭議部長佐保某ニ急ヲ告ゲ其ノ應援ヲ求メ之ガ對策ヲ講ジ抗爭スルニ至レリ。

時恰モ右組合ハ昭和七年十月十七日結成以來其ノ擴大强化ニ腐心シ虎視耽々トシテ野望ヲ藏シタル際ナリシカバ、好機至レリトナシ委員長田原某ハ前記爭議部長佐保某ノ報告ニ基キ之ト相謀リ直ニ常任執行委員會ヲ開催シ、緊急協議ヲ遂ゲ農村救濟土木事業ニ因ル耕地引上反對鬪爭ヲ決議シ町當局竝ニ地主ニ對シ其ノ反省ヲ促シ抗議ヲ申込メリ。

（二）小作人ノ要求、地主ノ主張

一　小作人ノ要求

（イ）適當ナル替地ヲ提供スルコト
（ロ）替地ナキ場合ハ離作料トシテ坪當金一圓五十錢ヲ支給スルコト
（ハ）昭和七年度小作料ヲ全免スルコト

二　地主ノ主張

私利私慾ノタメニ土地ヲ賣却スルモノニ非ズシテ道路敷地トシテ公共用ニ提供スルモノナレバ小作人ノ要求ニ應ズル能ハズト主張ス。

（三）手段竝ニ經過

地主ガ强硬ナル態度ヲ持シ小作人ノ要求ヲ一蹴シタルヲ以テ執行委員長田原某ハ憤怒措ク能ハズ此ノ上ハ實力ヲ以テ小作人ノ要求ヲ達スルニ如カズトナシ、二月十一日所屬組合員五十餘名ヲ動員シテ工事ノ現場ニ赴キ、運搬用ノ「レール」二十五間ヲ破壞シ該地ニ蔬菜ノ共同植付ヲ爲シ、小作地ニ小屋ヲ建テ監視ヲナスト共ニ工事妨害ノ擧ヲ敢テ爲スニ至レリ。

然ルニ町當局ニテハ本工事ニ對シ多大ノ經費ヲ支出シタル今日如何ニ農民組合ノ反對アルモ四圍ノ事情ハ之ヲ中止スルヲ許サズトテ斷然工事ヲ續行スルコトニ決シ、二月十六日更ニ工事ニ着手シタルヲ以テ、執行委員長田原某ハ翌十七日早朝再ビ組合員二百五十餘名ヲ召集シ大擧シテ現場ニ至リ從業員ヲ威嚇シテ工事ノ進行ヲ阻止シ、工事監督員及志井區長ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘ且工事場ノ周圍ニ鐵

條網ヲ張リテ從業員ノ出入ヲ禁ジ工事ノ進行ヲ不能ニ陷ラシメタリ。

之ヲ聞知シタル所轄小倉警察署ニ於テハ、事態ノ容易ナラザルヲ察シ急遽署員ヲ召集シテ現地ニ派シ、事件ノ中心人物タル田原某外百二十五名ヲ暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反トシテ檢束シ三月十一日小倉檢事局ニ送致シタル處、田原某外七名起訴公判ニ附セラレ五月十二日田原某外三名ハ懲役三箇月乃至五箇月外五名ハ罰金二十圓乃至三十圓ノ判決言渡アリタルガ、全部之ヲ不服トシテ控訴シ七月二十七日福岡地方裁判所ニ於テ前審通リ判決アリ、更ニ上告シ十一月十三日大審院ニ於テ上告棄却ノ判決アリテ直ニ服罪セリ。

斯ノ如クニシテ小作人側ハ農民組合幹部ノ收監ニ依リテ打擊ヲ蒙ルコト尠カラズ、意氣消沈シテ氣勢更ニ揚ラズ爭議ニ一頓座ヲ來シ慘敗ノ苦汁ヲ滿喫セザルベカラザル悲境ニ遭遇シタルモ、農民組合殘留幹部ハ協力シテ前後措置ヲ講ジ五月二十四日常任執行委員會ヲ開催シ熟議ヲ遂ゲ、五月二十六日常任執行委員堂本某（縣會議員）ハ企救町長某及地主小森某ト會見シ交涉ヲ重ネタル結果終ニ圓滿解決ヲ遂ゲタリ。

（四）結　末

解決條項

一　昭和七年度小作料ヲ全免スルコト

二　企救町志井所在田一反五畝歩ヲ替地トシテ提供スルコト

尙爭議費用トシテ金一封（百圓）ヲ町長ヨリ支給セリ

四二　福岡縣糸島郡前原町大字泊（小作料一時減額）

發　生　昭和八年一月十九日

終　熄　昭和九年六月二十七日

關係人員　地主　三十一人　小作人　九十八人

關係土地　田　六十八町八反五畝十五歩

（一）沿　革

前原町字泊區ハ戸數百七十戸ニシテ約十戸位ノ地主及純自作ヲ除キテハ全部小作關係ヲ有セリ。地主ハ不在地主多ク村ノ負擔從テ大ナル爲疲弊シツツアリシ泊區ハ元全農福佐聯合會ニ屬シ昭和四年爭議ヲ起シ同年以降三箇年間小作料一割減額ノ調停成立セリ。其ノ後農民組合ヲ脫シ單獨小作人組合ヲ組織シタルガ昭和七年ハ小作料ノ更新期ニ當ルト昭和六年不作ナリトノ理由ニヨリ更ニ一割五分ノ減額要求ヲ爲シ調停申立ヲ爲セリ。

然レドモ地主側ハ他村ニ比シテ小作料高率ニ非ズト稱シ反テ復舊方ヲ主張シ、又昭和六年度分ニ付テハ刈取後小作料減額ヲ要求セルモノナレバ調停條項ニ背反スルヲ以テ絕對ニ減額セズト甚ダ强硬ナ

リシガ、結局將來ノ分ニ付五分減額方讓歩セルモ小作人側之ヲ容レズシテ調停申立ノ取下ヲナスニ至レリ。仍テ地主ハ地主組合ヲ組織シ小地主四名ノ名儀ヲ以テ小作料請求竝ニ土地返還訴訟ヲ提起シ且土地立入禁止ノ假處分ヲ申請シ、其ノ口頭辯論開催サレルヤ小作人ハ周章シ日本農民組合九州同盟會ニ加入シ、第二回口頭辯論ノ日タル六月三十日再ビ小作調停ノ申立ヲ爲セリ。委員會ヲ開催スルコト三回ニ及ビ熱誠ヲ以テ調停セル結果九月十八日昭和七年ヨリ向フ三箇年間舊付口ヨリ一割減、昭和六年度ハ更ニ一割減額スルコトヲ以テ解決ヲ爲セリ。本解決ハ泊區ノ一般地主ノ規準トナルモノナレバ十一月十四日地主側ヨリ全部ノ小作人ニ對シ調停申立ヲ爲シ同條件ニテ解決セリ。然ルニ其ノ調停條項中不作ノ場合ハ刈取前檢見ヲ要求シテ双方誠意ヲ以テ解決ストノ條項アリ。小作人側ハ農民組合ノ威力ヲ借リテ昭和七年度ハ不作ナリトテ七割減ノ要求ヲ爲シ坪刈ヲ要求シ、坪刈ヲ爲スヤ豫想外ニ少カリシ爲地主側ハ坪刈方法ニ不正アリトシテ益々抗爭スルニ至レリ。

（二）爭議ノ原因

輓近農村ノ疲弊困憊其ノ極ニ達シ之ガ打開策ハ小作料ノ減額ニアリトシ、日農九州同盟會糸島郡聯合會長林某ハ前原町大字泊支部上田某ト謀リ、本部ノ應援ヲ求メテ昭和七年度小作料ヲ七割減額要求スル事ニ決シ一月十九日關係地主ニ對シ交渉ヲ開始シタルニ、地主ハ其ノ要求ヲ不當ナリトシ之ヲ拒絶セルタメ本爭議ヲ惹起スルニ至レリ。

（三）小作人ノ要求、地主ノ主張

小作人ハ昭和七年度小作料ヲ七割減額サレ度キ旨要求シタルニ、地主ハ昭和七年度ハ平年作ナルヲ以テ小作料ヲ減額スル必要ナシトテ要求ヲ拒絶セリ。

（四）手段竝ニ經過

地主ハ小作人ノ要求ニ對シ極度ニ憤慨シ二月十七日福岡地方裁判所ニ對シ昭和七年度小作料假差押ノ申請ヲ爲シ、二月二十二日小作人ノ昭和七年度小作米二百六十俵ノ假差押ヲ執行シ三月六日小作料請求ノ本訴ヲ提起セリ。

小作人側ニアリテハ地主ヨリ假差押ヲ受クルヤ日農九州同盟會副會長城戸某ノ來援ヲ求メ、之ガ對策ヲ考究シ暫時靜觀シ他日機ヲ見テ策動スルコトヲ申合セタリ。

然ルニ曩ニ本訴シタル小作料請求事件ハ三月二十二日ヨリ六月七日迄口頭辯論ヲ開クコト六回ニ及ビタルモ結審スルニ至ラズ。斯テ地主ハ假差押物件ノ換價處分ヲ申請シ六月二十一日ヨリ二日間ニ亘リ換價處分ヲ執行スルコトニ決スルヤ、農民組合ニアリテハ日農九州同盟會主事稻富某外三十餘名集合シ左記事項ヲ決議セリ。

一　被競賣物件ハ可及的小作人側ニ於テ競落スルコト

二　第三者ヨリ强テ競落セムトスル場合ハ競落物件ノ品質劣等ナル分ノミ讓リテ可及的高價ニセリ

上グル手段ヲ講ズルコト

右ノ通リ策戰計畫ヲ樹テ萬遺漏ナキヲ期シタルガ、地主側ニアリテハ近時小作人ガ農民組合ヲ背景トシ其ノ指導應援ヲ受ケ不當ノ小作料減額要求ヲナシ年々爭議ヲ反覆スルヲ以テ愈々窮地ニ陷ルベキコトヲ憂慮シ、此ノ機ニ斷乎タル態度ニ出デ禍根ヲ一掃スベシトナシ、差押物件ハ全部地主側ニ於テ競落スル計畫ノモトニ當日地主全員出動シ馬車二臺人夫四名ヲ傭入レ競賣場ニ臨ムコトニセリ。

斯テ競賣當日ハ兩者各多數集合シテ對峙シ險惡ナル形勢ヲ示シ其ノ間ニアリテ競賣ハ開始セラレ最初籾六石八斗ハ三十三圓ニテ小作人側競落シ、次ハ籾五石ヲ四十圓ニテ地主側ニ於テ競落スルニ至リ、小作人側ハ組合員多數ヲ恃ミテ虛勢ヲ張リ示威的行動ヲ爲シ漸次不穩ヲ加ヘ不祥事件突發スルヤモ計リ知ルベカラザルニ至リタルヲ以テ、所轄前原警察署長ハ小作人側幹部ヲ招致シ警告ヲ發シ競落價格ニ付地主ト協定方勸說シタルニ、小作人側ハ籾一石ニ付五圓ニテ競落シ度キ旨ヲ述ベ、地主側ハ籾一石ニ付七圓ト主張シ、種々斡旋ノ結果籾一石ニ付五圓五十錢、玄米一俵六圓五十錢ニテ小作人側ニテ競落スル協定成リ、當日十四件翌二十二日十二件平穩裡ニ競賣ヲ終了セリ。

茲ヲ以テ前原町長ハ小作官ノ指導ニ依リ同助役村農會長及小作調停委員等ト相謀リテ町ノ平和ヲ計ラムトシ前原警察署長ト協力シ根本的小作問題ノ解決ヲ策シ、地主小作人ヲ集合セシメテ相談セシニ小作人側ハ小作料ヲ改正シテ公平ニナスニ非ザレバ到底圓滿ニ解決スル能ハズト强調セル爲、地主側モ漸ク其ニ從フニ至リタルヲ以テ、昭和九年一月十日小作料調査委員會ヲ組織シ土地等級ノ査定ヲナシ、次ニ標準小作料決定ニ至ルヤ兩者ノ懸隔大ニシテ妥協ノ見込ナク、町長、署長ハ此ノ間種々折衝ヲナシ結局仲裁者側ニ於テ左ノ小作料率ヲ發表シタルニ、地主ハ漸ク承諾セルモ小作人ハ奬勵米ハ一方的恩惠ナル故一般減額率ニ算入スベシト主張シ遂ニ減額スルコトニセリ。小作料ハ改訂ノ結果從前ヨリ二割餘ノ減額トナレリ。

等級	委員會案	奬勵米（一俵一升）額	事實上決定セル小作料額
一等	一石・〇八〇	石・二七〇	一石・〇五三〇
二等	一・〇一〇	・二五二	・九八四七
三等	・九四〇	・二三五	・九一六五
四等	・八七〇	・二一七	・八四八二
五等	・八〇〇	・二〇〇	・七八〇〇
六等	・七三〇	・一八二	・七一一七
七等	・六六〇	・一六三	・六四三五
八等	・五九〇	・一四七	・五七五二
九等	・五二〇	・一三〇	・五〇七二
十等	・四五〇	・一一二	・四三八七

（五）結　末

調停條項

一　各申立人（各地主以下同シ）ハ各相手方（各小作人以下同シ）ニ對シ從來小作セシメ居レル末尾添付ノ地主、小作人、小作地及小作料等一覽表表示ノ土地ヲ昭和九年度稻作ヨリ同表記載ノ各小作料ニ改定シ向フ十箇年間（昭和十九年裏作迄）各小作セシムルコト

但シ右小作期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

二　前項改定小作料ニ從ヒ相手方カ申立人ニ納入スヘキ玄米ノ品質、容量、俵裝等ハ福岡地方裁判所昭和四年小調第四〇號小作調停條項第四項ニヨリ每年舊十二月十五日迄ニ申立人方住所ニ持參スルコト

參照　福岡地方裁判所昭和四年小調第四〇號小作繼續調停事件ノ調停條項第四項（小作料ハ一俵ノ容量ヲ四斗トシ俵裝ハ檢査米ニ準スルコト）

三　相手方カ天災不可抗力其ノ他正當ノ事由ニ依リ前項ノ期日迄ニ第一項ノ改定小作料ヲ納入シ難キ事情アルトキハ其ノ理由及相當期ヲ定メテ豫メ申立人ノ諒解ヲ求ムルコト

四　相手方カ第二項所定ノ期限後小作料ヲ納入スルトキハ時價ニ換算シタル代金ヲ以テ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得

一　右ノ場合ニ於テハ申立人モ亦時價ニ換算シタル代金ヲ以テ之カ支拂ヲ要求スルコトヲ得

五　相手方カ其ノ粗作ニ因ラサル天災不可抗力ニ依ル減收ノ場合ニ於テ第一項ノ改定小作料ノ減額ヲ要求セムトスルトキハ、鎌入前相當期間內（十日位前）申立人ニ對シ各現地ニ立會ヲ求メ双方實地檢見ノ上割引額ヲ協定スルコト、無斷鎌入後ハ割引要求ヲ爲スコトヲ得ス申立人カ相手方ノ右立會申込ニ對シ正當ノ理由ナク之ニ應セサリシトキハ相手方ノ割引要求ヲ承諾シタルモノト看做スルモノノ裁決ニ從フコト

六　前項前段ノ場合ニ於テ割引額ノ協定調ハサルトキハ各當事者ハ前原町長又ハ同町長ノ指定シタル代金ヲ以テ之カ支拂ヲ要求スルコトヲ得

七　申立人ハ相手方カ本件小作地ニ對スル昭和七年度分滯納小作料ハ從前ノ小作料ヨリ六割ヲ減額スルコト

相手方ハ右減額ヲ受ケタル昭和七年度分滯納小作料ヲ豐凶ニ不拘昭和九年度ヨリ向フ四箇年間ニ分割納入スルコト

但シ納期ハ每年度其ノ年ノ翌年一月末日限リトスルコト

八　申立人ハ前原町泊第一區ノ相手方中假差押處分ヲ受ケ居ルモノニ對シテハ昭和七年度分滯納小作料ハ從前ノ小作料ヨリ七割五分ヲ減額スルコト、相手方ハ減額ヲ受ケタル爾餘ノ小作料ヲ申立人ニ對シ卽納スルコト

相手方ハ右減額ヲ受ケタル昭和七年度分滯納小作料全額ヲ一時ニ納入シ難キトキハ昭和九年度ヨリ向フ三箇年間ニ分割納入スルヲ得ルコト

但シ右分割納入ノ場合ニ於テハ從前ノ小作料ノ七割減トナシ納期ハ每年度其ノ年ノ翌年一月末日限リトスルコト

九　申立人ハ相手方カ本件小作地ニ對スル昭和八年度分滯納小作料ハ之ヲ第一項改定小作料ト同額ニ減額スルコト

相手方ハ申立人ニ對シ右減額ヲ受ケタル昭和八年度分滯納小作料ヲ昭和九年十一月末日迄ニ完納スルコト

但シ相手方馬場某ヨリ申立人寺田某ニ對スル昭和八年度分滯納小作料ニ限リ前段所定ノ期日ヲ待タス遲滯ナク之カ納入ヲ爲スコト

小作人側總代ハ馬場某ニ右滯納小作料ヲ遲滯ナク納入セシムル樣努力スルコト

一〇　相手方ハ申立人ノ同意ナクシテ本件小作地ヲ轉貸スルヲ得サルコト

一一　相手方カ以上ノ各條項ニ違反シタルトキハ申立人ノ請求ニ應シ異議ナク各小作地ヲ返還スルコト

一二　申立人ニ於テ家政整理ノ爲本件小作地賣却ノ必要生シタルトキハ當事者双方協議ノ上相手方ハ申立人ニ之カ返還ヲ爲スコト

右返還ノ協議調ハサルトキハ前原町長又ハ同町長ノ指定シタル者ノ裁決ニ從フコト

一三　本件ニ關シテ提起セル訴訟ハ之ヲ取下クルコト

四三　佐賀縣三養基郡鳥栖町大字眞木（小作地返還）

發　生　昭和八年三月一日

終　熄　昭和八年五月十五日

關係人員　地主　一人　小作人　一人

關係土地　田　二反七畝二十九歩

（一）爭議ノ原因

地主大石某ハ大正十五年頃ヨリ小作人ノ亡父重野某ニ前示田地ヲ小作セシメ居タルガ重野某亡後ハ嗣子ニ於テ引續キ耕作シツツアリシモ、數年前小作期間到來セルヲ以テ地主ハ昨秋田地ノ返還ヲ要求セシモ小作人ハ之ニ應ゼズ。因テ地主ハ昨秋稻收穫後無斷ニテ麥ノ蒔付ヲ實行シ小作人ニ對シテハ代地ヲ提供シ（前示田ノ隣地田二反歩）居ルモ小作人ハ元ノ耕作地ヲ繼續耕作スル旨ヲ主張シテ之ニ應ゼザルニ因ル。

（二）爭議ノ經過

小作人ハ元ノ小作地ノ耕作ヲ主張シテ譲ラザルニ付地主ハ三月一日佐賀地方裁判所ニ調停申立ヲ爲セリ。

地主ノ申請ニ基キ三月十八日午後一時ヨリ鳥栖町八坂公會堂ニ於テ小作調停委員會開設ノ結果、地主側ハ本年ヨリ引續キ四年間從來通リ耕作セシムルコトニ譲歩シタルモ、小作人ハ引續キ五箇年間耕作ヲ主張シ譲ラザルタメ遂ニ調停決裂ニ至リタリ。仍テ地主大石某ハ同月三十一日佐賀區裁判所ニ土地返還訴訟ヲ提起シタリ。

（三）結末

右ニヨリ第一回公判ヲ五月十六日開廷ノ筈ナリシガ、之ニ先立チ全農福佐聯合會々長重松某ハ小作人重野某ノ依頼ニ依リ代理トシテ地主ヲ同道シ縣廳ニ小作官ヲ訪問シ懇談ノ結果、別記ノ如キ契約書ヲ作成シ無事解決シタルヲ以テ同日訴訟ハ地主ヨリ取下ゲタリ。

契約書

一　小作人重野某ハ從來地主大石某ヨリ小作シ來リタル左記物件ノ土地ヲ昭和八年六月十五日限リ地主大石某ニ對シ返還スルコト

（一）三養基郡鳥栖町大字眞木字日渡四六九番

田地　一反九畝十一歩

（二）右同四七〇番

田地　八畝十八歩

二　地主大石某ハ右第一項物件ノ代地トシテ左記物件ノ土地ヲ地主吉武某及塚本某竝ニ小作人田中某及天本某ノ諒解ヲ得テ小作人重野某ニ對シ提供スルコト

（一）三養基郡鳥栖町大字眞木字鉾五五〇番

田地　一反五畝二十歩、地主吉武某、小作人田中某

（二）右同字日渡四九六番

田地　一反二畝十四歩　地主塚本某、小作人天本某

三　本契約確保ノタメ本書二通ヲ作成シ地主小作人ニ於テ各一通宛保管スルモノトス

四四　熊本縣飽託郡日吉村大字野田（小作繼續）

發生　昭和八年四月十八日

終熄　昭和八年五月二十三日

關係人員　地主　一人　小作人　一人

關係土地　田　六反二畝十七歩
　　畑　四畝歩

（一）爭議ノ原因

本件土地ハ寺院ノ所有ニシテ昭和六年十二月綠川改修ノ爲メ河川敷トシテ内務省ニ買收セラレタルモ未ダ工事着手ナカリシ爲、他ノ小作人等ト協議ノ上舊地主タル寺院ニ對シ昭和七年度小作料ヲ五割減トシタリ。

然ルニ本件土地ハ賣買手續遲延シ漸ク昭和七年十二月ニ至リ内務省トノ間ニ所有權移轉手續ヲ了シタルニ、小作人ハ他ノ小作地同樣昭和六年中ニ所有權ノ移轉アリタルモノト信ジ七年度小作料ノ半減ヲ强硬ニ主張シタリ。

然ルニ地主ハ右要求ハ本件小作人ガ從來ヨリ主謀者トナリ策動シタルモノト信ジ此ノ際同人ノ小作地全部ヲ引上ゲ以テ同地方一般ノ爭議ヲ防止スルニ如カズト爲シ、之ガ返還ノ通告ヲ爲シ爾來兩者著シク相反目スルニ至レリ。

（二）小作人ノ要求、地主ノ主張

地主タル寺院ハ檀家總代ヲ召集シ其ノ決議ニ基キ飽ク迄返地ヲ要求シ、小作人亦絶對ニ返還セズト主張セリ。

（三）手段竝ニ經過

地主ハ檀家總代ノ決議ニ基キ昭和八年四月十六日内容證明郵便ヲ以テ宅地ヲ除ク田畑全部ヲ卽時返還セラレ度キ旨ノ通知ヲ發シ、小作人亦四月十八日熊本地方裁判所ニ小作繼續調停ノ申立ヲ爲シタリ。

裁判所ハ小作官ト協議ノ上委員會開催ニ決シ、利害關係人トシテ檀家總代ノ出頭ヲ求メ調停ヲ開始セルモ兩者ノ妥協困難ニシテ成立ノ見込ナキ爲更ニ續開スルコトトシ、第二次委員會ニ於テ極力地主讓歩ヲ勸メタル處遂ニ左記條項ヲ以テ解決シタリ。

（四）結末

調停條項

一　相手方（地主）ハ申立人（小作人）ニ對シ申立人ニ於テ目下小作中ノ相手方所有ニ係ル熊本縣飽託郡日吉村大字野田字大境四百八十番田三畝二十六歩（以下省略合計面積田五反三畝十八歩、畑四畝歩）ハ從前通リ引續キ小作料一箇年玄米（四等米）八石九斗一升四合ニテ小作ヲ爲サシムルコト

二　申立人カ目下小作中ニ屬スル相手方所有ノ熊本縣飽託郡日吉村大字野田字古町四百七十一番田八畝二十歩ニ付テハ昭和七年度（同年度麥ノ收穫ニ至ル迄）ヨリ向フ一箇年間ハ之ヲ相手方ニ返還シ置キ同期經過後重ネテ從前通リ申立人ニ於テ之ヲ小作料一箇年玄米（四等米）一石四斗三升四合ニテ小作ヲ爲スコト

三　小作料支拂ノ場所ハ相手方住所タルコト

四五　大分縣宇佐郡糸口村大字上時枝（小作地返還）

發　生　昭和八年一月三十一日
終　熄　昭和八年六月二十八日
關係人員　地主　一人　小作人　一人
關係土地　田　二反五畝二歩

（一）爭議ノ原因

地主ハ小作人ニ對シ昭和三年六月三箇年間ノ契約ヲ以テ本件土地ト合セ計三反二畝二十三歩ヲ小作セシメタルガ期限ニ至リ七畝二十歩ヲ返還シタルノミニテ殘二反五畝二歩ハ依然トシテ耕作ヲ續ケ、地主ノ屢々ナル返還要求ニモ應ゼズ却テ絶對不返還ヲ放言シ抗爭的態度ニ出デタルニ因ル。

（二）爭議ノ經過

地主ハ田三反三畝歩、畑三反歩ヲ有シ元雜貨商ヲ營ミ居リタルモ營業不振ノ爲商業ヲ廢シ農業ニ志シタルモノナルガ、小作人ノ强硬ナル土地不返還ニ遭遇シテ困惑シ遂ニ土地返還請求訴訟ヲ提起スルニ至レリ。（本件土地ハ本件地主ノ悴ガ農學校在學中手不足ノ爲貸付ケタルモノニシテ農業ニ志シタル今日トナリテハ絶對ニ必要ナル土地ナリ殊ニ家事上ノ都合ニテ妻ヲ遠ク滿洲ニ置キ老父ト農學校在學中ノ悴トノ三人ニテ極メテ不自由ナル生活ヲ爲セリ）

是ニ對シ小作人ハ日本農民組合九州同盟ニ加盟シ同組合ノ指導ノ下ニ小作調停ヲ申立テタリ。

（三）結　末

同年六月二十八日小作調停委員會ヲ開催シ調停ノ結果左記條項ニテ圓滿解決スルニ至レリ。

調　停　條　項

一　相手方ハ自己所有ニ係ル宇佐郡糸口村大字下時枝字コブシロ百四十五番田一反一畝十六歩ヲ一箇年ノ小作料三俵三斗ニテ昭和八年、同九年ノ二箇年間竝ニ同村大字下高字下津井五百三十七番田一反三畝十六歩ヲ一箇年ノ小作料三俵一斗ニテ昭和八年ヨリ同十年迄三箇年間ノ期限ニテ申立人ニ小作セシムルコト

一　申立人ハ前記字コブシロ百四十五番ノ田地ヲ二箇年ノ小作期間經過ノ昭和十年三月十八日ニ字下津井五百三十七番ノ田地ヲ三箇年ノ小作期間經過ノ昭和十一年三月十八日ニ相手方ニ各返還スルコト

一　小作米ハ檢査濟四等米一俵四斗入ニシテ毎年一月十五日マテニ相手方住所ニ持參シテ支拂ヲ爲スコト

一　天災、地變其他不可抗力ニ因リ著シク減收ノ爲メ契約小作料ヲ支拂フコト能ハサル見込ノ場合ハ鎌入前當事者双方立會檢見ノ上小作料ノ減免額ヲ協定スルコト

若シ當事者間ニ於テ協定調ハサルトキハ調停委員某々兩氏ノ裁決ヲ受ケ當事者ニ於テ異議ヲ申サルコト

四六　鹿兒島縣伊佐郡山野村字平出水（小作權確認）

發　生　昭和八年十一月二十五日
終　熄　昭和九年五月九日
關係人員　地主　二十人　小作人　四人
關係土地　畑　三町四反一畝二十歩

（一）爭議ノ原因

平出水部落ニ於テハ明治二十二年頃當時ノ部落民全體ノ名義ニテ官有林野約千町歩ヲ拂下ゲ、爾來部落民ハ此ノ地ヲ隨意ニ開墾シテ耕作ヲナシ、之ガ小作料ハ部落總代ニ納メ、總代ハ此ノ小作料ノ收益ヲ以テ公簿面上ノ共有名義者ノ立替タル公租公課等ノ支拂ヲナシ殘餘ハ部落公共費ニ充テ居タリシガ、數年前ヨリ共有名義者等ハ之ヲ分割シテ夫々造林ヲ行ヒ、最近ニ至リ小作人等ノ耕作竝ニ開墾ヲ禁止シタルタメ大イニ驚キ其ノ不當ヲ責ムルモ、地主等ハ共有名義ヲ楯ニ小作人等ノ要求ヲ拒絶シタルニ因ル。

（二）小作人ノ要求、地主ノ主張

小作人側ハ表面ニハ四名ニテ地主二十名ヲ相手トシテ對抗スルモノナルモ、本問題ハ部落小作人階級百餘名ニ重大ナル影響アルモノナレバ我々ハ飽クマデモ舊來ノ慣習タル自由開墾小作ノ制度ヲ死守シ、地主ノ反省ヲ促サザレバ生活ヲ維持シ難キニヨリ、從來通リノ方法ニテ永久小作權ヲ設定シタシト云フニアリ。

之ニ對シ地主側ハ小作人側ハ部落有地ナリト云フモ此ノ土地ハ我々ノ父ノ時代ニ於テ當時ノ部落民ガ各自同額ノ金ヲ出シテ共有地トシテ拂下ゲタルモノニシテ、當地ハ部落民全體ニテ小作人ノ主張ノ如ク隨意耕作シ居タリシガ、年ヲ經ルニ從テ分家者、移住者等增加スルタメ共有者ガ分割管理スルコトトナリタルモノニシテ、小作人ノ要求ハ絶對ニ容レルコト能ハズト主張セリ。

（三）手段竝ニ經過

小作人側ハ全國農民組合鹿兒島縣聯合會伊佐郡支部準備會ヲ組織シテ地主側ニ對抗スルコトトナリ、先ヅ第一ノ手段トシテ地主ガ小作地ニ植付ケタル杉、松、檜等ヲ伐採シテ小作地ヲ保護シ、山林ヲ切開キテ炭燒ヲ始メタルタメ、地主側ヨリ小作人等ヲ告訴シタルヲ以テ、小作人側代表者數名ガ部長派出所ニ出頭シテ內情ヲ具申シタルニ部長モ事態ノ容易ナラザルヲ憂ヘ居タリシガ、小作官ノ奬メニヨリ小作人側ヨリ小作調停ノ申立ヲナシタルヲ以テ小作調停委員會ヲ開催シ調停ニ着手シタル處、繫爭地ハ土地臺張ニハ登載シアルモ字圖ニハ記載サレ居ラズ、加之一ツノ字圖ノ上ニ二人ノ所有者ア

第二一　小作法調停ニ依ル調停事例

リテ益々複雑ノ關係ヲ生ズルニ至レリ。仍テ當事者外ノ所有名義者ヲ利害關係人トシテ出頭セシメテ事實ノ調査ヲ爲シ極力調停ニ努メタルモ容易ニ解決ノ曙光見ヘザリシガ、調停委員會ヲ重ヌルコト三回ニ及ビ漸ク妥協成立シ左記條項ニヨリ圓滿解決ヲ見ルニ至レリ。

（四）結末

調停條項

一　利害關係人半田某（土地買受人）ハ畑九反一畝歩ヲ無償ニテ利害關係人橋口某ニ賣買名義ヲ以テ所有權ヲ移轉スルコト

二　利害關係人橋口某ハ利害關係人半田某ノ今日迄納付シ來レル租稅ハ所有權移轉登記ト同時ニ支拂フコト

三　申立地ヲ三等分シ其ノ一ヲ相手方ノ共有トシ其ノ二ハ橋口某ノ所有タルコトヲ確認スルコト

四　橋口某ハ第一項ノ自己所有地トナリタル二分ノ一ヲ山野村役場ニ寄附スルコト

五　申立人等ハ從來通リ申立地ノ小作ヲナスコトヲ得ルコト

但シ小作料ハ本事件ニ關與シタル小作調停委員ノ定ムル條件ニヨリ各々其ノ地主ニ納付スルコト

一　北海道上川郡神樂村（小作地返還）

爭議發生　昭和七年十二月二十日
調停申立　昭和八年四月十八日
解　決　昭和八年五月二十四日
關係人員　爭議　地主　一人　小作人　四人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）
關係土地　爭議　畑　二町四反二十歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

本件地主タル帝室林野局札幌支局ハ大正四年赤松某（本件申立人ノ一人）及村上某ノ兩名ニ對シ各二町四反二十歩ノ苗圃豫定地ヲ賃貸シタルガ、村上某ハ大正十年右土地ノ借地權ヲ金一千三百圓ニテ本件申立人タル中本、荒島及荒澤ノ三名ニ讓渡セリ（荒島及荒澤ノ兩名ニ就キテハ直接ノ讓受ニ非ズシテ荒島ハ小城某ヲ通ジ、荒澤ハ北谷某ヲ通ジテ讓受ケタリ）。

然ルニ地主札幌支局ガ大正十二年右村上名義ノ苗圃豫定地ヲ引上グルニ際シ、協議ノ結果借地權讓受人タル本件申立人三名ハ赤松某ノ借地ニ割込ミ、前記記載ノ本件土地二町四反二十歩ヲ結局四名ガ

耕作スルコトトナレリ。卽チ

一　赤松某ガ一町二段十歩（事實小城某ナルモノ之ヲ轉借シ、赤松ニ對シ毎年小作料金百十圓ヲ支拂フ）

二　中本、荒島、荒澤ノ三名ガ殘一町二反十歩ヲ夫々耕作シテ今日ニ至レルモノニシテ、其ノ賃借條件ハ左ノ如シ。

（一）一箇年二町四反二十歩ノ賃料ヲ金六十四圓九十八錢トスルコト

（二）神樂村稅、特別稅反別割ハ賃借人ノ負擔トスルコト

而シテ本件申立人等ハ本件土地ニ蔬菜ヲ栽培シ、生產物ヲ旭川市ニ販賣シ居ルガタメ反當少クモ金五十圓、多キハ金百圓ノ收穫ヲ擧ゲツツアルモノニシテ、申立人等ノ昭和七年度ノ耕作反別ハ

中本某　一町四反歩（內苗圃豫定地四反三歩）

荒島某　二町四反歩（同　四反三歩）

荒澤某　一町四反歩（同　四反四歩）

赤松某（實際ハ小城耕作ス）一町二反十歩（同　一町二反十歩）

ニシテ各人共帝室林野局ノ苗圃豫定地ハ各自經營反別中主要ナル地位ヲ占メツツアル處ナリ。

然ルニ相手方ハ昭和七年十二月二十日以降口頭又ハ書面ヲ以テ土地ノ明渡ヲ求メ、御手當金ト稱シテ作離料金三百四十七圓四十錢ヲ支給スベシト主張スルモ本件申立人等ハ之ニ應ゼズ、昭和八年四月十八日左記事項ノ調停ヲ求ムル旨依法調停申立ニ及ビタリ。

一　小作契約ヲ繼續スルコト

二　或ハ代地ヲ特別ニ賃借スルコト

（二）調停ノ經過

五月四日神樂村役場ニ於テ第一回ノ調停委員會ヲ開キ當事者双方ノ意見ヲ確メタル處、本事件ハ結局作離料ノ支給ニ依ル土地返還ノ外解決ノ途ナキモノト認メ調停ヲ進メタルニ、地主側ニ於テハ作離料ノ支給ハ之ヲ爲スベキコト、從來ノ賃貸料ハ破格ノ低率ナリシコト、小作人側ノ求ムル代地ナルモノハ林野局トシテハ他ニ使用目的確定シ居ルヲ以テ之ヲ賃貸シ得ザルコト等ヲ主張スルニ對シ小作人側ハ

一　申立人中ノ三名ハ事實金一千三百圓ヲ以テ賃借權ヲ讓受ケタルモノナルコト

二　不況凶作續キノ折柄土地引上ハ小作人ニ對シ非常ニ苦痛ナルコト

三　命令ニヨル返地時期ガ十二月末日トアリテ既ニ翌年ノ耕作準備ヲ了シタル後ニシテ地主側ノ處置ガ農業ニ理解ナキコト

四　地主ハ先年御手當金三百四十七圓餘（作離料）ヲ支給シテ土地引上ヲ爲シタル賃借人信原某ノ事

例アリト主張スレドモ右ハ凶作年以前ノコトニ屬シ且返地時期ノ點ヨリ觀テ今回ノ事件ノ先例ト爲スノ不適當ナルコト

等ヲ主張シ双方一歩モ譲ル所ナカリシモ、委員會ヲ重ヌルコト二回ニシテ左記條件ヲ以テ調停成立セリ。然レドモ相手方帝室林野局札幌支局ノ懇望ニヨリ形式上申立人等ヨリ一應本件調停申立ヲ取下ゲシメテ事件終了セリ。

(三) 結末

解決條項

一 申立人等ハ從來ノ小作地タル本件土地ヲ五月二十四日限リ相手方ニ返還スルコト

但シ本件地上ノ物件即チ立毛、厩肥、肥料溜竝ニ肥料溜中ノ人糞ハ之ヲ申立人等ニ於テ直ニ搬出スルコト

二 申立人中本所有ノ肥料溜ハ七月末日迄、又荒島所有ノ肥料溜ハ六月末日迄搬出ヲ猶豫スルコト

二 相手方ハ申立人等四人ニ對シ六月六日限リ金五百圓ヲ支給スルコト

備考 第二項ノ金五百圓ハ作離料ニシテ、從來ノ小作料年額金六十五圓ニ比シ七箇年分ノ小作料ニ相當ス。
而シテ帝室林野當局ニ於テハ右金五百圓ノ内三百四十七圓ハ御手當金、金百五十三圓ハ肥料代トシテ事務的ニ分離セリ。

二 靑森縣南津輕郡富木館村大字富柳 (調停條項履行)

爭議發生 昭和七年九月中

調停申立 昭和八年七月二十八日

解決 昭和八年九月十四日

關係人員 (爭議 地主 一人 小作人 二人(父子))
(調停 右ニ同ジ(小作人申立))

關係土地 (爭議 田 四町九畝一歩 畑 六反五畝二十四歩 宅地 三反二十三歩)
(調停 右ニ同ジ)

(一) 爭議ノ概況

本件申立人小笠原某(甲)及同某(乙)ハ父子ニシテ同一家族ナルガ同人等ハ數年前親族某ノ負債ノ保證トシテ自己ノ所有地タル本件土地ヲ擔保ニ提供シタリ。然ルニ右親族某ハ破產シ右負債ハ同人等ガ全部負擔セザルベカラザルニ至リタルガ、借入當時ハ數千圓ニ過ギザリシモ昭和七年ニハ既ニ一萬八千圓餘ノ債務額ニ累加スルニ至レリ。

相手方タル金城株式會社ハ金貸ヲ業トスルモノニシテ、主ニ農村ノ不動產ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲シ、

期限ニ至レバ容赦スルコトナク直ニ差押競賣ヲ執行スル等營利ノ爲ニハ手段ヲ擇バザル嫌ヒアリ、本件モ其ノ例ニ漏レズ昭和七年秋土地ト共ニ毛上、住宅ニ至ル迄差押ヲ爲シ、競賣ノ際ハ債權者タル右會社ニ於テ之レヲ競落シ、遂ニ申立人等ヲソノ住家ヨリ立退カシメントスルニ至リタリ。

昭和八年五月右會社支配人盛某ハ自ラ申立人等ニ立退ヲ迫リ、兩者ノ感情激發シタル結果、遂ニ刑事問題ヲ惹起スルニ至リタリ。

而テ昭和八年度ハ右金城會社ハ自ラ人夫ヲ使用シ四町餘ノ耕地ノ耕作ニ着手セルモ申立人モ亦耕地ニ立入リ頻リニ爭ヲ續ケタルタメ、會社ハ遂ニ土地立入禁止假處分ヲ申請スルニ至リタリ。

申立人等ハ本件土地ヲ奪ハルルニ於テハ全ク生活ノ途ヲ失フ所以ナルヲ以テ相手方ニ對シテ人ヲ介シ百方和解ノ途ヲ講ジタルモ成ラズ、遂ニ之ヲ小作調停ニ依ルコトトシ、弘前支部(小調)第七二號小作繼續事件トシテ調停ヲ申立タリ。

右ノ調停ハ四回ノ期日ヲ經タル後漸ク六月二十日左ノ條件ニテ調停成立シタリ。

調停條項

一　申立人等ハ昭和八年七月二十日迄ニ金一萬五千圓ヲ相手方會社ヘ持參シ同會社ヨリ左記不動産ヲ買受ケ同會社ハ之ニ應スルモノトス

二　申立人等カ右ヲ履行セサルトキハ申立人等ハ相手方會社ニ對シ左記不動産ヲ卽時引渡スモノトス

三　相手方會社ハ申立人等ニ對シ有スル殘債權ハ之ヲ拋棄スルモノトス

四　申立人等ハ相手方會社ニ對シ提起シタル靑森地方裁判所弘前支部昭和八年(ワ)第一一號(ヨ)第三號事件ハ之カ取下ヲ爲スヘク此ノ場合ニ於ル訴訟費用ハ各自辨ト

然ルニ申立人等ハ本件土地ヲ購入ノ約束ヲ爲シタリト雖モ自己資金ハ一錢モナキ實情ニアリ、調停成立ヨリ買受期日ニ至ル一箇月間資金ノ融通ニ狂奔シタルガ成ラズ、期日タル七月三十日朝漸ク靑森市阿保某ニ依ツテ申立人等ニ小作セシムル條件ノ下ニ買取ノ承諾ヲ得、賣買價格一萬五千圓ノ一割一千五百圓ノ手付金ヲ抱キテ急遽相手方金城會社ニ驅付ケタルガ、相手方會社ハ支配人不在ト云ヒ或ハ調停ノ條項ニハ期日ニ全額ヲ支拂フ約束ナレバ內金ハ受取リ難シト主張シ、遂ニ同日ハ取引ヲ行フニ至ラズ、申立人等ハ已ムヲ得ズ買主ノ諒解ヲ求メテ數日後更ニ全額ヲ持參シタルガ相手方ハ旣ニ期日ヲ逸シタル上ハ賣渡ニ應ズル義務ナシト稱シ申立人ノ要求ヲ拒絕セリ。其ノ後實情ヲ調査スルニ相手方會社ハ一應ハ賣渡ノ調停ニ應ジタルモ、其ノ眞意ハ全ク申立人ニハ、買受ノ能力ナキモノト見、又假リニ期日ニ於テ全額ヲ持參スルモ必ズ本人ガ買受人ニアラザルベク、然ラバ條項ニハ申立人ト限定シアルヲ以テ之ニ據リ賣渡ヲ拒否スベシトノ意嚮ニテ全ク當初ヨリ誠意ナカリシモノニシテ、申立人等ハ地方慣習ニ依リ期日ニハ一割ノ手付金ヲ支拂ヒ殘額ハ賣買登記ノ際ニ支拂フベキモノト心得居リ

タルモノニシテ、恰モ相手方ノ陥穽ニ墜チタリト謂フベク、而モ申立人ハ之ヲ訴訟ヲ以テ爭フ資力ナク、申立人ノ立場ハ實ニ憐憫ニ堪エザルモノアルヲ以テ弘前支部昭和八年(小調)第七九號事件トシテ再調停スルニ至リタルモノナリ。

(二) 調停ノ經過

七月三十一日弘前支部ニ於テ第一回調停委員會ヲ開キタルニ申立人及相手方會社支配人盛某出頭、調停ヲ進メタルモ相手方ハ頑トシテ應ゼズ、第二回期日ニ於テ相手方會社々長長谷川某ノ出頭ヲ求メ、再ビ交渉シタルニ本年度作毛收穫後ニ賣渡ニ應ゼント主張シ、讓歩スルトコロナキヲ以テ、次回ニ延期スルコトトシ、第三回期日ヲ八月十五日ト定メ、此ノ間小作官補ハ相手方會社ニ長谷川社長ヲ訪問シ、斯ノ如キ事件ガ農村事情ヲ惡化セシムル理由ヲ說示シ、妥協スベク懇談シタルニ、右長谷川ハ本件ハ支配人ト申立人間ノ暴行事件以來ノ感情未ダ融和セズ、且本年度ノ收穫ハ少クトモ二千圓餘アリ、他ノ重役ノ意見ニテハ只今ニテハ全ク賣渡ノ意志ナキモ折角ノ調停ナレバ會社ノ利益二千圓ノ半額一千圓丈ケヲ增額セバ直ニ賣渡スベシト主張ス、仍テ折衝ノ結果之ヲ五百圓ニ讓歩セシメタリ。

第三回期日ニ於テハ申立人ハ五百圓ノ增額ハ已ムヲ得ズ承知スベキモ一應買主ノ承諾ヲ求ムル必要アリトシテ延期ヲ求メタルヲ以テ、次回ニ決定スルコトトシ九月十四日第四回期日ニ於テ五百圓ヲ增額シテ賣買スルコトトシテ調停成立シタリ。

(四) 結末

調停條項

一 相手方ハ當廳昭和八年(小調)第七一號小作繼續調停事件ニ付昭和八年六月二十日成立セル調停條項記載ノ不動產ヲ金一萬五千五百圓ニテ申立人等若クハ其ノ指定人ニ賣渡スモノトス

右賣買期限ハ昭和八年八月三十一日限リトス

申立人等若クハ其ノ指定人ハ右賣買期限內ニ期日ヲ定メ相手方ニ通知シ賣買代金ハ當日本件土地建物ノ所有權移轉登記手續完了ト同時ニ授受スルコト

二 相手方ハ申立人等ニ對シ有スル殘債權ハ之ヲ拋棄スルコト

但シ從來ノ事柄ニ原因シ本件物件及昭和七年度稻毛處分ニ關シ訴訟其ノ他苦情請求等ノ係爭事件ヲ起シタル時ハ此ノ限リニアラス

三 本件賣買成立シタルトキハ作毛其ノ他地上物件ハ悉ク買受人ノ所有ニ歸シ相手方ハ小作料損害金其ノ他ノ請求ヲナササルコト

四 本件土地建物ニ對スル一切ノ公課金ハ本件賣買登記成立期日ニ限リ各納期ニ從ヒ夫々賣渡人買受人ノ負擔トス

五 本件物件中相手方ガ工藤某、三浦某(合計小作料十六俵二斗)ニ小作セシメ置キタル左記ノ土地ハ

昭和八年度ニ限リ小作料ノミノ取得トス

三　岩手縣岩手郡厨川村大字土淵瀧澤村大字大澤（小作料一時的減額）

爭議發生　昭和八年八月二十二日

調停申立　昭和八年八月三十日

解　決　昭和八年九月十八日

關係人員　爭議　地主　二人　小作人　五人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地　爭議　田　二町七反三畝十八歩　宅地　二百十二坪
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

係爭地ハ古クヨリ本件地主タル照井家ノ所有ニシテ本件小作人等ハ其ノ先々代ノ頃ヨリ之ヲ借受ケ今日迄約百年ノ長年月ニ亘リ小作ヲ繼續シ來リタルモノナリ。

而テ小作料ハ以前ヨリ苗代附ニテ一人打（約八畝歩）ニ付玄米七斗四升ノ割合ト定アリ、爲ニ其ノ本田ニ對スル苗代不足シタル場合不足分ヲ他ヨリ借入レタル場合ニ於テモ其ノ小作料ハ右小作料中ヨリ地主ニ於テ支拂フヲ例トセリ。

然ルニ近年ニ至リ該耕地ハ用水路不完全トナリ充分ナル灌漑ヲナス能ハズ、年々之ガ修繕ニ勘ナカラザル勞力ト費用ヲ要シ、小作人等ハ到底之ガ負擔ニ堪エ得ザル事情生ジタルニヨリ、小作人等ハ地主ニ對シ屢々灌漑水路ノ修繕工事施行ヲ要求シタルモ地主ハ言ヲ左右ニシテ之ヲ行ハズ、却ツテ昭和五年ニ至リ係爭地ノ小作料ハ隣接地ノ其レニ比シ低率ナルニヨリ隣地並ニ値上シ本田一反歩ニ付玄米一石ト改メ、更ニ從來小作料ヲ徵收セザリシ苗代及宅地ヨリモ新ニ小作料ヲ徵收スルコトトスベク交涉シタルモ、小作人ハ容易ニ承諾セズ、依テ地主ハ該耕地ハ右ノ條件ニテ他ニ貸付スルニヨリ返還スベシト强硬ニ迫リタル爲、小作人等ハ餘儀ナク其ノ本家ニ當ル藤倉某ニ之ガ交涉ヲ依賴シ、藤倉ハ直ニ地主ニ對シ小作人等ノ窮狀ヲ訴エ且地主ノ主張ハ時勢ヲ無視シタル無暴ナル企ナレバ之ヲ撤回セラレ度シト交涉シタル處、係爭地ハ既ニ全部館澤某ニ賣渡シタリト述ベタルニヨリ、更ニ同人ニ交涉シ種々折衝シタル結果、藤倉某ハ將來小作關係ニ付全責任ヲ負フコト、小作料ハ前地主照井ノ主張通リ承認スルコトニ協議整ヒ昭和六年三月二十八日藤倉ト館澤トノ間ニ賃貸借契約ヲ締結シ、前地主照井ハ契約保證人トナレリ。尤モ實際ニ於テハ係爭地ノ所有權ハ照井ニ在リ、照井ト館澤トノ關係ハ、後者ハ前者ノ債權者ニテ兩者ノ間ニハ係爭地ヨリ生ズル小作料ハ之ヲ債務ノ支拂ニ充當セシムル爲、直接館澤ニ納入セシムルコト及ビ債務ノ完全ナル履行困難ナル場合ニハ係爭地ヲ全部引渡スコトニ契約成リタルモノニテ從ツテ賃貸借契約ハ形式上館澤ト藤倉トノ間ニ締結シタルモノナリ。尚右契約締結

ノ際地主ニ於テ耕地ノ水利ニ付灌漑水路ノ修繕工事ヲ完全ニ施行スル口約ヲナセリ。

過去ニ於テ右ノ如キ事情ニ在リシ土地ニ對シ其ノ後地主ハ何等水路ノ修繕ヲナサズ。然ルニ昭和六年ハ灌漑水不足ニテ不作トナリ、地主ハ契約小作料ノ二割ヲ減免スルコトヲ承認シタルモ尚小作者ハ一石八斗ヲ滯納シ、更ニ昭和七年ニ於テモ灌漑用タル越前堰ノ留ノ破損ニヨリ多大ノ勞費ヲ要シタル上ニ收穫充分ナラザレバ契約小作料全額ヲ納入スル能ハズトシ、五石八斗七升ヲ滯納シ、五年度分ノ滯納額六石一斗五升ト合スレバ總額十三石八斗二升トナレリ。

而テ地主ハ最近甚シク經濟的窮迫ニ陷ルト同時ニ債權者ヨリノ債務ノ嚴シキ督促ニ堪エ兼ネ、本年ニ至リ再三再四小作者ニ對シ滯納小作料ノ納入ヲ請求シタルモ小作者ハ地主ノ要求ヲ不當ナリトシテ應ゼズ、遂ニ兩者ノ交涉決裂セリ。

小作者ノ要求ハ

一　契約小作料ハ舊來ヨリ長キ間苗代附ニテ一人打(約八畝歩)玄米七斗四升ノ割合ニ定マレルモノヲ昭和五年ヨリ値上シ、本田一反歩ニ付玄米一石及苗代小作料モ七畝三歩ニ對シ二石二斗二升ト定メ、地方ニ於テ普通行ハルル苗代附一人打玄米八斗ニ比シ高率トナリタルヲ以テ相當契約小作料ヲ減額スルコト

二　耕地ニ對スル灌漑水路ハ極メテ不完全ニテ小作者ハ毎年水路ノ修理ニ多大ノ勞費ヲ要スルモノナレバ之ガ完全ナル修理ヲ地主ニ於テ行フコト

三　從前幾分小作料ノ滯納アリタルハ曩ニ小作契約締結ノ際地主ガ口約通リ水路ノ設備ヲ爲サザリシ爲、小作者ニ於テ毎年豫想外ノ水利費ヲ要シ到底契約小作料ノ納入ヲ爲シ得ザリシニ基クモノナレバ該未納小作料ハ之ヲ免除セラルベキコト

ト謂フニアリテ、地主ノ主張スルトコロハ

一　係爭地ハ小作者ノ住居ニ接續シ集團地ナレバ耕作ニハ至便ナル狀態ニ在リ、且隣接地ノ小作料ヲ斟酌シテ定メタルモノナルニヨリ高率ト認メズ

二　不作ノ際ハ其ノ作柄ニヨリ相當小作料ノ減免ヲナシタルモノニテ尚地主モ目下經濟不如意ノ爲、永ク小作料ノ滯納ヲ默許スル能ハザル事情ニ在レバ速ニ滯納小作料全部ヲ納入スルコト

三　水路ノ修理ハ地主個人ノ事業ニ非ズ、當然水利組合ガ行フベキモノナルコト明ラカニテ以前ヨリ屢々組合ニ交涉シ居リタル處ニシテ速ニ之ガ設備及修理ヲ爲サシムベシト謂フニ在リ。

而シテ地主照井某ハ本年春以來數次小作者ニ對シ滯納小作料ノ納入ヲ督促シタルモ小作者應ゼザルヲ爲、之ヲ大川某ニ依賴シ同人ヨリ賃借名義人タル藤倉某ニ對シ內容證明郵便ヲ以テ未納小作米ノ請求ヲナシタル處、之ニ對シ藤倉某ハ照井某ト小作契約ヲ爲シタルコトナク從テ其ノ請求ニ應ズル義務ナ

シト回答シ、更ニ大川某ハ賃貸名義人タル館澤某ノ代理人トシテ再度ノ催告通知書ヲ發シ、若シ指定期日迄ニ小作米ノ納入ナキ時ハ契約ノ解除ヲ爲スノミナラズ、訴訟手段ヲ執ル旨ヲ通告セリ。之ガ通告ヲ受取リタル賃借名義人タル藤倉ハ他ノ事實上ノ小作者四名ト協議ノ結果、訴訟等ニテ對抗スルハ不利ナリトシ小作調停ノ申立ヲナスコトニ意見一致シ、遂ニ八月三十日ニ至リ調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

玆ニ於テ裁判所ハ九月十八日岩手郡瀧澤村役場ニ於テ調停委員會ヲ開催シ、現場ノ越前堰ノ實地調査ヲナスト共ニ水利組合長其ノ他ヨリ詳細實情ヲ聽取シ調停案ヲ作成、兩當事者ニ示シ極力妥協ヲ勸告シタル處、左記條項ニヨリ和解成リ漸ク解決セリ。

(三) 結末

調停條項

一 申立人(賃借人)藤倉某(甲)、藤倉某(乙)、大坪某、赤石某、高田某ハ連帶シテ別紙目錄記載土地ニ對スル昭和五、六、七年度ノ未納小作料ヲ七石ニ減額シ昭和八年度四石、昭和九年度三石ヲ兩年度各十二月十日限リ相手方(賃貸人)照井某、館澤某ニ對シ支拂フコト

二 前項ノ土地ニ對スル昭和八年度ノ小作料ヲ二十八石二斗トシ申立人五名ヨリ相手方兩名ニ對シ十二月十日限リ支拂フコト

三 相手方照井某ハ申立人藤倉某(乙)、大坪某、赤石某、高田某ニ對シ昭和九年以降別紙目錄記載土地ヲ賃貸スルコト

四 前項ノ土地ノ小作料ノ田二十六石、苗代一石六斗、宅地六斗以上合計二十八石二斗ヲ賃借人四名ヨリ相手方照井ニ對シ每年十二月十日限リ支拂フコト(但本項ハ用水堰ノ修理完成シタルモノトシテノ契約トス)

五 申立人藤倉某(甲)及相手方館澤某ハ本年限リ本件土地ノ賃貸借關係ヨリ脫退スルコト

六 將來越前堰ノ修理ニ付テハ相手方照井ヨリ越前堰普通水利組合ニ交涉シ施行ヲ受クヘキコト

四 宮城縣伊具郡枝野村枝野 (小作料永久減額竝ニ小作契約繼續)

爭議發生 昭和八年一月四日

調停申立 昭和八年三月二日

解決 昭和八年十月二十日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地　爭議　畑　四反十九歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

枝野村小作人遠藤某ハ館矢間村地主菊地某所有ノ前記ノ畑ヲ小作料反當金十四圓五十錢ノ割合ヲ以テ昭和五年度ヨリ實父菊地某ノ保證ヲ以テ小作シ來リタル處、同年ノ小作料ヲ小作人遠藤ニ於テ支拂ハザル爲實父某ハ代リテ之ヲ支拂ヒタリ。

然ルニ其ノ後ニ至リ小作人遠藤ニ於テハ繭價下落ヲ理由ニ昭和六、七兩年度分小作料ヲ支拂ハザル爲、地主菊地ハ昭和八年一月四日仙臺區裁判所ニ小作料請求ノ訴訟ヲ提起スルト共ニ小作地返還ノ要求ヲ爲セリ。

小作人遠藤ハ全農ノ支援ニヨリ小作料永久四割五分減竝ニ小作契約ノ繼續方ニ付キ屢々地主菊地ト折衝セルモ地主菊地ニ於テハ之ニ應ゼズ、飽ク迄訴訟ニ依リ目的ヲ達セントシタル爲、小作人遠藤ハ昭和八年三月二日法ニ依ル小作調停申立ヲ爲シタルモノナリ。

（二）調停ノ經過

仙臺地方裁判所ニ於テ二回ニ亘リ直接調停ヲ試ミタルモ地主菊地ニ於テハ小作人ノ小作料永久四割五分減竝ニ小作契約ノ繼續ノ要求ニ應ゼズ、飽ク迄未納小作料ノ請求竝ニ土地返還ノ要求ヲ主張シテ讓ラザル爲、調停委員會ニ移スコトトシ昭和八年十月二十日同裁判所ニ於テ委員會ニ依ル調停手續開始セラレタル處、當初地主、小作人共ニ容易ニ讓歩セズ既ニ決裂ヲ見ントシタルモ調停ノ結果次ノ調停條項ニ依リ調停成立セリ。

（三）結　末

調停條項

一　相手方ハ申立人ニ對シ其ノ所有ニ係ル
　伊具郡枝野村枝野字加川五十番
　一　畑　一段九畝二十八歩
　同字加川五十一番
　一　畑　一段七畝十八歩
　同字加川五十一番
　一　畑　三畝三歩
ノ土地ヲ昭和九年一月一日ヨリ昭和十一年十二月三十一日迄一箇年一反歩金十圓ノ小作料ヲ以テ小作セシムルコト

二　但シ小作料ノ納期ハ毎年七月十日、九月十日、十二月三十一日ノ三回ニ均等ヲ以テ分納スルコト

二　申立人カ右小作料ヲ一回タリトモ滯納シタルトキハ相手方ニ於テ一週間ノ猶豫期間ヲ置キ滯納小作料ヲ請求シ申立人ニ於テ尙其ノ支拂ヲ爲ササルトキハ相手方ニ於テ直ニ前項土地ノ返還ヲ求ムルコト

三　申立人ニ於テ右小作期間中小作料ヲ完納シタルトキハ相手方ニ於テ申立人ニ對シ更ニ本件土地ヲ期間更新シテ繼續小作セシムルコト

但シ其ノ際ニ於ケル小作料ハ期間更新ノ當初ニ於テ當事者協定シテ定ムルコト

四　相手方ハ申立人ニ於テ延滯中ノ昭和六年度、昭和七年度ノ小作料ヲ金七十圓ニ減額シ昭和八年度分ノ小作料ハ一反歩當リ金十圓ノ割合ニ減額スルコト

五　申立人ハ右減額ニ依ル昭和六年度昭和七年度ノ小作料七十圓ヲ昭和八年十一月十日限リ昭和八年度ノ小作料ハ其ノ半額ヲ昭和八年十二月三十一日限リ其ノ殘半額ヲ昭和九年七月十日限リ各支拂フコト

六　申立人ニ於テ昭和六年度乃至昭和八年度ノ未納小作料ノ支拂ヲ完全ニ履行シタルトキハ相手方ハ保證人ニ對スル保證債務ノ請求ヲ爲ササルコト

但シ申立人ニ於テ右未納小作料ヲ支拂ハサルトキハ保證人ニ對シ減額以前ノ小作料ノ請求ヲ爲シ得ルコト

五　秋田縣秋田市手形字山崎（小作繼續）

爭議發生　昭和八年三月

調停申立　昭和八年三月二十七日

解　決　昭和八年四月二十八日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　一人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地　爭議　田　六反八畝十二歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ原因

本件小作人ハ昭和八年中地主先代某ヨリ本件田地ヲ小作料一箇年反當玄米一石五升納期毎年十一月末日賃借期限ヲ定メズ小作シ來リタルモノニシテ、本件田地ノ外ニ約一町歩ヲ他地主ヨリ小作シ居ルモノナリ。地主ハ所有田地約七町歩ノ內一町二反歩ハ最近借財整理ノ爲手放シ、現ニ三町歩ヲ自作シ殘リ二町八反歩ヲ數名ノ小作人ニ賃貸シ居ル小地主ニシテ、全所有地ハ信託會社、勸業銀行ニ反當金二百圓ノ抵當權ヲ設定シ、其ノ負債整理ノ目的ノ下ニ小作人等ニ反當二十五圓乃至三十圓ノ權利金ニテ昭和八年ヨリ向フ四十九箇年ノ永小作權ヲ設定シ、自己ノ負債整理資金ヲ得ルト共ニ前記債權者等

ノ抵當權實行ニ備フル計畫ヲ樹テ他ノ小作人等ニハ前記條件ニテ永小作權設定登記申請中ナルガ、本件小作人ハ地主ノ此ノ計畫ヲ不安トシ其ノ申出デヲ拒絶シタル爲、地主ハ自作ヲ爲ストノ理由ノ下ニ卽時土地返還ヲ求メタリ。

(二) 調停ノ經過

小作人ハ三月二十七日小作繼續ノ調停申立ヲ爲シ從來ノ條件ニテ昭和八年ヨリ同十二年迄五箇年間ノ賃貸借繼續ヲ求メタルガ、地主ハ本件田地ノ內一畝二十步ハ引續キ小作セシムベキモ爾餘ノ田地ハ卽時返還セラレタキ旨ヲ主張シ、其ノ表面ノ理由トシテ地主ガ從來自作セル田約八反步ハ抵當權實行ノ結果訴外鎌田某ノ競落取得スル所トナリ、早晩土地引渡ヲ求メラルベク其ノ不足ヲ補フ爲本件田地ノ自作ヲ必要トスル次第ナリト述ブルモ、小作人ガ右競賣ニ當リ該田地ヲ競落人ヨリ自ラ賃借スル意圖ノ下ニ豫メ競落人ト通謀シ競落ヲ容易ナラシメ地主ヨリ耕地ヲ奪ハントシタルモノナリトノ推定ヲ爲シ、傍ラ爭議原因ニ述ブル如ク小作人ガ永小作權設定ニ反對シタルニ感情ヲ害シ調停ニ於テハ飽迄土地返還ヲ求メタルガ、前後三回ノ調停委員會ニ於テ地主ニ對シ小作繼續ヲ認ムベキ旨ヲ勸說シ、且地主ノ要求スル永小作權設定ガ曩ニ設定シアル抵當權ヲ侵害スル結果トナリ、且此ノ場合抵當權ハ當然永小作權ニ優先シテ實行セラルベキ怖アルヲ以テ斯ル不安ナル永小作權ニ對シ地主ノ主張スル權利金(四十九箇年ニ付反當二十五圓乃至三十圓)ヲ無條件ニテ小作人ニ負擔セシムルハ妥當ナラザル旨ヲ說示シタル結果、民法第六百二條ニ基ク五箇年ノ賃貸借トシ期限更新ノ條件ヲ附シ、若シ其ノ間抵當權ノ實行ニヨリ小作人ガ土地引渡ヲ求メラルル場合ハ該賃貸借ノ經過年數ニ依リ反當一箇年金二圓四十錢ノ割合ヲ以テ精算シタル殘額ヲ地主ヨリ小作人ニ拂戻スベキ條件ノ下ニ金六十圓ノ權利金ヲ小作人ヨリ地主ニ支拂フコトトシ調停成立シタリ。

(三) 結末

調停條項

一　相手方ハ申立人ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ昭和八年ヨリ同十二年迄五箇年間小作料ハ舊反別ニヨリ一箇年反當リ一石五升(從前通リ)其ノ支拂期毎年十一月末日限リ申立人ハ相手方ニ持參納入スル定メニテ賃貸小作セシムルコト

二　前項ノ小作期間滿了後特別ノ事情ナキ限リ該賃貸借契約期間ヲ更新シ其ノ期間ヲ五年ト定ムヘキモノトス

三　不作ノ場合申立人ハ稻刈取前相手方ニ申出テ其ノ檢見ヲ得テ毛引額ヲ協定スルコト

若シ當事者間ニ於テ協定成ラサルトキハ秋田市農會ノ決定ニ一任スルコト

四　申立人ハ本件土地賃借權取得ノ權利金トシテ昭和八年五月五日迄ニ金三十圓、昭和八年度小作料納入ト同時ニ金三十圓合計金六十圓ヲ相手方ニ支拂フコト

相手方カ本件土地ニ付抵當權ヲ實行セラレ申立人カ競落人ニ對シ本件土地ノ引渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ申立人カ既ニ賃借小作セル期間ニ付一箇年二圓四十錢ノ割合ヲ以テ控除セル殘額ヲ申立人ニ返還スヘキモノトス此ノ場合ニ於テハ申立人カ右返還ヲ受クヘキ債權ト相手方ニ對スル其ノ當時ノ小作料ヲ時價ニ換算シタル金員トヲ相殺スル權利ヲ有ス

六　秋田縣南秋田郡拂戸村拂戸字大堤下千間（小作繼續）

爭議發生　昭和七年十二月

調停申立　昭和八年三月六日

解　決　昭和八年五月十九日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人一人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地　爭議　田　一町七反六畝二十三歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ原因

本件小作人ハ明治初年以來地主ヨリ本件田地ヲ賃借シ、證書ニ基ク小作期限ハ五箇年ト定メ期限ヲ更新シテ今日ニ及ビタルガ、其ノ間小作料ハ若干値上ゲセラレタルモ何等爭無ク經過シ、現在ノ小作契約ハ昭和五年七月二十二日付賃貸借證書ニ據リ賃料一箇年玄米四等格十四石九斗三升（反當八斗四升）納期毎年十一月三十日限リノ定ナリ。小作人ハ昭和五年度小作米ノ內四石六斗三升九合、同六年度十二石六斗七升一合計十七石三斗一升ヲ未納セリ。仍テ地主ハ小作人ニ對シ、昭和七年三月四日其ノ計算ニヨル未納米玄米十六石五斗六升六合此ノ換價金三百五十一圓三十二錢ノ支拂命令ヲ發シタルガ、小作人ハ昭和六年度小作米毛引額ノ交涉中ニシテ納入額未ダ確定セズトノ理由ヲ以テ地主ノ主張スル債務額ニ異議ノ申立ヲ爲シタリ。地主ハ續イテ小作米請求ノ本訴ヲ起シ、同年六月二十七日左記判決言渡アリタリ。

判　決

右當事者間ノ昭和七年（ハ）第二九二號小作料請求事件ニ付左ノ如ク判決ス

主　文

被告ハ原告ニ對シ粳玄米十七石三斗一升及內四石六斗三升九合ニ對スル昭和六年十月三十一日ヨリ各完濟迄一箇年一石ニ付二斗五升宛ノ損害米ヲ支拂フヘシ若シ右玄米ヲ支拂フコト能ハサルトキハ一石ニ付金十九圓ノ割合ニヨル換價金ヲ支拂フヘシ其ノ餘ノ原告ノ請求ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

地主ハ判決確定後ニ於テモ小作人ノ任意辨濟ヲ期待シ强制執行ヲ差控ヘ居リタルガ小作人ノ履行無キ

原　告　何　某
代理人辯護士　何　某
被　告　何　某

爲曩ニ昭和七年八月三十日土地引渡請求ノ訴ヲ起シ係爭中小作人ハ更ニ昭和七年度小作米ノ内十石七斗二升七合ヲ未納シタル結果昭和八年三月六日本件調停(八年(小調)第三七號)申立ヲ爲シ小作繼續竝ニ昭和五年度乃至同七年度未納米合計二十八石三升七合ノ減額年賦償還ヲ求メタリ。

(二) 調停ノ經過

小作人ノ調停申立ニ對シ地主ハ本件ガ既ニ確定判決ニヨリ決定セル事件ナレバ調停事件トシテ受理スベキモノニ非ズトナシ左ノ如ク却下申請ヲ爲シタリ。

記

小作調停申立却下ノ申請

申請人地主　何　某

右代理人辯護士　何　某

被申請人　何　某

申請ノ趣旨

被申請人ヨリ申請人ニ對スル秋田地方裁判所昭和八年小調第三七號小作調停申立ハ之ヲ却下ストノ御決定ヲ求ム

申請ノ理由

一　申請人ハ被申請人ニ對シ昭和五年十月中申請人所有ノ南秋田郡拂戸村拂戸字大堤下千間二百三十五番一反七畝一歩外十一筆此合計反別一町七反六畝二十三歩外苗代十枚ヲ一箇年小作料粳玄米十四石九斗三升支拂期毎年十月三十日限リト定メ小作セシメタル所被申請人ハ昭和五年度分ノ小作料ノ内四石六斗三升九合ノ支拂ヲ爲サス尙昭和六年度分ノ小作料モ相當減額ヲ爲シタル殘餘ノ十二石六斗七升一合ニ對シテハ全然支拂ヲ爲ササリシ爲申請人ハ昭和七年二月中前記延滯小作料合計十七石三斗一升ニ付キ支拂請求ノ訴訟ヲ提起シ秋田區裁判所昭和七年(ハ)第二三九號小作料請求事件トシテ審理ヲ受ケタル處被申請人ハ不當ニモ右昭和六年度ノ小作料ニ付キ三割以上ノ減收ナリトシテ尙三割ノ減額ヲ求ムル旨抗辯ヲ爲シ其ノ間申請人ニ於テハ圓滿解決ヲ希望シ幾分ノ讓歩ハ之ヲ承諾スル旨ヲ以テ交涉ヲ重ネタルモ被申請人ハ全然誠意ナク其ノ要求ハ固ヨリ不法ナルヲ以テ結局不調トナリ裁判所ニ於テモ被申請人ノ右三割減額ノ抗辯ヲ理由ナシトシ昭和七年六月二十七日言渡サレタル判決ニ於テ申請人ノ主張ハ全然容認セラレ被申請人ノ上訴ナクシテ該判決確定シタリ

二　申請人ハ飽迄圓滿解決ヲ希望シ前記判決ニ於テ認メラレタル債權ニ付テモ被申請人ノ任意辨濟ヲ期待シ强制執行ヲ差控ヘ居リタルモ遂ニ履行ヲ得ス申請人ハ被申請人トノ間ニ到底此ノ上小作契約ヲ持續スルコト能ハサルヲ痛感スルニ至リ依テ申請人ハ昭和七年八月中小作契約ノ不履行ヲ原因トシテ契約ヲ解除シ右小作田地引渡請求ノ訴訟ヲ提起シ御廳昭和七年(ワ)第一二三號土地引渡請求事件トシテ目下繫屬中ナリ

三　訴訟事件ニ於テモ被申請人ハ示談解決ノ名ノ下ニ事件ノ進行ヲ遲延セシメ申請人カ眞ニ之ヲ解決スルノ誠意ニ出テタルニアラスシテ飽迄事件ノ解決ヲ遲延セシメ小作料ヲ支拂ハスシテ小作田地ノ耕作ヲ繼續シ不當利得ヲ僥倖セントスルノ意圖ニ出テタルモノニシテ昭和七年十月三日ノ第一回準備手續期日以後數回期日ヲ變更シ昭和八年二月十六日ノ口頭辯論ニ於テ抗辯理由ナク此上事件ノ進行ヲ阻止スルコト能ハサルニ至ルヤ在東京ナル申請人ト直接交涉取極ムルトノ口實ヲ以テ申請人ノ訴訟代理人ニ對シ辯論ノ延期ヲ求メナカラ申請人ニ對シ何等ノ交涉ヲ爲サスシテ突如本件小作調停ノ申立ヲ爲シタリ右ハ被申請人カ小作田地引渡ノ執行ヲ遲延セシメ何等ノ權利ナクシテ小作田地ノ耕作ヲ繼續センコトスル不當ノ目的ニ出テタルモノナルコト明カナルヲ以テ被申請人ノ小作調停ノ申立ハ之ヲ却下スルトノ御裁判相成度此段申請候也

昭和八年三月十一日

秋田地方裁判所民事部御中

右申請代理人　何　某

仍テ裁判所ハ該小作調停申立ノ正式受理ヲ留保シ小作官ニ對シ爭議ノ現狀竝ニ當事者ノ意嚮ヲ精査スベキ旨ヲ求メタリ。仍テ小作官ハ爭議地ニ出張シ調査ノ結果調停受理ヲ適當ト認メ、且調停ノ可能性アルモノトシテ其ノ旨裁判所ニ報告シタリ。裁判所ハ昭和八年五月十一日第一回調停委員會ヲ開キ調停ヲ爲シタルガ地主(相手方)ハ昭和七年度未納分十石七斗二升七合ノ卽時納入竝ニ同五、六年度未納元利米合計約三十石三斗ヲ二十石ニ減額スベキヲ以テ之ヲ昭和八年度ヨリ同十二年度迄五箇年賦ニテ完濟スベキ旨ヲ主張シタリ。小作人(申立人)ハ之ニ對シ未納米ノ利子加算ヲ認メズ、更ニ各年度ニ付キ毛引減額ヲ求メ且未納米ノ一部辨濟ニ對シ申立人ガ數年後ニ取得スベキ無盡債權ヲ以テ之ニ充當スベシト主張セリ。

相手方ハ申立人ガ債務履行ノ誠意無ク徒ニ事件ヲ遲延セシムルモノナリトシテ小作人ノ申出ヲ拒絶シタルガ調停委員等ノ熱心ナル斡旋ニヨリ第三回調停委員會ニ於テ左記ノ如ク調停成立シタリ。

(三) 結末

調停條項

一　相手方ハ本件土地(別紙目錄記載ノ通リ)ヲ左記條件ニヨリ申立人ニ小作セシムルコト

(イ)　小作料一箇年玄米十石七斗二升七合、但其ノ年ニ於ケル建米ヲ以テスルコト

(ロ)　小作期間五箇年、但當事者ニ異議ナキトキハ其ノ都度更新スルコト

(ハ)　小作料納入期、毎年十一月三十日限

二　申立人ハ昭和七年度延滯小作料玄米五石ヲ昭和八年六月十五日限相手方ニ持參支拂フコト

三　申立人ハ相手方ニ對シ昭和五、六年度ノ延滯小作米竝ニ利息米合計玄米二十七石五斗九升九合ヲ左ノ通リ昭和八年ヨリ昭和十二年迄毎年十月三十一日限五石五斗二升(但最後ノ年ハ五石五斗一升九合)宛ヲ持參支拂フコト

(一)　昭和八年ヨリ昭和十二年迄毎年十月三十一日限五石五斗二升(但最後ノ年ハ五石五斗一升九合)宛ヲ持參支拂フコト

(二)　右支拂ヲ一回タリトモ怠リタルトキハ分割辨濟ノ利益ヲ失フ

但シ農會ニ於テ凶作ト認メタルトキハ年賦米ヲ順次繰越納入スルコトヲ得ルモノトス

四　申立人ハ前各項ノ支拂ヲ一回タリトモ怠リタルトキハ本件土地ヲ卽時明渡スコト

五　相手方ニ於テ遲怠ナク當裁判所昭和七年(ワ)第一二三號土地引渡訴訟ヲ取下ケ申立人ハ之ニ同意スルコト

七　山形縣飽海郡西荒瀨村(小作契約繼續)

爭議發生　昭和八年二月十日

調停申立　昭和八年二月十六日

解　決　昭和八年七月十四日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　七人
　　調停　右ニ同ジ(小作人申立)
關係土地　爭議　畑　八反八畝十三歩六合四勺
　　調停　畑　一町四畝歩

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ從來稀有ノ瘦地ニシテ小作人等ガ四十年間ノ辛勞ニ依リ漸次生産能率ヲ高メ來リタルガ地主ハ家計上該土地ヲ他ニ賣却セムトシ各小作人ニ對シ土地返還セシムベク昭和八年二月十日內容證明郵便ヲ以テ小作契約解除及土地引渡ノ催告ヲ爲セリ。

然ルニ各小作人ハ從來何等不都合ナク土地ヲ改良シ來リタルヲ以テ飽ク迄小作ヲ繼續セントシ玆ニ爭議ノ發生ヲ見タルモノナリ。

(二) 調停ノ經過

小作人等七名ハ小作繼續ヲ要求シテ昭和八年二月十六日山形地方裁判所酒田支部ニ調停申立ヲナシ前後七回ニ亘リテ委員會ヲ開催シテ調停成立シタルモノナルガ、調停事件繫屬中地主ノ暴力行爲ニ依ル器物破毀、調停委員トノ激論等アリテ迂餘曲折ヲ極メタルモノナリ。

(三) 結　末

調停條項

一　相手方ハ各申立人ニ對シ夫々小作セシメタル各其ノ小作土地ノ內申立人甲ニ對シ飽海郡西荒瀨村大字藤塚字中畑十八番ノ二畑五畝十六歩、同所十八番ノ三及同番ノ四畑一反二十六歩ヲ金八百六十九圓二十錢ヲ以テ賣渡シ昭和八年八月十五日迄ニ賣買登記ヲナシ甲ハ右代金ノ內五百圓ハ該登記ト同時ニ殘金三百六十九圓二十錢ハ昭和九年十二月末日限リ尙右殘金ニ對シテハ右登記ノ日ヨリ其ノ支拂ノ時迄年五分ノ割合ニ依ル利息ヲ附シ支拂フコト

申立人乙ニ對シ前同上三番ノ十ノ內西側畑五畝二十四歩前同上同番ノ內東側分（合筆ノ結果反別一反一畝十七歩トナル）畑五畝二十三歩ヲ金七百十七圓十二錢ヲ以テ賣渡シ昭和八年七月三十一日迄ニ賣買登記ヲナシ乙ハ該登記ト同時ニ右代金ヲ支拂フコト

申立人丙ニ對シ前同上六番ノ七畑二畝二十五歩ヲ金百五十二圓九十九錢ヲ以テ賣渡シ昭和八年七月三十一日迄ニ賣買登記ヲナシ丙ハ該登記ト同時ニ右代金ヲ支拂フコト

申立人丁ニ對シ前同上一九番ノ六畑八畝二十一歩ヲ金四百七十八圓五十錢ヲ以テ賣渡シ昭和八年七月三十一日迄ニ賣買登記ヲナシ丁ハ右代金ノ內金二百三十九圓二十五錢ヲ昭和八年十二月末日限リ殘金二百三十九圓二十五錢ヲ昭和九年十二月末日限リ支拂フコトトシ右金額ニ對シ右登記ノ日ヨリ各支拂ノ時迄年五分ノ割合ニ依ル利息ヲ附シ支拂フコト右各申立人ハ各其ノ支拂期日迄ニ該代金ヲ

支拂ハサルトキハ其ノ畑地ヲ相手方ヨリ取上ケラルルモ異議ナキコト

二　前同様小作シタル畑地ノ内

申立人甲ハ前同上十八番ノ五畑五畝十九歩

申立人乙ハ前同上三番ノ一ノ畑地ノ内東側畑五畝二十三歩

申立人丁ハ前同上十九番ノ三畑一畝二十二歩ヲ右各昭和八年七月十四日限リ相手方ニ無條件ニテ返還シ以後右土地ニ對シ何等ノ主張等ヲナササルコト

三　申立人戊ハ同様小作シタル前同上十八番ノ一畑五畝十二歩前同上十八番ノ六畑二畝六歩ヲ昭和八年十二月末日限リ相手方ニ返還シ相手方ハ該返還ト同時ニ右畑地ト類似ノ畑地六斗渡リヲ昭和九年一月一日ヨリ昭和十三年十二月三十一日迄申立人戊ニ小作セシムルコト

申立人戊ハ右新ニ小作スヘキ畑地ニ對スル小作料六斗渡リヲ右小作期間中毎年十二月三十一日限リ支拂フコト

申立人戊カ右新ニ小作スヘキ畑地ヲ該小作期間中ニ買受クル價格ハ其ノ買受クル當時ノ時價トス

四　第三條ノ小作地ニ付テハ相手方ノ承諾ナクシテ右小作權利ヲ他人ニ讓渡シ又ハ轉貸等ヲナササルコト

五　右小作人ハ第三條ノ小作料ヲ支拂ハス又ハ第四條ニ違背シタルトキハ該小作地ヲ取上ケラルルモ異議ナキコト

八　山形縣東田川郡齊村（永小作權抹消登記請求）

爭議發生　昭和八年三月十三日

調停申立　昭和八年四月十八日

解　決　昭和八年四月二十八日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　二人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地　爭議　田　一反歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

本件土地ハ元佐藤某ノ所有ニシテ申立人（菅原某女）ガ小作料一石ヲ以テ小作シ來リタル處昭和七年四月十九日ニ坂東某（甲）ニ賣却セラレタルモノナリ。坂東某（甲）ハ同年七月頃耕地整理費滯納ニ依ル處分ヲ慮リ小作人（申立人）ノ夫某ニ相談ナク相手方坂東某（乙）ニ小作料五斗ヲ以テ永小作權ノ設定ヲ爲セリ。

其ノ後耕地整理費滯納ニヨル公賣處分ニ依リ該土地ヲ申立人菅原某ニ於テ落札、所有權ヲ取得シ從來通耕作セントシ堆肥運搬等ヲ了シタル處、本年三月十一日永小作權者坂東某（甲）ヨリ自己ノ小作地

ニ付本月末日限リ土地引渡ノ通告ヲ受ケタリ。

然ルニ申立人ハ永年ニ亘リテ土地改良ヲ施シ其ノ上坂東某(乙)ニ永小作權ノ設定アリタルヲ知ラズシテ落札シタルヲ以テ永小作權登記抹消ヲ要求、自作セントシ永小作權者トノ間ニ爭議ノ發生ヲ見ルニ至リタリ

(二) 調停ノ經過

本件ハ耕地整理組合ニ關係シ其ノ結果ノ影響スル處甚大ナルヲ以テ愼重審議ノ結果昭和八年四月十八日委員會ニ於テ解決セリ。

(三) 結末

調停條項

一　相手方坂東某(甲)ト坂東某(乙)トノ間ニ東田川郡齊村大字勝福寺字田畑一七一番田六畝二十歩、同所一三〇番原野十一歩ノ土地ニ對シテ爲シタル永小作權設定登記ハ昭和八年五月十日迄ニ拋棄ニ依ル抹消登記ヲナスコト

二　相手方坂東某(乙)ハ將來右土地ニ關シ永小作權其ノ他何等ノ權利ヲ主張セサルコト

九　福島縣伊達郡富田村大字西福澤字長田　(小作料一時的減額竝ニ小作料改定其ノ他)

爭議發生　昭和八年一月二十一日

調停申立　昭和八年二月二十三日

解　決　昭和八年八月五日

關係人員　爭議　地主　十五人　小作人　二十一人
　　調停　右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地　爭議　田八町九畝十六歩
　　調停　右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

昭和六年本爭議ノ關係小作人四十二名ハ地主高橋某ニ對シ昭和六年度小作料四割減額外二項ノ要求ヲ提出シテ西福澤小作料値下同盟ヲ組織シ、全國勞農大衆黨福島縣支部聯合會ノ應援ヲ受ケ全國農民組合富田支部準備會ヲ結成シテ關係地主十八名ニ對抗スルニ至レリ。本件ハ昭和七年二月九日小作人ノ要求貫徹シ當事者間ニ於テ事件ノ解決ヲ見ルニ至レリ。右解決條項中地主小作人双方ノ親睦ヲ圖ル前提トシテ字長畑山一箇所ノ立木ヲ小作人ニ賣却スルコトノ協定アリシモ、地主高橋某ハ前記長畑山ノ山林二町歩ノ立木ヲ金四百圓ニテ藤澤某ニ賣却シタルニ發端シ小作人等ガ右藤澤ヲ脅迫シタルガ爲關係者二十名ハ暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反トシテ起訴セラレ主謀者菅野某外七名ハ夫々懲役八箇月以下ノ刑罰ニ處セラレタリ。元來紛爭地方ハ養蠶專業地方ニシテ水田ニ乏シク歐洲戰亂好況時ニ

於テ畑地金納小作料ノ昂騰ニ伴ヒ水田ノ小作料モ亦高騰シ反當收穫一石八斗乃至二石ニ對シ小作料七割以上ニ及ブモノアルニ至リタル結果、小作人等ハ昭和七年度氣候不順ニ因ル減收竝ニ經濟界不況ニ因ル生活困難ヲ理由ニ同年度小作料六割減額ヲ要求シ全國農民組合聯合會ノ應援ヲ受ケテ强硬ニ地主ニ對抗スルニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

三月二十四日伊達郡富田村役場ニ於テ第一回ノ調停委員會ヲ開會シタルモ、地主側ハ昭和七年度小作料ヲ多少減額スル代リニ將來小作料滯納ノ場合ハ返地スルコトノ制裁條項ノ規定ヲ要求シ、小作人側ハ昭和七年度小作料六割減額竝ニ契約違反ノ場合ニ於ケル土地返還ノ制裁規定ニ絶對反對シテ妥協成立セズ、第二回調停以後ニアリテハ小作人側ハ從來ノ小作料平均一石七升ヲ最高八斗最低五斗ノ範圍內ニ於テ改定スルコトヲ要求シ双方ノ意見ノ懸隔甚シク妥協成立セズ、此ノ間川俣町高橋某仲介ニ入リ數日ニ亘リ日夜奔走ノ結果左ノ妥協案ヲ提示シタリ。

一　土地等級ノ決定

土地賃貸價格ヲ基準トシ爭議地ヲ六等級ニ區分シ各等級ノ小作料ヲ反當左ノ通トスルコト

一等級	一石	
二等級	九斗三升	
三等級	八斗五升	
四等級	七斗五升	
五等級	六斗五升	
六等級	五斗八升	

二　昭和七年度ノ小作料ハ二割ヲ減額シ五割ヲ卽時支拂ヒ三割ハ五箇年賦支拂トスルコト

三　地主小作人間ノ融和ヲ圖リ小作人カ全國農民組合ヨリ脫退スル爲地主ハ農業奬勵、小作人ノ經濟更生ノ目的ヲ以テ地主高橋某カ其ノ助成トシテ金一千圓ヲ五箇年賦トシテ每年二百圓宛小作人側ニ補助スルコト

四　本調停成立ノ上ハ相互ノ親睦ヲ圖ル爲金六百圓ヲ地主側全員ニ於テ支出シ小作人ノ慰安ニ資スルコト

右調停案ニ對シ調停委員會ニ於テハ名目ノ如何ニ拘ラズ地主側ヲシテ金錢ヲ支出セシムルコトニ付反對シタル結果、結局當事者ノ合意ヲ基礎トシ(一)昭和七年度ノ小作料ハ地主高橋某ノ分(玄米三十五石)ハ全免トシ、其ノ他ハ七割五分ヲ減額シ(二)昭和八年度以降ノ小作料ハ前記妥協案ノ通決定、八月五日第四回ノ調停委員會ニ於テ調停成立スルニ至レリ。

(三) 結末

調停條項

一　本件各土地ノ小作料ヲ別表ノ通定ム（別表省略）

二　本件各小作人ハ昭和七年度ノ小作料又ハ之カ換價代金（玄米四斗ニ付金七圓五十錢ノ割合）ヲ本月十日限リ夫々其ノ地主ニ支拂フコト

三　本件各小作人ハ昭和八年度以降ノ小作料ヲ毎年十二月二十日迄ニ地主宅ニ持參支拂フコト

四　本件各地主ハ小作人等カ前條ノ期限二十日以上過クルモ小作料ヲ支拂ハサルトキハ何等ノ手續ヲ要セスシテ其ノ小作地ノ引上ヲ爲スコトヲ得

五　氣候不順其ノ他ノ不可抗力ニ因リ收穫減少（昭和八年度以降ノ小作料ノ倍額ニ達セスト認メタルトキ）ノ場合ハ小作料ノ減額ヲ要求スルコトヲ得而シテ右請求ヲ爲ス場合ハ遲クトモ稻刈取十五日前ニ檢見ヲ申出ルコト

右檢見ノ申出アリタル場合ニハ其ノ年ノ小作料ハ當事者間ニ於テ協定スルコト若シ協定調ハサルトキハ伊達郡農會技術員ノ決定ニ從フコト

六　本件地主高橋某ト小作人菅野某トノ間ニ於ケル小作關係ノ存續期間ハ之ヲ昭和九年十二月末日限リトス

七　本件小作人中地主菅野某ノ土地ヲ小作スル者ハ其ノ土地ヲ昭和十年十二月末日限リ返還スヘキモノトス

右菅野某ハ前項ノ期限ヲ經過スルモ土地返還ナキトキハ何等ノ手續ヲ要セスシテ其ノ土地ノ引上ヲ爲スコトヲ得

八　本件手續ノ費用ハ各當事者ノ自辨トス

一〇　福島縣双葉郡上岡村大字上手岡（小作料減額）

爭議發生　昭和八年十一月十五日

調停申立　昭和八年十二月十二日

解　決　昭和九年一月三十一日

關係人員（爭　議　地主　一人　小作人　一人
　　調　停　右ニ同ジ（小作人申立））

關係土地（爭　議　田　十四町八反七畝歩
　　調　停　右ニ同ジ）

（一）爭議ノ概況

爭議地ハ元官有地ニシテ明治二十年乃至三十年頃ノ開墾ニ係リ開田面積四十五町歩現在小作人三十五戸ヲ有ス。昭和六年勸業銀行ノ抵當權實行ニ因リ前地主木村某ガ金三萬圓ニテ落札シタルモノニシ

テ小作料ハ一箇年一等田反當玄米七斗五升二等田六斗五升三等田五斗五升ナリ。

地主ハ昭和八年小作契約更新ニ當リ小作料反當一斗ノ値上ヲ要求シツツアリシモ小作人等ハ昭和八年旱魃ニ因リ減收甚シク免租地三町八反歩ニ及ビタルヲ以テ同年度小作料五割ノ減額竝ニ小作權ノ確立、小作料ノ値上反對ヲ要求シ小作料値下同盟會ヲ組織シ十一名ノ役員ヲ擧ゲテ地主ニ交涉スルニ至レリ。

然ルニ右要求ニ對シテハ地主ハ小作人ニ對シ何等ノ回答ヲ爲サズ、十二月一日突然小作人中ノ主謀者佐藤某外一名ノ籾及家財道具ノ假差押ヲ執行シ、小作料支拂請求訴訟ヲ平區裁判所ニ提起スルト共ニ全小作人ニ對シ小作地ノ立退ヲ要求シ、次デ昭和七年一月十二日地主ハ紛爭地ヲ現地主白戸某外一名ニ賣却シ且小作料債權ヲモ讓渡スルニ至レリ。

仍テ小作人ハ十二月十二日小作調停ノ申立ヲ爲スニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

十二月二十三日第一回ノ調停委員會開會以來種々折衝ノ結果第三回ノ調停ニ於テ調停成立スルニ至レリ。

(三) 結末

調停條項

一 別紙第一表(別表省略)ニ記載セル申立人ハ同表記載ノ小作料ヲ其ノ記載ノ日時迄ニ双葉郡夜ノ森驛前ナル參加人白戸某營業所ニ於テ參加人等ニ支拂フコト

二 別紙第二表(別表省略)ニ記載セル申立人等ハ同表記載ノ小作料ヲ其ノ記載ノ日時迄ニ双葉郡富岡驛前平山運送店倉庫ニ於テ相手方ニ支拂フコト

三 相手方ハ前項ノ日時場所ニ於テ玄米六斗一升八合ヲ申立人堀本某ニ支拂フコト

新地主ナル參加人兩者ハ從來申立人等ニ於テ小作シ居ル双葉郡上岡村大字上手岡字下千里及同郡同村大字本岡字萩谷地所在ノ田地ヲ左ノ契約條項ニ依リ申立人等ニ小作セシムルコト

(一) 右田面中從來ノ一等田ノ小作料ハ一反歩ニ付一箇年玄米八斗、二等田ノ小作料ハ同上七斗、三等田ノ小作料ハ同上六斗ノ割合トシ毎年十二月十五日迄ニ双葉郡夜ノ森驛前ナル參加人白戸某ノ營業所ニ於テ參加人等ニ支拂フコト

若シ收穫高カ前示小作料ノ倍額ニ達セサルトキハ其ノ倍額ヲ標準トシタル率ニ依リ小作料ヲ減免スルコト

右減收ノ虞アル場合ニハ收穫十五日前申立人ヨリ其ノ旨參加人ニ申出テ關係人立會ノ上檢見スルコト申立人ヨリ其ノ旨ノ申出ヲ爲ササルトキハ減收ノ虞ナキモノト看做ス但反當收穫高玄米四斗以下ノ場合ニハ小作料ヲ全免トシ又申立人ノ收得米反當玄米四斗ニ達セサルトキハ申立人ノ收得

米ヲ反當玄米四斗トシ其ノ殘額ヲ小作料トシテ參加人ニ支拂フコト

(二) 右小作期間ヲ昭和九年度ヨリ三箇年トス

(三) 前示小作料ノ支拂ヲ一回ニテモ滯リタルトキハ申立人ハ當該小作地ヲ直ニ參加人ニ返還スルコト

(四) 右第二項ノ小作期間後ハ平均實收高(最近三箇年ノ平均實收高)ノ五割ヲ小作料トシ其ノ小作期間ヲ尚三箇年延長スルコト

(五) 參加人ニ於テ前示小作地ヲ他ニ賣却セムトスルトキハ先ツ其ノ當時ノ相場ヲ以テ申立人ニ賣却スヘク申立人等ハ之ヲ自作スル爲自作農創設資金ノ融通ヲ受ケ之ヲ買受クル權利ヲ有スルコト

一一 茨城縣結城郡安靜村大字蘆ケ谷 (小作繼續)

爭議發生 昭和八年一月二十日

調停申立 昭和八年六月二十一日

解 決 昭和八年九月十五日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人
調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 畑 二反歩
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

一 本地方ハ從來耕地面積比較的少ク爲ニ小作爭議ノ發生殆ンド無カリシモ昭和六年頃ヨリ全國農民組合設立サレ漸次其ノ勢力增加セムトスルノ傾向アリタリ。偶々小作人柳田某ハ同村全國農民組合幹部トシテ、組合ノ擴大强化ニ勉メツツアリ、小作人ハ十數年前ヨリ同村地主金子某ヨリ借受ケタル小作畑地二反歩ニ對シ組合員十數名ノ應援ヲ受ケ昭和八年一月二十日建築材料ヲ運搬シ地主ノ承諾ヲ得ズシテ前記畑地ノ一隅ニ間口三間奥行二間ノ平家ヲ建築セントシタリ。

二 其ノ當時小作人ハ前記建物ヲ建築シ之ヲ農民組合事務所ニ充ツルモノナリトノ風評頻リナリシ爲之ヲ傳ヘ聞キタル同村地主階級ハ農民組合事務所ヲ同村内ニ建築スルガ如キハ將來村内ニ禍根ヲ殘スモノナリト地主金子某ヲ動カシ、地主ニ無斷建物ヲ建設スルコトハ甚ダ不當ナリトシ土地返還及卽時工事中止ノ申込ヲ爲シタリ。

然ルニ小作人ハ從前ヨリアリタル丸太小屋ヲ改築スルニ過ギズト稱シ工事ノ中止ヲ肯ゼズ却ツテ組合員ノ參集ヲ求メ工事ニ着手セントセリ。

三 偶々隣村飯沼村ニ於テハ一月十八日地主組合皇風會ノ發會式アリ、右ノ噂ヲ聞キ込ミタル地主等

ハ甚ダ不都合ナリトシ翌十九日ハ安靜村地主階級ヲ應援スベキコトヲ決議シ、直ニ村内地主階級ト共ニ五、六十名參集シ一致協同ノ行動ニヨリ小作人柳田宅ヲ包圍シタリ。小作人等ハ地主側ノ動員ニヨリ右工事ヲ進ムル能ハズ一時組合員一同ト組合事務所タル同村秋葉某宅ニ引揚ゲ對策ヲ講ゼリ。

四　小作人等ハ協議ノ結果各支部ニ應援ヲ求ムルコトトシ同夜栃木縣雀宮支部、千葉縣野田支部ニ對シ應援方ヲ打電シ動員計畫ヲ爲セリ。

翌一月二十一日全農茨城縣聯書記長菊地某外十數名ノ來援アリ同日代表者ヲ派シ地主側ニ交渉ヲ爲サムトシタルモ拒絶セラレタリ。

依テ小作人側ハ更ニ一月三十一日隣接各支部ヨリ非常動員ヲ行ヒ約八十名ノ組合員來援シ附近山林ニ參集、示威行動ニ出デントシタル爲所轄下妻警察署ニ於テハ署員ノ非常召集ヲ行ヒ之ガ警戒ニ當レリ。

五　同日地主側約五十名ハ現場ニ參集徹夜建築工事中止ノ警戒ニ當リ小作人側ト相對峙シタリ。地主側ハ日ノ出頃小作人側ヨリ積極的行動ナキ爲稍安ンズル所アリ一同朝食ノ爲一時現場ヨリ退散スルヤ小作人側ハ此ノ虚ニ乘ジ俄ニ行動ヲ開始シ建築現場ニ參集シ一擧ニ柱ヲ樹テ棟上ヲ完了シタリ。

六　地主側ハ止ムナク法律手段ニヨリ目的ヲ貫徹スルコトニ決シ訴訟手續ヲ爲スコトトセリ。

一方小作人側ハ工事ヲ繼續シ二月一日午後四時三十分工事ヲ完了スルト共ニ地主側ニ對シ左記要求ヲ爲シタルモ地主側ハ之ヲ拒絶セリ。

一　當該家屋ノ建築ヲ承認スルコト

二　小作人ノ現耕地ノ小作契約ヲ繼續スルコト

三　今回ノ事件ニ要シタル費用ハ地主側ニ於テ負擔スルコト

七　其ノ後地主側ハ土地返還、工作物收去ノ訴訟ヲ提起シ同時ニ二月六日立入禁止假處分ノ申請ヲ爲シ三月七日土地立入禁止假處分ノ判決アリ三月十一日右假處分ヲ實行セリ。小作人ハ假處分執行後執達吏ノ管理ノ下ニ作物ノ管理ヲ許サレ引續キ小作人柳田某ハ長男ヲシテ右土地ノ一部ニ建テタル家屋中ニ住居セシメタリ。

（二）調停ノ經過

小作人ハ地主ヨリ提起セラレタル建物收去土地返還訴訟ノ判決ノ結果ノ不利ナルヲ悟リ、昭和八年六月二十一日小作調停申立ヲ爲セリ。昭和八年九月九日及九月十五日ノ二回ニ亘リ調停委員二名ヲ指定シ下妻區裁判所ニ調停委員會ヲ開催兩者折衝ノ結果左記結末ノ通解決セリ。

（三）結　末

調停條項

一　小作人某ハ地主ニ對シ直ニ本件土地ヲ明渡スコト

但シ小作人ノ長男カ現住スル家屋敷地ハ小作人及其ノ長男共同シ九月末日迄ニ右家屋ヲ收去シ且現ニ使用スル井戸ヲ埋立テタル上該敷地ハ之ヲ明渡スコト

二　地主ハ小作人ニ對シ（土地作離料及移轉料）金七十圓ヲ左記ノ通リ支拂フコト

本日限リ金三十五圓及來ル九月三十日限リ前項家屋收去土地明渡完了後直ニ金三十五圓

三　地主ハ小作人ニ對シ延滯ノ賃貸料（小麥二石七斗五升）及損害金ノ請求ヲ拋棄スルコト

四　地主ハ小作人ニ對シ地主ノ親類ヨリ賃借セル畑四畝十五歩ヲ土地返還代地トシテ小作料一箇年反當小麥八斗ノ割合ニテ支拂期毎年八月三十一日限リト定メ小作セシムルコト

五　地主ハ小作人ノ長男ニ對シ（從前ノ住家敷地返還ニ代地トシテ）蔗ケ谷字淀畑一反四畝十二歩ノ內東南ノ隅二十坪ヲ賃料一箇年金四十錢支拂期毎年十二月二十五日ノ定ニテ（長男ノ住家敷地ニ充ツル爲）賃貸スルコト

但シ小作人ノ長男カ本年十月三十一日迄ニ右地所內ニ家屋ヲ建設セサルトキハ右賃借契約ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

六　第四項及第五項ノ賃貸借ニ付賃料支拂期ヲ一箇月以上徒過シタルトキハ地主ハ履行ノ催告ヲ俟タス右賃貸借契約ヲ解除シ右土地ノ明渡ヲ請求スルコトヲ得

七　本件申立ニ關スル費用ハ各自辨トスルコト

八　當事者間ノ下妻區裁判所昭和八年（ハ）第九一號土地明渡建物收去竝ニ小作料請求事件ノ訴訟費用ハ各自辨トシ地主ハ速ニ右事件ノ取下手續ヲ爲スコト

一二　茨城縣新治郡東村大字二戶小山田農場（小作料永久減額）

爭議發生　昭和六年八月十二日

調停申立　昭和七年二月六日

解　決　昭和九年一月十三日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　五人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地　爭議　宅地　五反二畝二十五歩　畑四町八反六畝歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

本地方ハ小山田農場ト稱シ明治三十六年頃官有地ノ拂下ゲヲ受ケ各地ヨリ移住民ヲ募リ開墾シ現ニ戶數五十餘戶、面積約六十町歩ヲ有スルモ、小作人等ハ昭和五年度陸稻ノ旱魃且諸物價下落ニ伴ヒ金納小作料納付困難ナル爲同村民五十餘名ハ結束シテ小作料減免交涉ヲ爲シ代議士飯村某ヲ通ジ地主ト交涉セル結果昭和五年度下半期分小作料ヲ昭和六年六月及十一月ノ二回ニ分納延期スルコトノ交涉成

立セリ。本件小作人五名ハ右期日ニ至リ納付困難ノ爲一箇月延納ヲ申込タルモ地主ハ之ニ應ゼズ、却テ他ノ小作人ニ惡影響ヲ及ボスモノトシ内容證明郵便ヲ以テ土地返還ノ請求ヲ爲セリ。小作人等ハ困却シ協議ノ結果水海道全國農民組合ノ應援方ヲ依頼シ十月二十日全農組合員ノ應援ニ依リ共同耕作ヲ爲シ地主ニ對抗セリ。地主ハ大イニ憤慨シ十一月二十日土地引渡訴訟ヲ土浦區裁判所ニ提起シ十二月十二日土地立入禁止ノ假處分ヲ爲セリ。

小作人等ハ爲ニ協議ノ結果二月六日土浦支部裁判所ニ小作調停ヲ申立タリ。後小作人ハ執達吏ニ一定ノ保證金ヲ供託シテ引續キ耕作繼續スルコトトナリタリ。

(二) 調停ノ經過

一　裁判所ハ二月十六日小作人ヲ裁判所ニ呼出シ其ノ意見ヲ徵シ二月十七日調停委員二名ヲ指定シ東村役場ニ於テ調停委員會ヲ開催セリ。

地主側ハ土地返還訴訟ヲ提起シアリ、他ノ小作人ニ影響スル所多ク且右訴訟提起ニ付テハ親族會議ノ際協議セルモノナルヲ以テ今ニ至リテ調停ニ應ズル能ハズト強ク固持シテ讓ラズ。

二　三月十二日第二回調停委員會ヲ同村役場ニ開催セリ。小作人ハ當日地主側ガ主張強硬ナリシニ鑑ミ縣下各支部ノ來援ヲ求メ組合員五十餘名ハ調停會場ヲ包圍シ喧噪ヲ極メ且地主ヲ惡罵セリ。地主側ハ前回同樣小作人ニハ絕對ニ小作セシムル能ハズト稱シ何等纏ル所ヲ見ズ調停委員會ニ於テ再度地主側ノ考慮ヲ促シ、追テ期日ヲ指定スベキコトトナシ散會セリ。

三　五月上旬地主側代理人辯護士ハ裁判所ヲ訪問シ、地主側ハ飽迄讓歩スル能ハズ且今後調停委員會ヲ開催スト雖モ小作人ガ大衆ノ力ヲ以テ地主ヲ惡罵シ且地主ニ危害ヲ與フルコトヲ恐レ絕體ニ出席セザル旨ヲ傳ヘタリ。

四　裁判所ハ昭和七年六月二日勸解委員二名ヲ任命シ勸解ニ當ラシメ、右勸解委員ハ縣小作官ト協力シ、或ハ地主宅ヲ訪問シ或ハ農場管理人ヲ說キ漸次地主側ノ意思軟化ヲ圖リタリ。コノ間小作人側ハ陳情隊ヲ募リテ東京市在住ノ地主宅ヲ自轉車ニテ訪問シ速ナル解決方ヲ懇望セリ。

五　昭和八年四月四日再ビ調停委員會ヲ裁判所ニ於テ開催スルコトトナリタルモ、地主側ハ小作人ニ對シ讓歩スル意思ナシト稱シ上申書ヲ提出シ出席ヲ拒否シ來レリ。依テ勸解委員ノ一名ハ更ニ東京ノ地主側辯護人ヲ訪問調停ニ應ズベキコトヲ說キ右辯護人モ稍調停ニ傾キツツアリタリ。

依テ昭和八年十一月二十八日及十二月十四日再度調停委員會ヲ開催セルモ地主側ハ出席セズ、依テ裁判所ハ過料三十圓ニ處シ同時ニ調停條項ヲ作製シ法第三十六條ニ依リ調停委員會ノ案トシテ之ヲ地主小作人側ニ送達セリ。地主側ハ過料ニ處セラレタルヲ不當ナリト抗告セリ。

六　小作官ハ地主側辯護士ニ會見極力調停ニ應ズル樣考慮ヲ求メタルニ辯護士モ亦共鳴スル所アリ地主ト協議スルコトヲ約シタリ。越エテ昭和九年一月七日地主側辯護士ハ地主ト協議ヲ遂ゲ勸解委員

タル酒井、秋元兩氏ト會見スルコトトナリ右ノ結果曩ニ送達セル調停條項ニ多少ノ變更ヲ加ヘ之ニ應ズルコトトナレリ。

（三）結　末

右ノ結果昭和九年一月十三日土浦區裁判所ニ調停委員會ヲ開催シ地主側辯護士出席シ種々折衝ノ結果昭和八年十二月十四日調停委員會ニ於テ作製送達セル調停條項ニ一部變更ヲ加ヘ左記調停條項ノ通解決セリ。

調停條項

一　地主ハ小作人ニ對シ一般（他ノ小作人）同樣ノ條件ヲ以テ土地ヲ賃貸スルコト
但シ昭和十年下半期迄ノ小作料ハ一反歩ニ付一箇年宅地ハ金四圓八十錢、畑地ハ四圓、田地ハ檢査合格米一俵トス

二　地主ニ於テ申立人外ノ一般小作人ニ對シ小作料ノ增減ヲ爲ス場合ニアリテハ各申立人ニ對シテモ之ニ準シ增減スルコト

三　小作人カ納期ヲ怠リ尙一箇月以上納入セサルトキハ地主ハ右賃貸契約ヲ解除シ當該地所ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

四　各小作人ハ地主ヨリ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ目的地上ニ存在セル建物ヲ收去シ該地所ヲ相手方ニ引渡スコト

五　地主ハ各小作人ノ昭和五年度ヨリ昭和八年度迄ノ小作料及之ニ相當スル損害金ノ未拂分中左ノ通リ減免スルコト（本件小作人カ爭議開始以來一般小作人ニモ左記ノ通リ減免ヲ行ヒタル爲本件小作人ニモ右同樣減免スルコトトナレリ）

昭和五年度上半期　減免ナシ　下半期　一割減
昭和六年度上半期　畑小作料一割減　下半期　小作料一割減
昭和七年度上半期　畑宅地小作料三割減　下半期　畑宅地小作料二割減
昭和八年度上半期　畑宅地小作料六割減　下半期　全　免

六　各小作人ハ昭和八年度迄ノ未拂小作料及損害金中前項ノ減免シタル數量ヲ控除シ昭和九年度ヨリ向フ十五箇年間各納期ニ準シ分割納入スルコト
但シ年五分ノ割合ノ損害金ヲ併セテ支拂フコト

一三　栃木縣那須郡狩野村大字三島字北赤田（小作地買取）

爭議發生　昭和八年十月十五日
調停申立　昭和八年十一月二十二日
解　決　昭和八年十二月九日

爭議　地主　一人　小作人四十四人
關係人員
調停　右ニ同ジ（小作人申立）　利害關係人　地主　一人

爭議　畑　五十四町一反一畝一歩　宅地　四千二百六十九坪　山林　四十六町歩
關係土地
調停　畑　五十四町一反一畝一歩　宅地　四千二百六十九坪

（一）爭議ノ概況

地主ハ二十四歳ノ青年ニシテ東京ニ居住シ最近株式ニ手ヲ染メ大失敗ノ結果金錢ノ必要ニ迫ラレ昭和八年十月上旬前記山林ノ立木ヲ伐採賣却セントセリ。然ルニ該山林ノ立木ノ大部分ハ耕地竝ニ農家ニ必要ナル防風林ナルヲ以テ小作人等ハ大イニ驚キ其ノ中止方ヲ懇願シタルモ地主ハ之レヲ拒絶シ同月十五日伐採ニ着手シ、次デ地主ハ所有地全部ヲ賣却セントセシカバ小作人等ハ對策ニ腐心シ種々協議ノ結果、元來本件土地ハ三島某ノ所有タリシヲ親戚關係ニテ本件地主ニ讓與シタルモノナレバ再ビ三島某ニ買戻ヲ乞ヒ其ノ小作タラント欲シ三島某ニ交渉シタルモ不調ニ終リタレバ益々不安ノ度ヲ昂メ十一月十五日ニハ總代三名ニテ出縣、小作官補ト善後措置ヲ協議シ、其ノ結果自作農創設資金ヲ借リ受ケ小作人自ラ買受クルコトヲ條件ニ調停申立ヲ爲スコトニ決シ越エテ十一月二十二日ニ申立ヲ爲シタリ。

（二）調停ノ經過

第一回調停委員會ニ於テ双方ノ意向ヲ質シタルニ小作人等ハ前述ノ如ク目下安ンジテ小作ニ從事シ能ハザルヲ以テ此ノ際縣ヨリ自作農創設資金ヲ借リ受ケ本件土地全部ヲ買受ケタシト申出デ地主ハ故意ニ小作人ヲ苦シムルモノニ非ズ事業ニ失敗シ金錢ノ必要ニ迫ラレ居ルヲ以テ止ムナクコノ擧ニ出デタルモ自作農創設資金ニヨリ解決ノ途アラバ快ク協定ニ應ズベシト陳述シ、利害關係人三島某ハ自己所有ノ農場五百町歩ガ隣接シ居リ其ノ解決如何ハ及ボス影響重大ナレバ出來得ル限リ援助ヲ爲スベシト申出デタリ。

右ニ付キ委員會ハ先ヅ賣買價格ニツキ協定ヲ進ムルコトトシ双方ニ意見ノ發表ヲ求メタルニ、小作人側ハ移住者ニシテ開墾ハ小作人ノ手ニ於テ爲シタルカ又ハ小作權ヲ買求メテ住ミ込ミタルモノナレバ其ノ緣故ヲ認メ時價ノ二分ノ一位ニテ讓渡アリタシト述ベタルニ對シ地主ハ委員會ニ一任シ種々折衝ヲ重ネタル結果、宅地及ビ上畑ハ反當金二十五圓其ノ他ハ金二十圓ニ決シタルモ、地主ハ山林モ處分希望アルニ對シ小作人ハ買取資力乏シク協議ノ結果利害關係人ニ於テ買取ルコトニ協定成立シ、更ニ小作人中ニハ負債ノ爲メ小作權ヲ讓渡シ居ル者アリタレバ權利復活ノ要ヲ認メ關係者ト折衝ヲ遂ゲ、次デ未納小作料アル者ニ對シテハ利害關係人ガ小作料請求權ノ讓渡ヲ受ケ同人ハ小作人ヨリ勞力ニヨリ之ガ支拂ヲ求ムル事ニ決シタリ。

尙委員會ハ自作農創設事業ノ年賦金償還ニ付テハ特ニ考慮ノ要アルヲ認メ、資金融通ヲ受ケタル際

ハ直ニ自作農組合ヲ設立セシムルコトトシ該組合基金トシテ地主ヨリ賣却代金ノ一割ヲ贈與セシムルコトニ決定セリ。

斯クテ第三回委員會ニ於テハ左記調停條項ニ依リ圓滿解決セリ。

(三) 結末

調停條項

一　申立人等カ從來相手方ヨリ小作セル別紙目錄掲記ノ土地中各其ノ小作地ニ付昭和十年三月末日迄ニ夫々自作農創設維持資金ヲ借受ケタルトキハ相手方ハ申立人等ニ對シ當該小作地ヲ三等地ハ代金一反歩當リ金二十五圓等外地ハ金二十圓ノ割ニテ何レモ賣渡スコト

二　申立人等カ前項ノ自作農創設維持資金ヲ借入ルルニ付テハ利害關係人三島某ニ於テ保證スルコト

三　第一項ノ自作農創設維持資金借入許可指令ニ接シタルトキハ其ノ借入許可アリタル者一同ニテ自作農組合ヲ組織シ栃木縣自作農係官ノ指揮ヲ受クルモノトス

四　相手方ハ申立人等ヨリ第一項ノ土地賣渡代金ヲ受取リタルトキハ第三項ノ自作農組合ニ對シ受取リタル代金額ノ一割ヲ贈與スルコト

五　相手方ハ第一項ノ賣買ノ目的タル別紙目錄掲記ノ土地ヲ各其ノ小作人カ小作地ニ付相手方ヨリ所有權ヲ取得スル迄左記條件ニテ賃貸シ小作人等ハ各自之ヲ賃借スルコト

(イ)　賃貸借契約期間中ノ小作料ハ那須郡狩野村大字三島字北赤田三等地反當金二圓十錢等外地反當金一圓八十錢トス

但シ當事者間ニ於テ協定成立シタル場合ハ小作料ヲ變更シ得ルモノトス

(ロ)　小作料ハ毎年十二月末日迄ニ必ス那須郡狩野村大字三島三島農場事務所ニ於テ支拂フモノトス

但シ當事者ノ都合ニ依リ小作料支拂期ヲ右期日前ニ變更スルモ双方合意ノ場合ハ不都合ナキモノトス

(ハ)　申立人等ハ各自ノ賃借地ヲ他人ニ讓渡シ又ハ轉貸シ若クハ耕作ヲ他人ニ委託スルコトヲ得ス

六　申立人等カ別紙目錄掲記ノ土地中各自ノ小作地ニ付昭和十年三月末日迄ニ自作農創設維持資金ヲ借受クルコト能ハス從テ第一項ノ賣買カ其ノ效力ヲ生セサルニ至リタルトキハ相手方ハ利害關係人三島某ニ對シ其賣買カ效力ヲ生セサルニ至リタル土地全部ヲ代金ハ第一項所定ノ通リ三等地ハ反當金二十五圓等外地ハ反當金二十圓ノ割ニテ賣渡スコト

此ノ場合ニ於テ買主タル利害關係人三島某ハ賣主タル相手方ニ對シ其ノ代金ヲ昭和十年四月末日迄

ニ支拂フト同時ニ相手方ハ利害關係人三島某ニ對シ其ノ賣買ノ目的タル土地ニ付所有權移轉ノ登記手續ヲナスコト

七　前第六項ニヨリ利害關係人三島某ヵ相手方ヨリ土地ヲ買受ケタル場合ニ於テハ右利害關係人三島某ハ其ノ買受土地ヲ昭和十三年十二月末日迄左記條項ニテ申立人等各自ニ賃貸スルコト其ノ契約條項ハ第五項ニ同ジ

八　申立人等ハ相手方ニ對シ別紙目錄揭記ノ土地ニ付開墾費其ノ他如何ナル名目ニ於テモ財產上ノ請求ヲ爲ササルコト

九　本件調停申立費用ハ各自辨ノコト

一四　群馬縣群馬郡京ケ島村大字京目　（小作料一時的減額竝ニ小作契約繼續）

爭議發生　昭和七年十二月十八日

調停申立　昭和八年三月六日

解　決　昭和八年五月五日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人二十人
　　調停　右ニ同ジ（地主申立）

關係土地　爭議　田　五町六段二十四歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

本件小作人等ハ何レモ全國農民組合京ケ島村支部員ニシテ豫テヨリ組合幹部ノ指導ニ依リ小作料ノ減免其ノ他小作人ノ各種經濟的利益獲得ニ努メツツアリシヲ以テ同大字ニ最モ多クノ小作地ヲ有スル本件地主櫻井某（不在地主）ハ必然的ニ該運動ノ目標トナリ、屢々團體交涉ニ依ル小作料減額要求ヲ受ケ、其ノ都度殆ド小作人ノ申出通リノ條件ヲ以テ之ニ應ズルノ已ムナキ狀態ニアリタリ。卽チ昭和五年ニ於テハ田ノ契約小作料ノ約五割ニ相當スル段當一俵宛ノ延納ヲ要求セラレ結局將來支拂フベキ奬勵米及俵裝料ヲ以テ逐次相殺スル約定ヲ以テ之ニ應ジ、昭和六年ニ於テハ不作ヲ理由トスル契約小作料ノ三割減要求ヲ受ケ同地區長深澤某ノ調停ニ依リ二割ノ減額ヲ承認シ尙一割ハ昭和八年末ニ於テ納入スルコトニ妥協シタリ。

然ルニ昭和七年右組合支部長清水某ガ全國農民組合縣聯合會組織部長トナリ直接其ノ指導ヲ受クルニ及ビテ益々强硬ナル態度ヲ以テ地主ト抗爭ヲ企ツルニ至リ、偶々同年度稻作ガ開花期以降ノ天候不良ノ爲收穫減少ノ豫想ナルヲ機トシ之ヲ事由トシテ再ビ小作料ノ一時的減額要求ヲ爲スコトヲ協議シ十一月中旬支部長名ヲ以テ地主ニ對シ檢見ノ要求書ヲ發セリ。然ルニ地主ハ之ヲ放任シテ顧ミザリシ

ヲ以テ小作人ハ十二月初旬支部長宅ニ協議會ヲ開キ減額要求率ヲ五割トシ十二月十八日附書面ヲ以テ之ヲ地主ニ通知シ之ガ回答ヲ待チテ其ノ態度ヲ決セムトセリ。小作人ヨリ斯クノ如キ過大ナル要求ニ接シテ地主ハ極度ニ今後ノ推移ヲ警戒シ從來ノ經過ニ鑑ミテ愼重ナル態度ヲ採リ、殊更ニ回答ヲ避ケ密ニ强硬ナル對策ヲ講ゼムトシタルヲ以テ目的貫徹ノ容易ナラザルヲ察知シタル小作人ハ愈々結束ヲ固メテ之レト對抗スベク直ニ總會ヲ開キテ對策一切ヲ支部長ニ一任シテ一致ノ行動ヲトルコトトシ、十二月二十七日關係小作米全部ヲ支部長宅ニ共同保管シ之ニ火災保險ノ契約ヲナシテ持久的對抗ノ準備ヲ爲シタル處地主ハ二割減額ヲ以テ納入セシムベク一應支配人ヲシテ交涉セシメタルモ小作人ノ應ズル處トナラザリシヲ以テ、昭和八年一月十四日利害關係多キ他ノ村外地主十四名ト協議ノ上尙一層小作料ノ納入ヲ要求シ、支拂アリタルトキハ之ヲ內入トシテ受領シ小作人ノ態度如何ニ依ツテハ更ニ第二段トシテ强硬策ヲ講ゼムトセリ。

然ルニ小作人ハ一月二十一日書面ヲ以テ共同保管米ノ換價費消ヲ仄カシテ減免申込ニ對スル確答ヲ促シタル爲地主ハ再ビ關係地主ノ協議會ニ諮リテ訴訟ニ依ル斷固タル處置ヲトルコトトシ同月二十五日以降强硬ナル小作料請求ヲ開始シタリ。

然ルニ此ノ間ニ於テ小作人側幹部ハ前記火災保險料ノ支拂ニ窮シタルト各小作人ヨリ自家用米ノ不足ヲ訴ヘラレタルトニ依リ二月十四日共同保管米ノ一部ヲ其ノ儘小作人ニ返還シ大部分ハ之ヲ一駄（八斗）十四圓ノ割合ヲ以テ賣却シ其ノ一部ハ爭議費用等ニ費消シタルモ尙相當額ハ銀行預金トシテ保管セリ。

（二）調停ノ經過

右事情ヲ觀察シ居リタル小作官ハ二月十日地主ヲ縣廳ニ招キ其ノ代理者トシテ出頭セル支配人ニ對シ地主ノ採ルベキ態度ニ付詳細說示スル處アリシ結果、地主モ次第ニ其ノ態度ヲ緩和シ方針ノ變更ニ付曩ノ關係地主ニ諒解ヲ求メタル後調停法ニ關スル種々ナル研究ヲ遂ゲ、三月六日前橋地方裁判所高崎支部ニ小作料請求竝ニ土地返還ノ調停申立ヲ爲セリ。

依リテ昭和八年三月二十七日以降四回ニ亘リ前橋地方裁判所高崎支部ニ於テ調停委員會開カレタル處、地主ハ契約小作料ノ低率ナルト從來ノ經過トノ關係上絕對ニ減額要求ニ應ズルコト能ハズ、寧ロ此ノ際未納小作料ノ完濟ヲ受ケタル後一旦關係土地全部ノ返還ヲ受ケ新ニ善良ト認ムル小作人ノミヲ選ビテ小作契約ヲ更改シ度シト主張シ、小作人ハ何レモ不況又ハ不作ニ基ク已ムヲ得ザルノ要求ニシテ決シテ爭議ヲ目的トスルモノニ非ズ、且昭和五年度延滯分ハ將來地主ヨリ支拂ヲ受クベキ奬勵米、俵裝料ヲ以テ逐次辨濟シ昭和六年度分殘額一割ニ付テハ表面上ハ昭和八年末ニ於テ納入スルコトトナリ居レルモ事實ニ於テハ免除ヲ受クベキ內約アリ、尙昭和七年度分モ他ノ地主ハ相當ノ減額ヲ以テ解決シ居ルヲ以テ必ズシモ本件地主ノミニ對シテ特別ナル要求ヲ爲スモノニアラズ、依リテ土地返還ノ

要求ニ應ジ得ザルハ勿論昭和七年度小作料ニ付テモ前記ノ如キ減額ヲ要求スルモノナリト主張シ兩者ノ主張ニ懸隔大ナリシガ委員會ノ再三ノ妥協勸告ニ依リ双方次第ニ讓歩シ、五月五日ノ第四回委員會ニ於テ遂ニ左記條項ヲ以テ調停成立事件終局セリ。

尙小作人中ノ幹部タル松本某ハ他ノ組合幹部ト軋轢ヲ生ジ第二回調停委員會以降其ノ分ニ付總代ヲ解任シテ單獨主張ヲ爲シ特別解決ヲ爲サムトシタルモ、地主ハ之ニ對シテ同一ノ態度ヲ以テ臨ミタルヲ爲小作料ノ減免ニ關スル外ハ他ノ解決ニ準ズル條項ヲ以テ同時ニ解決シタリ。

(三) 結末

調停條項

一　申立人(地主)ハ相手方(小作人)ニ對シ別表第一號記載ノ各土地ヲ同表記載ノ通リノ賃料ヲ毎年十二月二十八日限リ申立人方ニ持參支拂フ約ニテ何レモ期間ヲ定メス夫々賃貸スルコト

相手方ハ申立人ノ承諾ナクシテ賃借地ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ轉貸シ又ハ其ノ賃借權ノ全部又ハ一部ヲ他ニ讓渡ヲ爲ササルコト若シ相手方ニ於テ之ニ違背シ右賃借地ヲ他人ニ轉貸シ又ハ讓渡シタルトキハ相手方ハ申立人ノ請求ニヨリ賃借地ヲ明渡シ遲滯ナク申立人ニ返還スルコト

二　相手方等ハ申立人ニ對シ天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ本件土地ノ米作收穫減少著シキ場合其ノ賃料ノ減額ヲ要求セムトスルトキハ刈取着手十五日前ニ之ヲ申立人ニ申出ルコト

此ノ場合ニ於テハ當事者双方立會ノ上減額ノ要否竝ニ減額率ヲ協議シテ決定スルコト

若シ相手方ニ於テ前項ノ手續ニ依ラスシテ立毛刈取ニ着手シ又ハ協議決定ノ前ニ申立人ノ同意ヲ得スシテ刈取收穫シタルトキハ減免請求權ヲ拋棄シタルモノト看做ス

三　當事者間ニ於テ前記協議調ハサルトキハ相手方ハ群馬郡京ケ島村小作調停委員全員ニ申出テ當事者双方ハ調停委員全員ノ裁定ニ一任スルコト

申立人及相手方ハ右裁定ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得ス右申出ヲ爲サス又ハ調停委員ノ裁定前ニ其ノ同意ヲ得スシテ刈取收穫シタルトキハ減免請求權ヲ拋棄シタルモノト看做ス

四　相手方ニ於テ賃料ヲ納入期限迄ニ支拂ハサルトキハ申立人ハ其ノ選擇ニヨリ相手方ニ對シ其ノ年度內ノ十二月二十日現在ノ群馬縣穀物檢査所ノ調査ニ依ル同所高崎支所管內丙種合格玄米賣買平均價格ニ依リ換算シタル金額ヲ請求スルコトヲ得

申立人カ選擇ニヨリ右標準ニ依リ換算額ヲ請求シタルトキハ相手方ハ其ノ換算金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フモノトス

昭和六、七年度ノ滯納分ヲ支拂ハサルトキハ前二項ノ例ニ依ル申立人ハ右賣買平均價格ハ同檢査所ノ調査書ニ依リ證明スルコト

五　(一)　申立人ハ別表第二號記載ノ相手方ニ對シ昭和六年度滯納賃貸料ノ半額ヲ減免スルコト　但

シ須藤某分ハ契約小作料ノ五分トス

相手方ハ申立人ニ對シ前項賃料ノ殘額ヲ昭和八年十二月二十八日限リ申立人方ニ持參支拂フコト

但シ須藤某ハ殘額ヲ昭和八年ヨリ同十年迄毎年十二月二十八日限リ前同表記載ノ通リ三回ニ支拂フコト

其ノ數量等右第二表記載ノ通リ

(二) 相手方松本某ハ申立人ニ對シ昭和六年度滯納賃料二斗七升ヲ同八年十二月二十八日限リ申立人方ニ持參支拂フコト

六 申立人ハ相手方等ニ對シ昭和七年度賃貸料ニ付契約賃料ノ二割ニ相當スル額ヲ減スルコト

(一) 相手方中島某外九名(氏名省略)ハ申立人ニ對シ右減額シタル殘八割ノ內七割ヲ昭和八年五月五日限リ一石ヲ金十八圓二十五錢ニ換算シタル金額ヲ申立人方ニ持參支拂フコト殘額一割ハ昭和八年十二月二十八日限リ申立人方ニ持參支拂フコト

(二) 相手方八木某外五名ハ申立人ニ對シ右減額シタル殘八割ノ內三割八分ニ相當スルモノヲ昭和八年五月五日限リ一石ヲ金十八圓二十五錢ニ換算シタル金額ヲ申立人方ニ持參支拂フコト

殘額四割二分ニ相當スル額ハ昭和八年ヨリ同十年迄毎年十二月二十八日限リ一割宛同十一年十二月二十八日限リ一割二分ヲ申立人方ニ持參支拂フコト

(三) 相手方中島某外二名ハ申立人ニ對シ右減額シタル殘額八割ニ相當スル額ヲ昭和九年ヨリ同十三年マテ毎年十二月二十八日限リ一割六分宛分割シ申立人方ニ持參支拂フコト

(四) 相手方松本某ハ右殘額八割ノ內七割ヲ昭和八年五月五日限リ一石ヲ金十八圓二十五錢ニ換算シタル金額ヲ以テ支拂ヒ殘一割ハ昭和九年十二月二十八日限リ申立人方ニ持參支拂フコト(松本某ハ申立人ニ對シ調停委員會ニ於テ昭和八年五月五日支拂フヘキ金三十四圓四十九錢ヲ支拂ヒタリ)

(五) 其ノ滯納額減免額支拂額等別表第三乃至六號記載ノ通リ

七 申立人ハ八木某ニ對スル滯リ賃料十二石ニ付之ヲ八石ニ減額スルコト

八木某ハ右八石ヲ昭和八年ヨリ同十五年迄毎年十二月二十八日限リ一石宛申立人方ニ持參支拂フコト

(以上調停條項中何割何分トアルハ總テ契約小作料ニ對スル割合ナリ)

(別表第一、第二、第三、第四、第五、第六號省略)

一五 埼玉縣兒玉郡神保原村大字石神 (小作繼續)

爭議發生 昭和六年三月二十五日

第一回調停申立 昭和六年八月二十七日

第一回調停取下　昭和七年一月二十七日
第二回調停申立　昭和八年三月十八日
解　　決　昭和八年七月三日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　一人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地　爭議　田　六反八畝二十二歩　畑六畝歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）第一回調停申立前ノ爭議概要

小作人ガ昭和四年度ノ小作料ヲ滯納シタル爲地主ヨリ昭和五年二月內容證明郵便ヲ以テ契約小作料十九俵中滯納分玄米九俵ノ支拂請求ヲ爲シ、二月末日迄ニ支拂ハザルトキハ小作契約ヲ解除スル旨通告セリ。斯ク本件ハ表面上小作料滯納ニ因ルガ如キモ昭和四年施行セラレタル村會議員選擧ノ際ニ感情ノ疎隔ヲ來シタルニ端ヲ發セルモノニシテ爾後双方共快シトセザリシガ昭和六年一月小作人ハ玄米十九俵ヲ地主ニ支拂ヒタルニ地主ハ昭和四年ノ滯納分九俵ノ納入ヲ要求シ、若シ納入セザレバ土地ヲ明渡スベシト要求シテ止マズ、之ニ對シ小作人ハ契約小作料十七俵ニテ昭和四年度ニ十五俵納入シアリ昭和五年度支拂ノ分ト差引滯納ナキヲ以テ從前ノ通リ小作契約繼續ヲ主張シ遂ニ爭議トナルニ至レリ。斯クテ憤慨シタル地主ハ遂ニ四月二十一日熊谷區裁判所ニ小作料請求竝ニ土地明渡請求ノ訴訟（昭六（ハ）第一四六號）ヲ提起シ繫爭シタルガ、兩者共部落民ナル爲地方ノ者モ敢テ調停ヲ試ムルモノナク其ノ儘訴訟繼續シ七月十四日和解ヲ試ミタルモ双方承認セズ、八月二十七日小作人ヨリ浦和地方裁判所熊谷支部ニ田小作料玄米十七俵ノ確認、田畑小作契約繼續ノ趣旨ノ小作調停ノ申立ヲナシタリ。

（二）第一回調停ノ經過

浦和地方裁判所熊谷支部ニ於テ調停委員會ヲ開クコト四回ニ亘リタルモ地主ハ飽ク迄土地ノ返還ヲ要求シ、又小作料額ニ付キテモ双方各々自說ヲ固持シテ讓ラズ此ノ間地主ハ昭和六年十月熊谷區裁判所ニ對シ小作料竝ニ損害金請求訴訟（昭六（ハ）第五四二號）竝ニ有體動產假差押（昭六（ト）第七七號）申請ヲ爲ス等其ノ態度强固ナルモノアリ、遂ニ小作人ハ昭和七年一月二十七日調停ノ取下ヲ爲スニ至レリ。

（三）調停取下後ノ爭議概要

小作人ノ調停取下ニ依リ熊谷區裁判所ニ於テ繫爭中ノ訴訟ヲ續行スルコトトナリシガ曩ニ地主ヨリ提起シタル有體動產假差押（昭六（ト）第七七號）ノ申請ニ基キ昭和七年二月小作人ハ玄米外十一點（見積價格百十二圓）ノ假差押ヲ受ケ、更ニ地主ハ同年六月有體動產假差押（昭七（ト）第六一號）ノ申請ニ依

リ水田六反七畝歩餘ノ大、小麥立毛ノ假差押ヲ執行シ之レガ競賣ヲ行ハントシタルニ、小作人ハ全農縣聯ノ應援ヲ受ケ同志三十餘名出動ノ上競賣妨害ノ擧ニ出デントスル虞アリタルヲ以テ主謀者ハ管轄署ニ檢束セラレタル爲大麥三畝歩小麥一反三畝二十二歩ノ競賣(價格三十三圓九十錢)ヲ終了シタリ。

尙地主ハ更ニ有體動產假差押(昭七(ト)第一〇五號)ノ申請ヲ爲シ十月十三日水田六反八畝歩餘ノ稻立毛ノ假差押ノ執行ヲ見タリ。然ルニ群馬縣伊勢崎町消費組合書記某ヨリ該稻毛ハ組合ニ於テ買受ケタルモノナリトテ該執行ニ對シ異議申立ヲナシ金百圓ヲ供託シ之レガ解除ヲ見タルヲ以テ群馬、埼玉兩縣下全農員ノ應援ヲ受ケ稻ノ刈取ヲ行ヒタルモ、其ノ後該異議申立ニ付キ無效ノ決定ヲ受ケタリ。

斯クテ小作人ハ再ビ昭和八年三月二十七日「小作料額ニ付テハ地主ノ主張ヲ容認スルヲ以テ小作契約繼續セラレ度シ」トノ主旨ヲ以テ浦和地方裁判所熊谷支部ニ小作調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(四) 第二回調停ノ經過

浦和地方裁判所熊谷支部ニ於テ調停委員會ヲ開クコト前後六回、三箇月ノ長期ニ亘リ調停ニ努メタルモ兩三年ニ亘レル感情ノ疎隔アリタル爲、地主ノ主張强固ニシテ飽ク迄土地ノ明渡ヲ主張シテ止マズ、依テ地主ノ長男妻等ヲモ出頭セシメ極力調停ニ努メタル結果遂ニ七月三日左ノ條項ニ依リ調停成立セリ。

(五) 結末

調停條項

一　申立人ハ相手方ヨリ賃借セル左記小作地ヲ昭和八年七月五日現狀ノ儘相手方ニ明渡スコト

右明渡ハ何等手續ヲ要セス同日以後ハ申立人ニ於テ同土地ニ立入ラサルコト

但シ左記土地中千百三十五番田三畝十四歩ノ苗代ハ本田ノ稻植付後直ニ明渡スコト

記

兒玉郡神保原村大字石神字北久保千百十三番田九畝九歩、同所千百十四番田二畝六歩、同所千百十五番田七畝三歩、同所千百三十五番田三畝十四歩、同所千百三十八番ノ一田六畝六歩、同所同番ノ二田六畝六歩、同所字下長塚千百番畑六畝二歩

二　相手方ハ申立人ニ對シ左記田地ヲ引續キ昭和十二年十二月三十日迄賃貸スルコト

記

同郡同村同大字字下長塚千八十五番ノ一田一反五畝十歩、同所九番ノ二田五畝十八歩、同所千八十四番田一反三畝十歩

三　前記土地ノ小作料ハ玄米四斗入九俵トシ其ノ地方一般カ平年作ナル場合ハ埼玉縣穀物檢查所ノ檢查米ヲ以テ每年十二月二十日限リ申立人ヨリ相手方ニ支拂フコト

補給米追徵米ニ付テハ神保原村農會ノ決定ニ基キ授受スルコト

四　不可抗力ニ依リ收穫ノ減少シタル場合ハ稻刈取約十日前申立人ヨリ相手方ニ立會檢見ヲ求メ當事者間ニ於テ減免率ヲ協定スルコト

五　昭和四年度田小作料未納分ヲ金五十圓、昭和四年度ヨリ昭和八年六月迄ノ畑小作料未納分ヲ金三十圓トシ右合計金八十圓ハ昭和十一年六月三十日限リ申立人ヨリ相手方ニ支拂フコト

六　昭和六年度田小作料玄米十九俵ハ之ヲ金百三十三圓トシ昭和八年七月十五日限リ申立人ヨリ相手方ニ支拂ヒ之ト同時ニ相手方ハ左記事件中訴訟事件ハ取下ケ假差押事件ハ解放手續ヲナスコト

（一）　熊谷區裁判所昭和六年（ト）第七七號有體動產假差押事件

（二）　同裁判所昭和七年（ト）第六一號有體動產假差押事件

（三）　同裁判所昭和七年（ト）第一〇五號有體動產假差押事件

（四）　同裁判所昭和六年（ハ）第一四六號小作料竝ニ土地明渡請求事件

（五）　同裁判所昭和六年（ハ）第五四二號小作料竝ニ損害金請求事件

七　昭和七年度田小作料玄米四斗入十九俵中九俵ハ第一項明渡地ヲ申立人カ耕耘シタル代償トシテ相手方ヨリ申立人ニ贈與シ殘額十俵ハ昭和八年度以降昭和十二年度迄毎年四斗入二俵宛小作米ト同質ノモノヲ小作米ト同時ニ申立人ヨリ相手方ニ支拂フコト

八　申立人カ前各項ノ義務ヲ履行セサル時ハ當事者間ノ賃貸借契約ヲ解除シ相手方ニ現狀ノ儘小作地ヲ明渡スコト

九　參加人小林某ハ前記第二、三項ノ申立人ノ小作約定ノ債務ニ付其ノ小作期間連帶保證ノ責ニ任スルコト

十　前記各執行事件、訴訟事件竝ニ調停事件ノ費用ハ各自辨ノコト

一六　埼玉縣北足立郡大和田町大字野火止（小作料請求竝ニ土地返還）

爭議發生　昭和八年八月十五日

調停申立　昭和八年九月四日

解　決　昭和八年九月二十八日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　一人
　　調停　右ニ同ジ（地主申立）

關係土地　爭議　畑　三反六畝歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）　爭議ノ概要

小作人ハ昭和二年以來不作等ヲ理由ニ小作料ヲ納入セザリシ爲地主ハ昭和七年九月辯護士ニ委任シ內容證明郵便ヲ以テ土地返還請求ノ催告狀ヲ發送シタルニ何等ノ回答ナキヲ以テ、其ノ後再三小作人

ノ來宅ヲ促シタルニ小作人ハ十二月末日ニ至リ地主宅ヲ訪ヒ、滯納小作料ハ證書ニ書換ヘノ上辨濟スル事トシ本年度小作料ハ卽時納入スベキニ依リ小作契約繼續セシメラレ度シト懇願シタル爲地主モ之ヲ承諾シ其ノ儘小作ヲ繼續セシメタルニ、其ノ後之ガ實行ナキヲ以テ昭和八年八月中旬再ビ辯護士ヲシテ滯納小作料ノ請求ヲ爲サシメタル處小作人ハ該問題ニ付テハ全農員吉村某ニ委任シタルノ故ヲ以テ取合ハズ、同月下旬吉村某ハ地主宅ヲ訪レ、滯納小作料及肥料代未拂金三百三十七圓七十錢及昭和八年度小作料三十九圓三十錢計三百七十七圓ヲ三百圓ニ打切リ五箇年賦拂トシ若クハ百圓ニ打切リ一時拂トシ小作契約繼續セシメラレ度シト詭辯ヲ以テ强要スルニ至リタル爲、地主ハ全農員ト抗爭スルヲ避ケ九月四日浦和地方裁判所ニ次ノ主旨ヲ以テ小作調停ノ申立ヲナシタリ。

一　相手方ハ小作料支拂ノ誠意ナキニヨリ小作地全部返還ノコト

一　昭和八年度小作料ハ地方習慣ノ納期昭和九年一月末日迄ニ支拂フコト

一　滯納小作料ハ互讓主義ニヨリ最短期日ニ納入セラレ度キコト

（二）調停ノ經過

九月九日浦和地方裁判所ニ於テ第一回調停委員會ヲ開キ、小作官ハ曩ニ現地ニ出張シ當事者及村當局其ノ他關係者ニ付其ノ實情ヲ調査シ置キタルヲ以テ調停方針等ニ付キ協議ノ上更ニ當事者ヨリ其ノ主張ヲ聽取シ極力調停ヲ進メタルモ、小作人ハ全農員吉村某ヲ相談役トシテ同道シ滯納小作料及肥料代未拂金ニ付テハ三百圓打切リトシ之ガ六割減免六箇年賦拂トスルノ外小作料ノ永久三割減額ヲ要求シ、地主ハ之ニ應ゼザリシヲ以テ遂ニ次回ニ延期ノ止ムナキニ至リタリ。仍テ更ニ九月二十八日同裁判所ニ於テ調停委員會ヲ開キ極力互讓妥協ニ努メタル結果次ノ調停條項ヲ以テ圓滿解決セリ。

（三）結末

調停條項

一　申立人ハ相手方ニ對シ別紙目錄記載ノ畑ヲ引續キ賃貸スルコト

一　小作料ハ

大字野火止字上東二百十四番ノ一ノ內畑一反一畝歩及同所畑一反歩ニ付テハ年反當金八圓ノ割合

同字二百十六番、二百十七番ノ內畑一反五畝歩ニ付テハ年反當金十五圓ノ割合トス

尤モ左記納期ニ滯リナク完納スルトキハ前者ニ付テハ一割後者ニ付テハ二割ヲ減額スルコト

一　納期及不作ノ減額等ニ付テハ一般慣例ニ據ル

相手方カ小作料ノ納入ヲ一回タリトモ怠リタルトキハ其ノ後六箇月ノ經過後ニ於テ前記小作地ヲ直ニ申立人ニ返還スルコト

一　在來ノ滯リ小作料及肥料代殘額合計金三百三十七圓七十錢ニ付テハ之ヲ金百二十圓トシ相手方ハ申立人ニ對シ內金十圓ヲ昭和八年十一月十五日ニ其ノ餘ハ昭和九年八月及翌十年一月（舊盆）（暮）ノ

二期(以下同之)ニ順次金十圓宛分割支拂フコト相手方カ右支拂ヲ一回ニテモ怠ルトキハ右分割支拂ノ利益ヲ失フト共ニ合計金三百三十七圓七十錢ニ付一時ニ強制執行ヲ受クルモ異議ナキコト

一　申立費用ハ各自辨ノコト

一七　千葉縣印旛郡豊住村安西（小作料一時的減額）

爭議發生　昭和五年十一月四日

調停申立　昭和八年九月十四日
　　昭和八年十月十二日

解　決　昭和八年十二月十二日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　二十八人
　　調停　右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地　爭議　田　六町一段二十四歩　畑　四段二畝九歩　宅地　百六十三坪
　　調停　右ニ同ジ

(一)　爭議ノ概況

本件土地ハ元關澄某ノ所有地ナリシガ昭和二年八月東京市田邊合資會社ニ賣却セリ。然ルニ該地ハ荒地ナルニヨリ前地主時代ニハ年々小作料ヲ協定シテ納入シ居リシガ、新地主ハ昭和二年度ヨリ昭和四年度分迄ノ小作料ニ滯納アリト主張シ之ガ請求ヲ爲セリ。小作人側ハ一部ニ未納者アレドモ該地ハ小作料高率ナリトテ之ガ減額方ニ付昭和五年千葉地方裁判所ニ調停申立ヲナシ、昭和七年三月二十四日調停委員會ニ於テ調停條項ヲ作成シ之ヲ送附シタルモ地主ノ代表者田邊某ハ受ケ入レズシテ調停決裂シ地主ハ申立人ト同樣事情ニアル他ノ小作人九名ニ對シ佐倉區裁判所ニ支拂命令申請ヲ爲スト共ニ一方本件申立人及其ノ保證人ヲ被告トシテ東京區裁判所ニ小作料請求訴訟ヲ提起セリ。依テ小作人等ハ昭和八年九月十四日及十月十二日夫々千葉地方裁判所ニ調停申立ヲナシタリ。

(二)　調停ノ經過

十二月十一日裁判所ニ於テ調停委員會ヲ開催シ當事者ノ意見ヲ徵シタルニ其ノ主張左ノ如シ。

小作人側ノ主張

申立人總代ハ本件爭議ニ付昭和五年(小調)第四號事件ニ付爲サレタル決定小作料ニ二割ヲ加ヘタル額迄讓歩ヲ爲スニ付少額ノ分ニ付イテハ卽時拂他ハ年賦拂ニ讓歩セラレタシト述ベタリ。

地主側ノ主張

相手方代理人ハ小作料ノ年賦拂ニ付イテハ承認スルモ申立人等ノ內一部ハ無資力ナル者アルヲ以テ申立人等ガ連帶シテ債務ヲ負擔履行スルニ於テハ減額ヲ承認スベク其ノ額ハ百俵迄ナリト述ベタリ。

依テ調停主任判事ハ調停委員ノ意見ヲ聽キタル上當事者双方ニ調停ヲ試ミタル處左記條項ニ基キ調停成立シタリ。依テ翌十二日調停認可決定アリタリ。

調　停　條　項

一　申立人ハ相手方ニ對シ玄米四斗入百二十俵ノ債務アル事ヲ認メ内玄米四斗入八十八俵三升二合ヲ分割シ申立人ハ連帶シテ左ノ方法ニヨリ相手方ニ支拂ヲ爲スコト

（イ）玄米四斗入四十四俵一斗三升ヲ昭和九年一月二十日檢査米ヲ以テ香取郡滑川町丸通運送店ニ於テ

（ロ）玄米四斗入二十五俵一升四合ヲ昭和十年一月二十日合格米ヲ以テ前記丸通運送店ニ於テ

（ハ）玄米四斗入十八俵二斗八升八合ヲ昭和十一年一月二十日合格米ヲ以テ前記丸通運送店ニ於テ

二　相手方ハ申立人カ右割賦米ノ支拂ヲ完全ニ履行シタルトキハ其ノ餘ノ請求ヲ拋棄ス若シ申立人等カ第一回ノ支拂ヲ怠リタルトキハ百二十俵全部ニ付期限ノ利益ヲ失ヒ連帶ニテ一時ニ請求セラルルモ異議ナキ事、尙第二回、第三回ノ支拂ヲ怠リタルトキハ既ニ支拂ヒタル額ヲ百二十俵ヨリ控除シ殘額ニ付期限ノ利益ヲ失ヒ一時ニ連帶ニテ請求セラルルモ異議ナキコト

但右場合ニ於テモ合格米ヲ以テ支拂フモノトス

三　本申立ニ關スル費用ハ各自辨ノコト

一八　神奈川縣横濱市保土ケ谷區峯岡町（小作地返還ニ伴フ葡萄廢園損害賠償要求）

爭議發生　昭和八年三月十八日

調停申立　昭和八年四月十三日

解　決　昭和八年九月二十九日

關係人員　（爭　議　地主　一人　小作人　一人）

（調　停　右ニ同ジ（小作人申立））

關係土地　（爭　議　畑（葡萄園）二町二反八畝三歩）

（調　停　右ニ同ジ）

（一）爭議ノ概況

右關係土地ハ元山林ナリシヲ明治三十三年以降數箇年ニ亘リ小作人ニ於テ開墾ノ上葡萄園ヲ造成シ皇國葡萄酒釀造原料竝ニ來園都人士ニ對スル小賣ニ供用シ來レルモノナル處昭和四年地主及某興業株式會社ヨリ住宅地用分讓ノ目的ヲ以テ頻リニ土地返還ヲ迫ラレタル爲同年九月十一日小作人ヨリ繼續小作ノ趣旨ニヨリ調停ノ申立アリ、爾後昭和七年ニ亘リ調停委員會ヲ開クコト前後十數回ニ及ビ主要事項ノ妥協ヲ了シ將ニ圓滿解決ヲ遂ゲントセルニ際シ、突如地主ニ對スル債權者タル某銀行ノ抵當權ノ實行トナリタル結果小作人ハ昭和七年四月一應小作調停ヲ

取下ゲ形勢觀望ノ態度ニ出デタルニ新地主タル某銀行ハ其ノ後小作人ニ對シ何等小作契約ニ付具體的交渉ヲ爲スコトナク却テ關係土地ノ買受希望者ノ周旋方ヲ依賴スルニ至レリ。

玆ニ於テ小作人ハ自己ニ對シ小作繼續ヲ許諾スベキ買受希望者ノ發見方ニ付極力奔走シタルモ經濟界不況ノ折柄容易ニ之ヲ見出スコト能ハザリシ爲其ノ旨地主(銀行)ニ回答スルト同時ニ當分銀行所有ノ儘繼續小作セシメラルル樣申入レタリ。

然ルニ地主(銀行)ハ同年十一月突然右關係土地內ニ約三百坪ノ宅地アリト稱シ其ノ分坪當一箇月金十錢ノ地代ニ變更方ヲ要求シタルニ小作人之ニ應ゼザリシ爲其ノ儘トナリタルモ其ノ後地主ハ某方面ニ於テ買受希望者ヲ發見セルモノノ如ク、翌八年二月若干金支出ノ條件ノ下ニ卽時土地返還ヲ迫リタルヲ以テ小作人ハ開園後現在ニ至ル經緯ヲ說明シ地主申出金額ノ二倍半ニ相當スル金額ノ支出ヲ懇願シタルニ地主之ニ應ゼズ、昭和八年三月十八日內容證明郵便ヲ以テ關係土地上ノ葡萄樹其ノ他各工作物一切ヲ收去ノ上翌四月三十日限リ土地明渡ヲ爲スベキ旨通知スル所アリタルヲ以テ小作人ハ昭和八年四月十三日右葡萄園ノ廢園ニ因ル損害賠償ノ調停申立ヲ爲スニ至レルモノナリ。

尙地主ハ小作人ノ調停申立後六月八日ニ至リ小作人ニ對シ關係土地所有權取得後ノ小作料ニ付反當一箇年金三十圓ノ割合ヲ以テ納入スベキ旨內容證明郵便ヲ以テ通知スル所アリタリ。

(二) 調停ノ經過

昭和八年六月九日橫濱地方裁判所ニ於テ調停委員會ヲ開會シタルニ申立人(小作人)ハ葡萄樹及園附屬諸施設ノ價格竝ニ園常雇三家族ニ對スル解雇手當其ノ他曩ニ昭和七年四月調停取下ゲ前實質上妥協成立ニ至リタル金額(一萬圓)等ヲ考覈シ金一萬五千圓ヲ要求セルニ對シ、相手方(地主タル銀行)ハ當初小作關係ノ存在ヲ否認シ後漸ク關係土地所有權取得以後約一箇年分小作料見込金七百圓(反當小作料三十圓計算)及包金一千圓計千七百圓(但シ葡萄樹、建物其他諸工作物ハ申立人ヲシテ任意處分セシム)迄ノ支出ヲ承諾シタルモ、尙兩者意見ノ懸隔餘リニ甚シク容易ニ妥協セシムルコト能ハズ、七月六日第二回調停委員會ニ於テ相手方ハ重役會議ノ決議ニ籍口シ金一千圓以上ハ到底支出スルコト能ハズ等前言ヲ飜スニ至レルモ、後此ノ際當事者互ニ土地買受希望者ヲ發見スルニ努メ其ノ賣買價格ニ應ジ或ル歩合ヲ以テ相手方ヨリ申立人ニ金員ヲ交付スルコトトシタルモ九月中旬ニ至レルモ適當ナル買手ヲ發見スルコトヲ得ザリシ爲九月二十九日第三回調停委員會ニ於テ極力互讓妥協ヲ勸告ノ結果左記條件ヲ以テ調停成立ヲ見タリ。

(三) 結末

調停條項

一 申立人ハ相手方ニ對シ橫濱市保土ヶ谷區峯岡町字常盤二千二百八十五番ノ一畑一町六反六畝二十七歩、同所同番ノ二宅地八十五坪、同所二千二百八十七番畑五反八畝十一歩內畦畔三畝歩ノ地上ニ

存在スル建物(造作有形ノ儘)一切及工作物竝ニ庭木一切(但葡萄樹竝ニ其ノ棚材料ヲ除ク)ヲ無償ニテ譲渡シ昭和八年十二月三十一日限リ該建物ヨリ退去シテ該土地ヲ明渡スコト

二　申立人ハ相手方ニ對シ前項土地上ニ存スル葡萄樹(棚材料ヲ含ム)一切ヲ申立人ノ費用ヲ以テ前項表示ノ期日限リ收去シテ該土地ヲ明渡スコト

三　相手方ハ申立人ニ對シ右明渡完了ト同時ニ金六千圓ヲ交付スルコト

四　申立人ハ相手方ニ對シ第一項表示ノ土地ニ對スル昭和七年七月分以降明渡濟ニ至ル迄一箇月金十圓ノ割合ニヨル小作料ヲ支拂フコト

右小作料ハ前項六千圓受渡ノ際差引スルコト

五　本申立ニ關スル費用ハ各自辨ノコト

一九　神奈川縣愛甲郡愛川村田代（小作料減額）

爭議發生　昭和八年三月二十日

調停申立　昭和八年十月十日

解　決　昭和九年一月二十八日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　一人
　　調停　右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地　爭議　畑(桑園)　一反九畝十九歩
　　調停　右ニ同ジ

(一)　爭議ノ概況

申立人(小作人)ハ昭和四年春前記土地ヲ一箇年小作料金四十七圓ノ契約ニテ相手方(地主)ヨリ借受ケ小作シ來レルモノナルモ不幸ニシテ爾後連年ノ繭價暴落ニ會シ小作料ヲ完納スルコト能ハズ毎年其ノ一部宛ヲ納入スルト共ニ其ノ都度地主ノ實弟ナル小作地管理人ニ對シ地方一般地主ノ例ニ倣ヒ小作料ノ減額方ヲ懇願セリ。然ルニ地主ハ減額ハオロカ小作人ヨリ直接減額申入ナキヲ口實トシテ昭和八年三月二十日小作料滯納額百十三圓アリト稱シ嚴重督促スルニ至リタルヲ以テ小作人ハ地主ノ横暴ニ憤慨シ直ニ右小作地ヲ返還シタリ。

茲ニ於テ地主ハ同年八月十四日前記滯納小作料收納ニ付支拂命令ヲ發シタルガ小作人異議ノ申立ヲ爲シタルヲ以テ訴訟トナリ九月十五日地主勝訴ノ判決アリ九月二十五日小作人所有ノ現宅地百四十二坪ニ對シ假執行ヲ爲シタリ。之ガ爲小作人ハ人ヲ介シテ地主ニ示談ヲ申込ミタルモ地主ハ極メテ過大ノ要求ヲ爲シ到底示談成立ノ見込ナキニ至リタル爲、十月十日小作料減額ノ調停申立ヲ爲シ地主ハ十一月二十七日强制競賣開始ノ決定ヲ受ケ昭和九年二月二日ヲ以テ競賣期日ト決スルニ至レルモノトス。

（二）調停ノ經過

昭和九年一月二十八日爭議關係土地所在愛川村役場ニ於テ調停委員會ヲ開會シタルニ申立人ハ養蠶農村ノ特別不況ノ折柄小作料一部納入ノ都度地方一般地主ノ例ニ倣ヒ小作料減額方ヲ地主ノ實弟タル土地管理人ニ申入レアリ、而シテ土地管理人ハ必ズ然ル可ク取計フベキヲ約シテ却ツテ繼續小作方ヲ慫慂セル程ナルヲ以テ昭和五年度以降小作料ヲ四割減額スルコトトシ、尚向後十箇年賦辨濟ヲ要求セルニ對シ地主ハ競賣開始ノ決定ヲ楯トシ農產物價格ノ騰落等ハ自己ノ關スル所ニアラズ、契約小作料ハ必ズ之ガ支拂ヲ受ケザルベカラズト主張シ相讓ラザリシガ委員會ノ斡旋盡力ニ依リ同日遂ニ左記條件ヲ以テ解決ヲ遂ゲタリ。

（三）結末

調停條項

一　申立人ハ相手方ニ對シ本件小作料金百十三圓（但愛甲郡愛川村田代字原八百六十五番畑七畝九歩同所八百六十七番畑一反二畝十歩ノ土地ニ關スル昭和五年分殘竝ニ昭和六年及七年分）ヲ本日（昭和九年一月二十八日）支拂フコト

二　相手方ハ申立人ニ對シ本件ニ關スル「原告相手方」「被告申立人」間ノ小田原區裁判所昭和八年（ハ）第二七三號小作料請求訴訟事件ノ訴訟費用竝ニ「債權者相手方」「債務者申立人」間ノ同區裁判所昭和八年（ヌ）第六三號強制競賣申立事件ニ關スル執行手續費用ハ總テ之ヲ請求セサルコト

三　相手方ハ前項記載ノ競賣事件ノ競賣申立ヲ直ニ取下クルコト

四　本件申立ニ關スル費用ハ各自辨ノコト

二〇　新潟縣西蒲原郡大原村大字茨島　（小作料請求小作契約改定）

爭議發生　昭和七年十月六日

調停申立　（昭和八年三月二十五日／昭和八年四月八日）

解決　（昭和八年七月十日／昭和八年八月二十一日）

關係人員　（爭議）地主二人　小作人十五人／（調停）右ニ同ジ（地主申立）

關係土地　（爭議）田十三町四反二十三歩／（調停）右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

爭議土地所在地方ハ割地制度ノ舊慣ヲ存シ毎年檢見ヲ行ヒテ小作料ノ減免額ヲ協定セリ。而テ檢見ニ際シテハ地主小作人協議ノ上多數ノ軒前中ヨリ一軒前ヲ抽出シテ其ノ收穫量ヲ檢シ一軒前分ノ建石

ヲ協定シ他ノ軒前ハ凡テ之ニ準ズ。其ノ結果一軒前ニ屬スル田地中作柄ノ良否一樣ナラズト雖モ凡テ一率ニ減免率ヲ定メラルルコトトナリ、從テ小作人側ヨリ年々多額ノ減免要求ヲ爲ス風習萠シツツアリシガ、昭和七年度ハ申立人タル地主ヨリ小作官ニ檢見立會ノ申出アリ、仍テ小作官ハ二回ニ亘リテ作況調査ヲ行ヒタルガ同年度小作料ニ付地主山田ハ四十五俵ヲ、今井ハ四十俵ヲ各請求シ、小作人等ハ之ニ對シ各三十俵建ヲ主張シテ紛糾シタル爲地主ヨリ調停申立ヲ爲シタルモノナリ。

(二) 調停ノ經過

四月十三日第一回調停期日ニ於テ申立人等ハ本件土地ノ一軒前小作料ハ今井分ハ二十石一斗六升建ニシテ普請米三俵一斗一升ヲ控除シ山田分ハ二十石六斗ニ一割ノ廻米ヲ附シタルモノヨリ二重俵裝料トシテ一俵ニ付一升ノ割合ヲ以テ控除シ五十五俵一斗一升建ノ契約ナリ。而シテ申立人山田ハ昭和六年中兩當事者間ニ於テ協議ノ上從來ノ檢見方法ヲ改定シ、反當二石以上ノ收量ナルトキハ其ノ四割建、一石五斗以上ナルトキハ三割建、一石以上ハ三割建、宅地畑ハ減免ヲ爲サザルコトトシ同七年以降右率ニ從ヒ減免ヲナスコトニ協定シタリ。

右協定ノ結果昭和六年度小作料ハ新ニ一軒前二十一俵建ニ協定シテ納入濟ナルモ昭和七年度小作料ハ檢見ノ結果右契約ニ從フトキハ一軒前四十五俵建トナル計算ナルモ相手方ハ之ガ支拂ヲナサザルニ依リ卽納ヲ求ム、又昭和八年以降ノ定免小作料ハ宅地及畑反當八斗、田六斗五升ニ協定シ度シト主張シタリ。

茲ニ一軒前ト稱スルハ反別ニ多少ノ相異アレ共申立人山田分ニ就イテ見ルニ田二町四反五畝二十五步、畑二反五畝八步、原野七畝十步、宅地百四十七坪(四畝二十五步)合計二町八反三畝十五步ナリ。

前記申立人主張ニ對シ相手方等ハ本件土地ハ從來水腐地トテ每年惡水停滯シ其ノ被害甚大ナリシ爲地主モ之ヲ認メ檢見ノ慣習ノアル土地柄ナリ。又申立人山田主張ノ如キ檢見方法ヲ協定シタルコトナシ昭和七年度小作料ハ一軒前ニ付二十四俵建トナシ定免小作料ハ同三十俵ニ協定セラレ度シト述ベタリ。茲ニ於テ調停委員及小作官ハ協議ノ上定免小作料ヲ調査シ、且土地ノ現況ヲ參酌シテ協定セシムルコト及軒前土地以外ノ土地ニ付テハ軒前地ノ協定ナリタル後ニ各筆每ニ定免小作料ヲ定ムルコトニ調停方針ヲ定メ、五月一日第二回調停期日ニハ申立人ハ本件土地ハ木山川改修工事完成ニ因リ上田トナリタルヲ以テ本年以降三箇年間ノ定免小作料ヲ一軒前三十五俵ト爲シ次期更新ニ際シ三十七俵トナシ順次四十五俵ニ達セシムルコトシ度シト述ベ、相手方等ハ昭和六年度迄ノ十箇年間ノ平均實納小作料ハ三十二俵半ナルヲ以テ其ノ額ヲ以テ定免小作料トナスガ至當ナリト主張セリ。越エテ五月十七日第三回調停期日ニハ各其ノ主張ヲ固持シテ讓ラザリシガ六月十九日第四回調停期日ニ相手方ハ定免小作料ヲ一軒前ニ付三十四俵建ニ讓歩シ昭和七年度小作料ハ二十五俵建トナシ軒前以外ノ土地ハ從來ノ契約小作料ノ二分ノ一ヲ以テ定免小作料トナスコトヲ主張セシニ對

シ申立人ハ昭和七年度分小作料竝ニ軒前地定免小作料額ニ付テハ相手方ノ要求ヲ容レ玆ニ大體意見ノ一致ヲ見ルニ至リシモ、尚軒前地以外ノ定免小作料ニ付テハ最高反當九斗五升トシ以下六級ニ分チ各級五升乃至一斗ノ開キヲ設クルコトヲ主張シ相手方等ハ軒前地ト同一ノ割合ヲ以テ減額方ヲ求メタルガ七月一日第五回調停期日ニ白根町見晴屋旅館ニテ調停シタル軒前地ニ關スル分ニ付調停條項(一)ノ通リ調停成立シタリ。玆ニ於テ軒前地以外ノ土地ニ對スル當事者ニ付七月十三日以降調停ヲ試ミタル結果昭和四年度ヨリ同六年度迄ノ三箇年間ノ平均實納小作料額ヲ以テ定免額及昭和七年度未納米ヲ協定スルコトニ意見一致シタルニヨリ下方ニ於テ右三箇年間ノ實納額ヲ調査セシメタル結果八月二十一日ノ調停期日ニ至リ漸ク別項調停條項(二)ノ通リ調停成立シタリ。

(三) 結末

調停條項(一)

一　申立人(地主)ハ相手方(小作人)ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ昭和八年度ヨリ同十年度迄ノ三箇年間賃貸小作セシムルコト

右期間内ノ小作料ハ一軒前ニ付三十四俵ヲ以テ建石トス

二　前條田地ノ定免小作料ハ天災地變ニ依リ田地一軒前收量カ六十俵未滿ノ年次ニ限リ右六十俵ト田地一軒前收量トノ差額ノ七割ヲ一軒前建石三十四俵ヨリ減免スルモノトス

三　小作人ニ於テ前條ノ減免ヲ受ケントスルトキハ刈取十日前迄ニ地主ニ對シ地番、反當見込收量ヲ記載シタル書面ヲ以テ檢見ノ申出ヲ爲スコトヲ要ス

四　當事者ハ前條檢見ノ申出アリタルトキ否トニ拘ラス毎年地主小作人ヨリ各半軒前ノ田地ヲ選定シ縣公務員タル技術者ニ依賴シ收量ノ査定ヲ受クルコト此ノ審査ノ方法及結果ニ付テハ互ニ異議ナキコト

五　小作人ニ於テ收量ノ査定ヲ受ケスシテ稻ヲ刈取リタルトキハ減免ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス地主ニ於テ檢見ノ申出アリタルニ拘ラス其ノ申出アリタル日ヨリ十日以内ニ第四條ニ依ル方法ニ着手セサルトキハ小作人ノ申出收量ヲ承認シタルモノト看做ス

六　小作料ハ並上米ヲ以テ建米トス

但シ其ノ年ノ生產檢査成績ノ結果ニ依リ並上米以下ノ生產量カ並上米ノ生產量ヨリ多キトキハ該檢査成績ノ割合ニ依リ納入スルコトヲ得

右標準ニ依ラサルトキハ互ニ格差金ヲ授受スルコト

七　小作料ハ二重俵裝ヲ以テ毎年十二月二十日迄ニ從來ノ通リ地主指定ノ場所ニ運搬授受スルコト但シ十月末日迄ニ納入スルモノハ單俵トナスコトヲ得

小作人ハ納米期日迄ニ實納小作料カ確定セサル場合ト雖モ其ノ主張額ヲ期日迄ニ納入スルコト

八　小作人ヨリ地主ニ納入スヘキ本件土地ノ昭和七年度小作料ハ一軒前ニ付二十五俵建トス
右未納米ハ昭和八年七月十五日迄ニ並米ヲ以テ夫々納入スルコト

九　小作料ヲ玄米ヲ以テ納入シ得サルトキハ新潟市ニ於テ發行スル二大新聞所載ノ其ノ年十一月二十日(休日ナルトキハ翌日)ノ正米標準相場ノ平均額ニ依ル現金ヲ以テ納入スルコト

十　小作人ハ地主ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ轉貸又ハ小作權ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

十一　第一條契約期間中ト雖モ本件土地ニ付公共事業ノ爲地目ニ變更ヲ生シタルトキハ小作人ハ該土地ヲ異議ナク地主ニ返還スルコト

十二　小作人ニ於テ本件條項ニ違背シタルトキハ地主ハ何等ノ手續ヲ要セスシテ小作契約ヲ解除シ直ニ土地ノ引上ヲ爲スコトヲ得
但シ納米期日後ト雖モ實納小作料カ確定セサル場合ハ本條ヲ適用セス

十三　本件條項ニ定メナキモノハ總テ從來ノ慣例ニ依ルコト

十四　本件契約期間滿了ノ場合ハ當事者間ニ於テ協定ノ上之ヲ更新スルコトヲ得但シ小作料ニ付テハ第四條ニ依リ調査シタル收量ヲ基トシ小作料ヲ協定スルコト此ノ協定調ハサルトキハ小作官ノ判定ニヨルコト

調停條項(一)

一　申立人(地主)ハ相手方(小作人)ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ昭和八年度ヨリ同十年度迄ノ三箇年間賃貸小作セシムルコト
右期間ノ小作料ハ別紙目錄記載ノ通リトス

二　前條田地ノ定免小作料ハ天災地變ニヨリ各筆ノ反當收量カ一石未滿ノ年次ニ於テハ減免ヲ爲スモノトス此ノ減免額ニ付テハ當事者間ニ於テ協定スルコト

三　小作人ニ於テ前條ノ減免ヲ受ケントスルトキハ刈取十日前迄ニ地主ニ對シ地番、反當見込收量ヲ記載シタル書面ヲ以テ檢見ノ申出ヲ爲スコトヲ要ス

四　前條檢見ノ申出アリタルトキハ當事者間ニ於テ適當ノ方法ニヨリ全收量ヲ協定スルコト
第二條ノ減免額竝ニ前項ノ協定調ハサルトキハ小作官ノ判定ニ依ルコト
此ノ方法及結果ニ付テハ互ニ異議ヲ述ヘサルコト

五　小作人ニ於テ收量ノ査定ヲ受ケスシテ稻ヲ刈取リタルトキハ減免ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス地主ニ於テ檢見ノ申出アリタルニ拘ラス其ノ申出アリタル日ヨリ十日以內ニ第四條ニ依ル方法ニ着手セサルトキハ小作人ノ申出收量ヲ承認シタルモノト看做ス

六　小作料ハ並上米ヲ以テ建石トス但シ其ノ年ノ生産量カ並上米ノ生産量ヨリ多キトキハ該檢査成績ノ割合ニ依リ納入スルコトヲ得

右標準ニ依ラサルトキハ五ニ格差金ヲ授受スルコト

七　小作料ハ二重俵裝ヲ以テ毎年十二月末日迄ニ從來ノ通リ地主指定ノ場所ニ運搬ノ上授受スルコト
但シ十月末日迄ニ納入スルモノハ單俵ト爲スコトヲ得

八　小作人ヨリ地主山田某ニ納入スヘキ本件土地ノ昭和七年度未納米ハ第一項ノ額ヲ以テ來ル昭和八年九月二十日迄ニ並米ヲ以テ夫々納入スルコト

九　小作料ヲ玄米ヲ以テ納入シ得サルトキハ新潟市ニ於テ發行スル二大新聞所載ノ其ノ年十二月二十日(休日ナルトキハ翌日)ノ正米標準相場ノ平均額ニ依ル現金ヲ以テ納入スルコト

十　小作人ハ地主ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ轉貸又ハ小作權ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

十一　第一條ノ契約期間中ト雖モ本件土地ニ付公共事業ノ爲地目ニ變更ヲ生シタルトキハ小作人ハ該土地ヲ異議ナク地主ニ返還スルコト

十二　小作人ニ於テ本件條項ニ違背シタルトキハ地主ハ何等ノ手續ヲ要セスシテ小作契約ヲ解除シ直ニ土地ノ引上ヲ爲スコトヲ得但シ納米期日後ト雖モ實納小作料カ確定セサル場合ハ本條ヲ適用セサルコト

十三　本件條項ニ定メナキモノハ總テ從來ノ慣例ニ依ルコト

十四　本件契約期間滿了ノ場合ハ當事者間ニ於テ協定ノ上之ヲ更新スルコトヲ得

二一　富山縣上新川郡大澤野村（小作契約締結）

爭議發生　昭和四年五月

調停申立

第一回　昭和五年六月十七日(昭和五年(小調)第一〇號乃至第一五號事件)
第二回同　年七月八日(昭和五年(小調)第一七號事件)
第三回同　年七月十二日(昭和五年(小調)第一八號事件)
第四回同　年九月二日(昭和五年(小調)第二一、二二號事件)
第五回同　年九月三日(昭和五年(小調)第二三號事件)
第六回同　年九月六日(昭和五年(小調)第二四號事件)
第七回同　年九月八日(昭和五年(小調)第二五號事件)
第八回同　年九月九日(昭和五年(小調)第二六號事件)
第九回同　年九月十二日(昭和五年(小調)第二七號事件)
第十回同　年九月十三日(昭和五年(小調)第二八號事件)
第十一回同　年十一月四日(昭和五年(小調)第二九號事件)

第十二回　昭和六年三月十三日(昭和六年(小調)第九號事件)
第十三回　昭和七年三月五日(昭和七年(小調)第九、一〇號事件)
第十四回　昭和八年六月五日(昭和八年(小調)第一九、二〇號事件)
第十五回　同　年十月二十六日(昭和八年(小調)第二四號事件)

一部解決

昭和五年七月十日(昭和五年(小調)第一二號事件)
同　年七月十六日(昭和五年(小調)第一〇、一一號事件及第一三號乃至第一八號事件)
同　年九月十日(昭和五年(小調)第二一號乃至第二六號事件)
同　年九月十二日(昭和五年(小調)第二七號事件)
同　年九月十三日(昭和五年(小調)第二八號事件)
同　年十一月五日(昭和五年(小調)第二九號事件)
昭和六年三月十六日(昭和六年(小調)第九號事件)
昭和七年三月五日(昭和七年(小調)第九、一〇號事件)
昭和八年六月五日(昭和八年(小調)第一九、二〇號事件)

昭和八年十一月二十六日(昭和八年(小調)第二四號事件)

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　三百十人
　　調停　右ニ同ジ(地主又ハ小作人申立)

關係土地　爭議　田　二百七町五畝六歩
　　宅地　八町九反三畝十歩
　　其ノ他　五反二畝二歩
　　調停　右ニ同ジ　畑　十七町九反七畝十三歩
　　山林原野　二十八町八畝九歩

(一)　爭議ノ概況

富山市五番町居住内野某ハ大澤野村ニ於ケル三百五十餘町歩ノ所有未開墾地ヲ開拓セントシ、明治三十七年富山縣下ノ各市町村ヨリ開墾移住者ヲ募集シ開墾ニ着手シタルガ、其ノ後開墾事業着々進捗シテ明治四十年ニハ既成田實ニ百七十四町歩餘ニ達シ、從來ノ用水路ヲ以テハ灌漑水ノ不足ヲ來スニ至リタルヲ以テ用水路ノ一大改修ヲ行ヒ、同時ニ耕地ノ整理、未開墾地ノ開拓ヲ目的トシテ大正十年耕地整理組合ヲ設立シタリ。

當時地主小作人間ニ於ケル小作條件ハ既成田ニ就キテハ小作料反當五斗内外ニシテ、開墾土地ハ開墾後當分無年貢トシ、其ノ間地主ノ用水費ノ一部ヲ負擔スル意味ニ於テ水米トシテ百歩ニ付三升五合ヲ納入シ、相當收穫ヲ得ルニ至リタル後小作料ヲ協定スルコトトナシ居タリ。

然ル處大正十二年用水路ノ改修完成シ、水田ハ水不足ヲ感ズルコトナキニ至リタルガ、一方地主内野ハ耕地整理費及用水費ニ莫大ナル經費ヲ要シ收支償ハザルニ至リタルヲ以テ、從來ノ水米三升五合ヲ七升(百歩ニ付)ニ增額シ、古田(大正十二年以前ニ開田シタルモノ)ハ既定ノ小作料ヨリ百歩ニ付七升五合增額セントシ、昭和四年五月小作人總代ヲ招致シテ右增額ノ承認方懇請シタリ。然ルニ小作人總代中二、三名ヲ除ク外ハ之ヲ承認セザリシガ、地主内野ニ於テハ飽ク迄增額ノ目的ヲ貫徹セントシ、其ノ後再三小作人側ト折衝ヲ重ネタルモ兩者ノ妥協成ラズ、却テ小作人ノ感情ヲ激發セシメ益々反對ノ氣勢ヲ擧ゲシムルニ至リタルガ、從來ヨリ縣下ニ地歩ヲ占メント腐心シ居タル全國農民組合ハ之ヲ好機トシテ同系分子梶某、杉澤某、增山某等ヲ大澤野村ニ潜入セシメ、小作人ヲ煽動シテ爭議ヲ愈擴大激化セシメ、終ニ昭和四年十二月十三日全國農民組合大澤野支部ヲ設立セリ。

然レドモ同組合ノ趣旨ガ小作人等ノ豫期セシ趣旨ト相容レザルモノアリタル爲、其ノ後脫會者續出シ、脫會セル二百餘名ノ小作人ハ辯護士高見某ノ斡旋ニヨリ地主内野ト交涉ノ上圓滿協調ヲ遂ゲタリ。然レドモ五十餘名ノ小作人ハ飽ク迄從前ノ條件ヲ固執シテ讓ラズ、結束ヲ固クシテ前記梶、杉澤等ノ指導ノ下ニ地主ニ對抗シ、爭議ハ愈惡化セル爲、地主内野ニ於テハ小作人トノ抗爭ニ惱マサルルノミナラズ所期ノ小作料增額意ノ如クナラズシテ耕地整理組合費及用水費ノ負擔ニ耐ヘザルニ至リタリ。加フルニ各種ノ事業ニモ失敗ヲ重ネ經濟狀態愈惡化スルニ至リタルヲ以テ、終ニ昭和五年四月十一日大澤野開墾土地全部ヲ日本電力株式會社ニ賣却シタリ。

日本電力株式會社ニ於テハ同年四月十四日笹津土地興業株式會社ヲ創立シ、同會社ニ右土地ヲ經營セシムルコトトセルガ、同土地會社ハ會社組織ニヨリ農業經營ヲ爲スモノニアラズシテ、買收土地ニ大工場、大會社ヲ誘致シテ土地ヲ分讓スルト同時ニ是等ニ日本電力株式會社所屬ノ電力ヲ購入セシメ、以テ土地賣却ニヨル利益ヲ得ルト共ニ電力ノ供給ニヨリ日本電力株式會社ノ營業目的ヲ達セントスルモノニシテ、土地買收ト同時ニ小作人ニ對シ同會社ノ目的遂行ノ爲ニ必要ナル條項ヲ挿入セル賃貸借契約ノ締結ヲ要求シタリ。小作人側ニ於テハ會社側ノ要求ハ小作人ノ生活ヲ脅威スルモノニシテ小作人ノ死活問題ナリト絶叫シ、農民組合ハ勿論、組合外小作人迄立上リテ會社ニ對抗スルニ至リ、地主内野ニ對スル抗爭ハ土地會社ニ對スル熾烈ナル鬪爭ニ轉換スルニ至レリ。然レドモ其ノ後會社ハ各種ノ手段ヲ講ジテ小作人ノ切崩ヲ行ヒ、最初軟化セル三十名ノ小作人ニ會社ノ要求スル賃貸借契約條件ヲ承諾セシメタル上、之ニ法的效力ヲ附與セントシテ昭和五年六月十七日富山地方裁判所ニ小作調停ノ申立ヲ爲シタリ。

然レドモ其ノ契約内容ハ甚シク小作人ニ不利ナルモノナリシヲ以テ、調停委員會ニ於テハ之ガ内容ノ是正ニ努力シ、修正ノ上調停ヲ成立セシメタルガ、其ノ後會社ハ小作人側ヲ次第ニ切崩シ、賃貸借契約ニ調印方承諾セシメタル上、其ノ都度之ヲ法上調停ト爲シ、最初ノ調停條項ニ準ジ調停セルモノ

昭和八年六月末迄ニ約二百七十餘名ニ及ベリ。

然レドモ全農組合員タル小作人五十餘名（全農組合員ハ昭和五年頃五十餘名ナリシモ、其ノ後會社ニ切崩サレ三十五名トナリ居タルガ、最近又十名軟化シテ二十五名トナレリ）ハ當初ヨリ開墾小作權ヲ主張シテ譲ラズ、結束ヲ強固ニシテ小作料ノ滯納、演説會ノ開催、過激ナル宣傳ビラノ撒布或ハ張札ヲ電柱其ノ他一般人ノ見易キ箇所ニ貼付スル等種々ナル戰術ヲ用ヒテ鬪爭ヲ續ケ來リタリ。茲ニ於テ會社ハ全農組合員トノ小作契約締結ノ不可能ナルコトヲ悟リ、昭和六年二月十六日小作人側ノ中心人物タル山崎某、湯淺某、石割某ニ對シ同人等ノ占據スル土地ヲ取上ゲントシ、不法占據ヲ理由トシテ土地明渡請求訴訟ヲ富山地方裁判所ニ提起シ、次イデ該土地引渡請求權ノ執行保全處分トシテ假處分ノ申請ヲ爲シタリ。然ル處該假處分ノ決定書ニハ右三名ノ占據スル土地ノ占有ヲ解キ地主ノ委任スル執達吏ノ占有ニ移シ執達吏ヲシテ之ヲ保管セシメタル上、執達吏ハ右土地ノ現狀ヲ變更セザル限リ本案判決確定ニ至ル迄右三名ニ對シ從來通リ右土地ノ使用收益ヲ爲サシムベキ旨ノ記載アリテ、會社側ニ於テ右土地ヲ假處分ニヨリ取上ゲ使用收益セントノ畫策效ヲ奏セザリシカバ、全農組合員等ハ之ヲ奇貨トシテ常ニ巧妙ナル戰術ヲ以テ之ニ當リ、訴訟審理ノ遲延ヲ策シテ全農組合員全部ノ訴訟參加ヲ申出デ訴訟ヲ複雜ナラシメ或ハ開廷日ニ組合員大擧シテ裁判所ニ押寄セ示威運動ヲ行フ等種々ノ戰術ヲ以テ會社側ニ對抗シ來リタリ。然ルニ昭和六年十二月第一次共產黨ノ檢擧アリ。次イデ第二次、第三次ノ檢擧ニヨリ全農縣聯ノ幹部續々檢擧セラレテ主要指導者ヲ失ヒタルノミナラズ、小作人側ノ中心人物モ相次イデ檢擧セラレテ鬪爭力ヲ著シク減殺サレ氣勢揚ラザリシガ、之ヲ好機トシテ會社側ニ於テハ一擧ニ大澤野ニ於ケル全農ヲ潰滅セシメントシテ昭和八年九月二十五日訴訟中ノ山崎某外二名ノ立稻及動產ノ假差押申請ヲ爲シ、同月二十七日之ガ決定アルヤ翌二十八日會社ハ立稻ノ差押執行ヲ爲シ、十月二日之ガ刈取ヲ爲シ、同月十二日其ノ競賣ヲ爲シタルニ、鬪爭力著シク衰ヘタル全農組合員ハ差押妨害等ノ行動ニ出ヅルコトナク、唯周章狼狽スルノミニシテ直ニ假差押異議ノ申立ヲ爲シタルモ、客觀的情勢ノ不利ナルヲ覺リ鳩首協議ノ上十月二十六日小作調停ノ申立ヲ爲シタリ。

（二）調停ノ經過

本爭議ハ縣下屈指ノ大事件ナルノミナラズ、縣下各地ノ小作爭議ノ源泉ヲ爲セルモノナルヲ以テ、裁判所ニ於テモ特ニ愼重ナル態度ヲ以テ調停ニ臨ムコトトシ、調停申立アルヤ直ニ管下調停委員中ニ於テ最モ優秀ナルモノヲ指定シテ委員會ヲ構成スルコトトシ、同時ニ裁判所長モ調停委員會ニ臨ミテ主任判事ヲ應援スルコトトセリ。

斯テ十月六日第一回調停委員會ヲ開催シタル處、小作人側ニ於テハ

（一）本件小作人等ハ他ノ小作人ヨリ比較的遲レテ大澤野ニ移住シ、他ノ小作人ヨリ成田ノ小作權ヲ購入シ或ハ前地主內野ニ對シ多額ノ金員ヲ支拂ヒテ小作權及開墾權ヲ買受ケ永久小作スルノ契約ヲ

爲シ、爾來成田ハ小作シ、未開墾地ハ永年間多大ノ勞力ト資本ヲ投ジ開墾シ來リタルモノナルヲ以テ、會社ハ小作人等ノ小作權ヲ承認スルコト

(二) 政府及縣當局ヨリ開墾助成金ノ交付ヲ受ケ乍ラ之ヲ精算ノ上小作人ニ給付スルコト

(三) 係爭土地ハ地盤土質不良ナル上、用水路不充分ナル爲各年ノ收穫甚シク少ク肥料代スラ得ラレヌ現狀ニアルヲ以テ、小作人ガ昭和八年迄ニ滯納シ居ル小作米ハ全部免除スルコト

(四) 開墾地ニシテ收穫不確定ナレバ昭和九年度以降ノ小作料ハ每年ノ作柄ニ據リ双方協定ノ上納入スルコト

(五) 用水不足ニ付用水路ヲ完備スルコト

等ヲ要求シ、之ニ對シ會社側ニ於テハ

(一) 會社ガ大澤野開墾土地ヲ買受クルニ至リタルハ、大澤野村民大多數ノ輿論トシテ同村ノ衰頽ヲ防止シ村民ノ生活ヲ安全ナラシムルニハ大工場ヲ誘致シ土地ノ繁榮ト仕事ノ增加ヲ計ルニアリトシ、村當局竝ニ村有力者ノ懇請アリタルニ因ルモノニシテ、該地上ニハ永小作權其ノ他何等買受人タル會社ノ負擔スベキ義務ナク、工場ノ建設ニ付何時ニテモ何等支障ナキコトヲ前所有者內野其ノ他地元村民等ガ言明シ居リ、會社ハ昭和五年五月何等負擔ナキ完全ナル所有權ヲ取得セルモノナルヲ以テ、今更小作人ガ永小作權ノ存在ヲ主張スルモ之ヲ認ムル能ハズ

(二) 開墾助成金ニ就キテハ會社ニ於テ其ノ給付ヲ受ケ居ラザルヲ以テ之ガ支給ヲ爲ス能ハズ

(三) 昭和八年度迄ノ滯納小作料免除ノ要求アルモ、會社ハ公租公課ノ負擔多ク、滿足ニ小作料ノ納入ヲ受クルモ尙且收支償ハザル狀態ナレバ其ノ要求ニ應ジ難シ

(四) 其ノ他ノ要求ニ就キテモ之ニ應ジ難シ

結局會社ハ從來既ニ二百七十餘名ノ小作人トノ間ニ調停成立シ小作契約ヲ締結シ居ルニ拘ラズ、之ト異ル條件ヲ以テ妥協シ現在係爭中ノ小作人ノミニ除外例ヲ以テ特別優遇スルガ如キコトハ他ノ小作人等ノ動搖ヲ招來スル虞アリ。會社トシテハ二百七十餘名ノ善良ナル小作人ヲ生カスカ、二十五名ノ全農組合員ヲ生カスカ其ノ一ヲ選バザルベカラザル破目ニアルモノナレバ、從前成立セル調停條項ヲ以テ調停ヲ爲スナラ格別、其ノ他ノ條項ニヨリ妥協ヲ爲スハ斷ジテ不可ナリト主張シ、双方ノ主張甚シク懸隔シテ妥協ノ餘地ナキヲ以テ再考ヲ促セリ。

次デ十月十七日第二回調停委員會ヲ開催シ双方ノ互讓ニ努メタル處、小作人側稍讓歩ノ色ヲ示シタルモ、會社側ニ於テハ從前成立セル調停條項ト異ル條件ヲ以テハ絕對ニ調停ニ應ジ難シト强硬ニ主張シ、如何ニ調停ニ努ムルモ會社ニ於テハ名目上ハ從前ノ調停條項ヨリ一歩タリトモ讓歩シ得ザル事情ニアリダルヲ以テ、委員會ハ協議ノ上名目上ハ本件小作人等モ從前ノ例ニ倣ヒ調停シ、別途ニ於テ本

件小作人等ガ本件土地ニ對シ今日迄ニ投ジタル多大ノ勞費ニ酬ユル何等カノ方法ヲ講ズルコトトシ、此ノ方針ノ下ニ調停ヲ進メタルニ、會社側ヲ代表シテ出席セルハ會社出張所主任ニシテ其ノ權限範圍狹ク充分ナル交渉困難ナリシヲ以テ、委員會ニ於テハ本社（大阪市所在）ノ責任アル地位ニアル者ヲ呼出シ之ト交渉スルコトトセリ。

而シテ十月二十三日大阪ヨリ專務淸水某來富シタルヲ以テ二十四日及二十六日ノ兩回調停委員會ヲ開キ、裁判所長モ委員會ニ出席シ調停ニ努ムルト共ニ小作官、調停委員等ハ二十四日以來期日及期日外ヲ問ハズ連日連夜双方ニ折衝ヲ重ネ妥協斡旋ニ努メタル結果、最後ノ委員會タル二十六日小作人側ハ從來通リノ調停條項ヲ以テ調停ニ應ズルコトヲ承諾シ、會社側亦從來ノ方針ヲ改メ經營地ハ面積廣大ナルヲ以テ工業地帶ト農業地帶ニ分チ農業經營モ併セテ行ヒ小作人ノ保護奬勵施設ヲ爲シ小作人ノ生活ノ安定ヲ計ルベキ旨言明シ、滯納小作料ハ借用證書トシテ小作人ガ善良ナル小作人トナリタル際之ヲ免除スルコトトシ、尙小作人ガ從來開墾ニ付投ジタル勞費ニ酬ユル意味ニ於テ金一封（內容ハ明ナラザレド金五千圓程度ナラン）ヲ交付スルコトトシテ双方ノ妥協成立シタリ。

（三）結　末

調停條項

第一條　當事者双方ハ共存共榮ノ目的ヲ以テ和衷協同將來ノ圓滿ヲ期スルコト

第二條　相手方ハ申立人ノ生活上ニ付誠意アル考慮ヲ拂フコト

第三條　申立人竝ニ其ノ家族ハ全國農民組合ヨリ卽時脫退シ申立人等ノ組織セル全國農民組合大澤野支部ヲ昭和八年十一月三十日限リ解散スヘク今後如何ナルコトアルモ決シテ右類似ノ組合又ハ團體ニ加入シ相手方ニ對シ團體的行動ヲ爲シ若ハ是等ト同一ニ看做サルヘキ一切ノ行爲ヲ爲ササルコト

第四條　相手方ハ其ノ所有ニ係ル別紙目錄記載ノ土地ヲ其ノ各記載ノ各申立人ニ對シ賃貸シ之ニ對シ申立人ハ其ノ各記載ノ賃借料米ヲ相手方ニ各支拂フモノトス

但シ右賃借料米ノ田ニ對スル算定標準ハ左記ノ率ニ依ルモノトス、田以外ノ土地ニ對スル算定標準ハ双方協議ノ上之ヲ定ム

記

等	級	一步ニ對スル小作料	等	級	一步ニ對スル小作料
古	一	二、四五〇（合）	新	一	一、六〇〇（合）
古	二	二、三八〇	新	二	一、四〇〇
古	三	二、二八四	新	三	一、二〇〇
古	四	二、一六七	新	四	一、〇〇〇

古	五	一、九一七	新	五	、八〇〇
古	三	一、二八四	新	六	、七〇〇
古	二	二、三八〇	新	七	、六〇〇
古	一	一、四五〇	新	八	、五〇〇
			新	九	、四〇〇
			新	一〇	、二五〇

右ノ表中「古」トアルハ古田ノ意ニシテ大正十二年以前ニ開墾シタルモノ、又「新」トアルハ新開田ノ意ニシテ大正十三年以後ニ開墾シタルモノニシテ何レモ別紙目錄記載ノ古又ハ新ニ該當スルモノトス

但シ本條賃借料米ハ時價ニ見積リ金員ヲ以テ納付スルモ差支ナキモノトス

第五條　前條賃借料米ハ天災地變アリタル場合ハ此ノ限ニアラス

第六條　第四條新開田中開墾植付後五箇年ヲ經過シタル場合ハ年々新田四等級以上ノ率ニ準シ增額シ古田ノ等級ニ及フモノトス

第七條　第四條ノ賃借料米ハ毎年分賃借地ニ於テ收穫シタル最良米ヲ其ノ年ノ十二月十五日迄ニ大澤野地內相手方ノ指定シタル場所ヘ遲滯ナク納付スルモノトス

但シ別紙目錄記載ノ土地及賃貸料率カ事實ト相違ノ場合ハ双方調査協議ノ上修正スルモノトス

第八條　申立人ハ本契約上ノ土地ヲ賃借地ノ用法ニ從ヒ耕作ノ範圍內ニ於テ使用收益ヲ爲スコトヲ得ルモ耕作以外ノ爲使用スルコトヲ得ス

第九條　申立人ハ相手方ノ承諾ナクシテ其ノ耕作土地ヲ第三者ニ轉貸又ハ賃借權ノ移轉若ハ耕作ヲ他人ニ委託スルコトヲ得ス

第十條　本契約ノ期間ハ別ニ之ヲ定メサルモ相手方ニ於テ事業經營上必要トスル場合ハ申立人ハ相手方ノ要求ニ依リ何時タリトモ異議ナク離作シ卽時土地ノ返還ヲ爲スモノトス

若シ右土地返還ノ場合ニ於テ申立人カ地上物ヲ收去シテ遲滯ナク其ノ明渡ヲ爲ササルトキハ相手方ハ裁判所ノ手續ヲ履踐スルコトナク申立人ノ費用ヲ以テ自ラ之ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルモ收穫前ノ作物（但シ施肥後作物未發生ノ場合ハ之カ肥料代例ヘハ馬手間、人夫賃、藁代、紫雲英ノ如キモノ）ノ損害ニ對シテハ相手方ハ之カ實損害ニ依リ申立人ニ支拂フモノトス

第十一條　前條離作ニ關シ相手方ハ申立人ニ支拂フヘキ離作料ハ左記ノ通リ協定セリ

一　田　一反歩ニ付金四十五圓也

但シ右離作料ノ外開墾費トシテ開墾後離作期日迄七箇年未滿ノモノニ對シ大澤野耕地整理組合ニ於テ證明シタル開墾費ニ對シ左ノ割合ニ依リ相手方ハ申立人ニ支拂フモノトス

一　四箇年以上七箇年未滿ノモノ　開墾費ノ五分ノ一

一　四箇年未滿ノモノ　開墾費ノ五分ノ二
一　三箇年未滿ノモノ　開墾費ノ五分ノ三
一　二箇年未滿ノモノ　開墾費ノ五分ノ四

第十二條　本契約上ノ土地ニ對シ現狀ニ變更ヲ來スヘキ工作（例ヘハコンクリートノ畦畔、暗渠、肥料溜ノ如キモノ）ヲ加ヘントスルトキハ相手方ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス
但シ承諾ヲ得テ加工ヲ爲シタルトキト雖土地返還ノ場合ニ於テ之ヲ原狀ニ回復セス又ハ之ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ之ニ依リテ附屬セシメタルモノハ當然相手方ノ所有ニ歸シ申立人ハ之カ苦情求償ヲ申出ツルコトヲ得ス

第十三條　相手方ハ本契約上ノ土地所有權ヲ第三者ニ移轉シタル場合ハ本契約ハ何等ノ手續ヲ要セス當然解除セラルルモノトス但シ該第三者カ本契約上ノ權利義務繼承ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ申立人ハ異議ナク之ニ應スルコトヲ承諾ス

第三者カ土地所有權ヲ取得シタルト同時ニ土地返還ノ請求ヲ爲シタル場合ハ本契約ニ基キ離作竝ニ開墾費及第十條ノ實損害ヲ相手方ハ申立人ニ支拂ヒ申立人ハ異議ナク土地ヲ明渡スモノトス

第十四條　相手方ハ昭和五年度ヨリ昭和七年度迄三箇年間ノ小作料ハ時價ニ換算シテ之ヲ申立人等ニ

貸付ヶ申立人ハ別紙借用證書ヲ相手方ニ差入ルルコト

第十五條　申立人ニ於テ前記第三條乃至第十四條ノ各條ニ違反シタル場合アリタルトキハ相手方ノ要求ニ依リ何時ニテモ無條件ヲ以テ申立人ハ賃借土地ノ返還ニ應スヘキモノトス

第十六條　相手方ハ申立人山崎某、石割某ニ對スル富山地方裁判所昭和六年（ワ）第三二號土地引渡請求訴訟其ノ他當事者ニ關係アル訴訟事件ハ遲滯ナク取下ケ申立人山崎某、石割某其ノ他關係申立人ハ右訴訟ノ取下ニ同意スルコト

第十七條　前條訴訟事件ノ訴訟費用及本調停費用ハ各自辨ノコト

（別紙目錄省略）

二二　石川縣石川郡蝶屋村大字手取新　（小作料增額反對）

爭議發生　昭和八年四月四日
調停申立　昭和八年十二月六日
解　決　昭和九年五月二十日
關係人員　爭議　地主　一人　小作人　十二人
（調停　右ニ同ジ（小作人申立））

關係土地　爭議田　四町七反二十一歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

地主盛本某ハ小作人中野某外十一名ニ對シ大正十二年ヨリ小作料ヲ平均坪三勺宛減額シ來リタリトノ理由ヲ以テ、本年ヨリ之ガ廢止ヲ主張シ、若シ之ニ應諾セズバ小作地ヲ返還スベシトノ旨ヲ通告シタルコトニ原因スルモノニシテ、本字ノ土地ハ元一等地ヨリ十五等地ニ區分セラレ、小作米ハ一等地坪五合ヨリ、以下等級ニ從ヒ漸次低下シ一合ニ及ベリ。係爭土地ノ大部分ハ八等地ヨリ十五等地ニ屬シ、手取川ノ沿岸ニ接續シ居ルタメ水害ヲ蒙リ易ク收穫一定セズ、加フルニ耕作不便ノ地タリ。大正十二年頃同地ニ不作アリタル際、之ヲ機會ニ地主小作人ハ双方協定ノ上多少小作料ノ改訂ヲ行ヒタルモ、其ノ後漸次增額シ、現在ニ於テハ所ニヨリ改訂前以上ノ小作料ニ達セルモノアリ。而シテ地主ハ本年四月四日小作人ヲ自宅ニ呼寄セ小作料ノ値上ヲ主張シ若シ之ニ應ゼザレバ土地ヲ返還スベシトノ旨ヲ申渡シタルヲ以テ、小作人ハ地主ノ突然ニシテ意外ナル要求ニ驚キ對策ヲ協議シタル結果、地主ノ要求ハ實情ヲ無視シ小作人ノ生活權ヲ脅スモノニシテ、而カモ村會議員ノ改選期ヲ控ヘ斯ノ如キ要求ヲ爲スハ事重大問題ナリトシ、之ガ値上ニ反對スルコトニ申合セ、結束ノ上此ノ旨地主ニ傳ヘ飜意方ヲ交涉シタルニ地主納得セズ、双方ハ事態ヲ繞リ漸次紛糾セントシタリ。茲ニ於テ地主ハ周圍ノ形勢ニ鑑ミ急ニ主張ヲ鈍ラシ沈默ノ態度ヲ採ルニ至リシカバ、村會議員ノ選擧及田植ノ作業ハ滯リナク終了スルコトヲ得タリ。而シテ小作人ハ其ノ後地主ヨリ何等ノ交涉ナキタメ問題ハ畢竟地主ノ一時的或種ノ選擧ノ手段ナリト解シ、選擧終了後自然消滅ニ歸スルモノナラント考ヘ居タル處、十月下旬ニ至ルヤ地主ハ再ビ各小作人ニ對シ曩ニ要求セル小作料ノ値上ヲ交涉セルタメ玆ニ問題再燃シ、小作人ニ於テハ理由ナキ小作料ノ値上ニ絕對反對スルコトヲ表明シ、現狀維持ヲ以テ地主ニ交涉セルモ容ルルトコロトナラズ、對策上代表者中野某外四名ヲ縣ニ出頭セシメ小作官ニ陳情ヲ爲サシムルト共ニ、同年十二月六日小作調停ノ申立ヲ爲セリ。

（二）調停ノ經過

裁判所ハ本件調停ノタメ調停委員三名ヲ指定シ、昭和八年十二月二十四日及昭和九年一月二十日ノ二回ニ亘リ當事者ヲ呼出シタルモ、相手方地主ハ病氣ヲ理由ニ不參ノ申出ヲ爲シ出席セズ、更ニ二月二十四日裁判所ハ同所ニ於テ當事者ノ外調停委員、小作官ノ列席ヲ求メ第一回ノ調停ヲ開始シ、事件ノ原因、經過ニ付當事者ヨリ主張要求ヲ聽取シタルニ、相手方地主ノ主張セル小作料增額要求ノ理由ハ從來小作地ノ附近ニ製紙會社ガ存在シ近時同會社ヨリ排出セル製紙ノ濁水ニ肥料分含有シ小作地ニ流レ込ム結果稻ノ發育ヲ助ケ收穫ノ增進ヲ見タルニヨリ小作人ノ受クル利益勘カラズ、其ノ利益ノ一部ヲ地主ニ均霑セシムル意味ニ於テ小作料ノ値上ヲ要求シタルモノナリト云フニアリタリ。之ニ對シ

小作人側ハ製紙會社ヨリ排出セル濁水中ニ如何程ノ肥料分ヲ含ミ居ルヤハ明瞭ナラズ、該濁水ハ田地ニ灌漑スルモノニアラズシテ濁水排泄ノタメ止ムナク或期間田地ニ掛ケ流シスルモノナリ。此ノ濁水ハ獨リ相手方ノ土地ノミニ限ラズ居字地主ノ小作地一般ニ灌注シ居リ、之ヲ以テ增額ノ理由ト爲スハ餘リニ根據薄弱タリ。加フルニ相手方ハ大正十二年ニ協定セル小作料ノ改訂ヲ理由ナキニ破リ、爾來小作人ヲ威嚇シツツ小作料ノ躍上ヲ爲シ、現在ノ小作料スラ既ニ居字他ノ地主ニ比シ高率ノ狀態ニアリ。況ンヤ今回ノ値上ハ當ニ不合理ナルノミナラズ一般地主トノ權衡ヲ缺キ、延テハ村ノ平和ニ及ボス影響少シトセズ。仍テ居字他ノ地主ノ遵守履行セル例ニ倣ヒ手取新舊田等級原簿ノ小作料標準ニ依ル方妥當ナリトノ旨ヲ主張シテ讓ラズ。斯テ當日調停進捗セザリシヲ以テ第二回ノ調停期日ヲ三月十七日ト定メタルガ、相手方地主ハ前回ノ調停委員會ノ調停ニ際シ委員會ノ形勢ガ自己ニ不利ナリト認メ、目的貫徹ノ手段トシテ三月上旬申立人ノ總代五名ニ對シ內容證明郵便ヲ以テ土地卽時返還要求ノ通知ヲ發シ威嚇的ノ態度ニ出デタリシニヨリ、小作人ハ憤慨シ問題紛糾スルト共ニ表面化スルニ至リ、其ノ結果相手方ハ村內外ノ農民ヨリ非難攻擊セラレ信用次第ニ失墜シ、爲ニ第二回ノ調停期日タル三月十七日ニ出席不能トナリ、遂ニ當日病氣ト稱シテ呼出ニ應ゼズ。仍テ裁判所ハ調停期日ヲ四月二十八日ニ延期シタリ。

相手方ハ自己ノ態度ト主張ガ世人ノ惡評ト非難ヲ蒙リツツアルニ省ミ、本件ノ調停ヲ村內有志中宗某(地主、產業組合常任理事)及津田某(地主、村會議員)ノ兩人ニ依賴シ解決方ヲ無條件一任セリ。仍テ兩人ハ双方間ニ介在シ、事件ヲ愼重ニ調査檢討ノ上各筆ノ妥當ト認ムベキ小作料額ヲ定メ、明細書ヲ作製シテ地主小作人ニ之ヲ提示シ諒解ヲ求メタルニ、双方ハ孰レモ互讓シ同意ヲ與ヘタリ。

(三) 結末

結局本件ハ下方ニ於テ折衝ノ結果左記ノ如ク協定ヲ見タリシニヨリ双方合意ノ上調停申立ノ取下ヲ爲シタリ。

協定書

石川郡蝶屋村字手取新

地主　盛本某

小作人　中野某

外十一名(連名)

右兩者間ニ於テ小作料ニ付昭和八年十二月六日付金澤地方裁判所ヘ小作調停申立係爭中ノ處今回津田某、中宗某ノ斡旋ニヨリ双方互讓別冊土地目錄記載ノ調停小作料ヲ以テ昭和八年度ヨリノ小作料ト決定シ玆ニ契約書作製關係者連署捺印候也

追テ本契約書竝ニ別冊土地目錄ハ地主小作人總代調停者各一通宛保有スルモノトス

凶作不作ニヨル減收穫ノ場合ノ小作料及小作米等級ハ其ノ都度手取新區ノ協定ニ準スルモノトス

昭和九年五月二十一日

（別紙土地明細書及小作料高省略）

二三　福井縣遠敷郡西津村堀屋敷（未納小作料請求）

爭議發生　昭和八年十二月二十日
調停申立　昭和八年十二月二十日
解　決　昭和九年二月十日
關係人員　爭議　地主　一人　小作人　一人
　　調停　右ニ同ジ（地主申立）
關係土地　爭議　田　六反九畝一歩　原野　二十五歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

石川郡蝶屋村字手取新
地主　盛本某㊞
小作人　中野某㊞
外十一名連名㊞

本件ハ曩ニ小作官ノ法外調停ニ依リ既ニ解決濟ノ處、小作人ハ該條項ヲ履行セズ。地主ハ之ガ爲卸地經營ノ困難ヲ來シ屢履行方催促スルト雖小作人ハ社會大衆黨若狹支部ヲ背景トシテ地主ヲ威嚇シ、容易ニ契約ヲ履行セザルヲ以テ、地主ハ曩ニ法外調停ニ依リ解決シタル條項ニ法律上ノ效力ヲ附與セシムル目的ヲ以テ、昭和八年十二月小作調停申立ヲ爲シタルモノニシテ、元來昭和六、七年度ノ掟小作料未納額ニ關シ小作人ニ支拂能力ナカリシタメ未納小作料ヲ時價ニ換算ノ上、年賦支拂ノ方法ニ依リ履行スル樣契約シタリシモ、小作人ハ現ニ破產宣告ヲ受ケ居ルヲ以テ契約履行ノ資力及能力ナシト主張シテ殆ド放任ノ狀態ニ在リ。地主ハ之ガ履行ノ確實ヲ期スル爲調停申立ヲ爲スニ至レルモノナリ。

（二）調停ノ經過

本件ハ便宜係爭地ノ管轄區裁判所ニ於テ調停委員會ヲ開キタル處、申立人ハ相手方ニ對シ如何ニ寬大ナル措置ヲ採ルト雖相手方ニ誠意ナク、又常ニ無產黨ヲ標榜シテ脅威セラルルタメ精神的ニ苦痛ト不安ヲ抱クヲ以テ小作人ト小作關係ヲ繼續スルコトヲ欲セズ、未納小作料ハ全額免除スルヲ以テ土地ヲ明渡サレタキ旨極力主張スルニ對シ、相手方ハ小作料未納額處理ニ對スル調停ニハ同意スルモ、小作契約ノ解除或ハ土地返還ノ如キ苟モ賃借人ノ生活ノ根據ヲ奪ハルベキ條項ニハ絕對反對ニシテ、强テ之ヲ實現セムトスルニ於テハ一切調停ニハ應ゼズト執拗ニ固辭シテ讓ラズ。仍テ委員會ニ於テハ適

當ト認ムル解決案ヲ提示シタル處、申立人ハ之ニ同意シタルモ、相手方ハ一應考慮ノ猶豫ヲ與ヘラレタキ旨ヲ述ベタルヲ以テ、更ニ翌日引續キ調停ヲ進メタル處、相手方ハ昵懇ナル辯護士ト打合ノ上土地返還ニ關スル條項ニハ極力反對シ前言ヲ繰返スノミナリシヲ以テ、更ニ調停方針ヲ變更シテ極力調停ノ結果、左ノ條項通リ圓滿ニ解決セリ。

（三）結末

調停條項

一　申立人和久田某ヨリ相手方西野某ニ賃貸シアル福井縣遠敷郡西津村堀屋敷第二號西堀十一番田六反十二歩、同字八番田三畝二十歩、同字十九番田四畝二十歩、同字十九番原野二十五歩ノ昭和七年度及昭和八年度ノ小作料ヲ各玄米十俵（四石）トナシ之ヲ換價金ヲ各一箇年金八十圓（二箇年計金百六十圓）トシ昭和九年ヨリ昭和十三年迄毎年十一月三十日限リ金三十二圓宛ヲ賃貸人ニ年賦支拂ヲナスコト

二　賃借人西野某ハ賃貸人和久田某ニ對シ右小作料債權ヲ擔保スル爲賃貸人所有前記遠敷郡西津村堀屋敷第二號西堀十九番原野二十五歩ノ地上ニ存スル賃借人所有ノ

一　木造瓦葺平屋建本家一棟　建坪十二坪（但シ現在未登記ノモノ）

ニ對シ抵當權ヲ設定シ賃借人ハ昭和九年二月二十日限リ賃借人名義ニ保存登記ヲ爲シ同時ニ該不動產ニ對シ賃貸人ノ爲ニ右抵當權設定ノ登記手續ヲ爲スコト

三　賃借人ハ前記第一記載ノ年賦支拂ヲ一回ニテモ怠リタルトキハ前記分割辨濟ノ利益ヲ失ヒ賃貸人ニ於テ昭和七、八年度分ノ延滯小作料全部ニ付直ニ抵當權ノ實行ヲ爲スモ異議ヲ申立テサルコト

四　賃貸人ハ賃借人ニ對シ引續キ前記第一記載ノ土地ヲ昭和九年度ヨリ毎年小作料ヲ玄米十俵ト定メ賃貸シ賃借人ハ右小作料ヲ昭和九年以降毎年十一月三十日限リ賃貸人ニ支拂フコト

二四　山梨縣東八代郡祝村（小作繼續）

爭議發生　昭和七年十二月

調停申立　昭和八年四月二十五日

解決　昭和八年十二月二十日

關係人員　爭議地主二人　小作人五人

關係土地　爭議　葡萄畑　三反七畝二十二歩

調停　右ニ同ジ（小作人申立）

（一）爭議ノ概況

本件土地ハ前地主內田某ガ昭和五年四月東八代郡石廩村橘田某ニ永小作權ヲ設定シ且地上物件（葡

葡樹及棚）ヲ賣渡シ更ニ同人ヨリ賃借耕作中ノ處、橘田某ハ內田某トノ賃貸契約ヲ解除シ地上物件竝ニ永小作權ヲ東山梨郡勝沼町坂本某ニ譲渡シ坂本ハ更ニ自己ノ親戚ナル本件小作人等ニ之ヲ耕作セシメ居リタルモノナリ、然ルニ今回本件地主ハ本件土地ヲ競落シ小作人ニ土地ノ返還ヲ要求シ爭議トナルニ至レリ。

當地方ニ在リテハ葡萄ノ栽培盛ニシテ葡萄樹及棚ハ一般ニ賣買擔保ノ目的物トナリ、祝村岩崎葡萄販賣購買信用組合ニ於テモ組合員ヘノ貸付金ノ擔保トシテ地上物件ヲ利用シツツアリ。總テ契約ハ公正證書ヲ以テ賣買ノ形式ヲ以テセラレ本件土地ニ關シテモ左ノ如キ賣買及賃貸借契約公正證書アリ。

賣買及賃貸借契約公正證書

本職ハ當事者ノ囑託ニ因リ法律行爲ニ關シ聽取シタル陳述ノ趣旨ヲ左ニ錄取ス

第一條　內田某ハ所有ノ後記物件ヲ代金三千八百圓ト定メ之ヲ受取リ賣渡シ買受人橘田某ハ之ヲ買受ケタリ

第二條　本件物件ハ双方立會點檢シテ買受人ノ所有ニ移セシモノニシテ何方ヨリモ一切故障ナキコトヲ賣渡人ハ擔保スヘシ

第三條　買受人ハ若シ賣渡人カ昭和十年三月末日迄ニ原價金三千八百圓ヲ提供シテ本件物件ヲ買戻サムトスルトキハ何時ニテモ異議ナク賣渡スヘシ

第四條　賃借人內田某ハ賃貸人所有ノ後記物件ヲ現在ノ場所ニ於テ使用ノ爲賃借シ賃貸人橘田某ハ之ヲ賃貸シタリ而シテ其ノ期限ハ昭和十年三月末日迄ニシテ賃金ハ一箇年五百圓ヲ毎年十月三十日支拂フコト

第五條　賃借人ハ期限ニハ此ノ物件ヲ滿足ニ返還スヘシ若シ賃金ノ支拂ヲ怠ルカ又ハ此ノ物件ヲ用法以外ノコトニ使用セシカ又ハ賃貸人ニ於テ物件所有權保全上必要ナリト認メラレタルトキハ其ノ期限ニ拘ラス何時ニテモ此ノ物件ヲ取戻サルルモ異議申立テサルヘシ

第六條　本件物件全部ノ總價格ハ双方協議ノ上金三千八百圓ト定メタルモノニシテ若シ物件損傷又ハ滅失ノ場合ニハ此ノ價格ヲ標準トシテ賃貸人ノ指定スル相當ノ金圓ヲ賃借人ハ賠償スヘシ

第七條　賃借人ハ期間ニ物件ノ返還ヲ怠リシトキハ實際返還ノ日迄此ノ賃率ト同一ノ金額ノ損害賠償ヲ支拂フヘシ

第八條　賃借人ハ本證金錢債務不履行ノ場合ハ直ニ强制執行ヲ受クヘキコトヲ認諾シタリ

第九條　賣買及賃貸借物件ハ左ノ如シ

山梨縣東八代郡祝村下岩崎地內第千三百一番畑一畝一步外二十筆合計反別九反一畝十九步ノ土地ノ上ニ架設シアル鐵線葡萄棚全部及該土地ニ栽培セル葡萄樹合計八十九本ヲ有スル地上權及其ノ土地ニ對スル耕作權

山梨縣東八代郡石處村
買受人兼賃貸人　橘田某
同所祝村下岩崎
賣渡人兼賃借人　內田某

橘田及坂本間ニ於テモ右ト略同樣ノ賣買公正證書アリ。

競落者タル地主二名ハ耕作者ニ對シ競賣ニ依リ本件所有權ヲ取得シタルモノニ付永小作權ハ既ニ消滅シタル旨ノ通知及土地明渡ノ催告ヲ爲スニ至リタルヲ以テ耕作者側ニ於テハ本件同樣ノ土地ニシテ岩崎信用組合ノ競落地ハ坪四十一錢ノ作離料及地上物件代ヲ以テ解決セルニ拘ラズ本件地主ノ態度不遜ナルヲ以テ右條件ヲ以テシテハ妥協スル能ハズ、少クトモ坪一圓ノ作離料及地上物件代ノ支出ヲ爲スベシト主張シ、地主ハ競賣ニ當リ執達吏ハ地上物件共一括競賣ノ旨告ゲタルヲ以テ高價ニ競落シタ

ルモノニシテ作離料及地上物件代ノ如キハ今更出スベキ要ナシト主張シテ譲ラズ、遂ニ昭和八年三月二十四日甲府地方裁判所ニ土地明渡竝ニ損害金請求訴訟ヲ提起スルニ至レリ。仍テ小作人側ハ四月二十五日小作調停ノ申立ヲ爲スニ至レリ。

抑々本件地主小作人共同地方ノ有力者ニシテ地主ハ祝村ニ於ケル最大ノ葡萄園ノ所有者ニシテ一方小作人側モ亦勝沼町ノ大ナル葡萄園ノ所有者タリ。又小作側坂本ハ山梨縣多額納稅者中ノ第八位ヲ占ムル資產家ニシテ兩者共利害ヲ離レ感情ヲ以テ相爭ハムトスル傾向アリ。

(二) 調停ノ經過

六月八日第一回委員會ヲ甲府地方裁判所ニ於テ開催セルモ双方共前記ノ主張ヲ繰返スノミ。特ニ地主側ハ前記ノ如ク地上物件共競落シタルコト及小作人中ノ坂本某ハ本件土地ノ競賣申請者ニシテ地上物件所有者ナリトセバ之ガ表示ヲ爲シ他人ニ損害ヲ加ヘザル樣考慮セザルベカラザルコト、又坂本某ハ他ニ多クノ小作地ヲ所有シ本件解決ノ影響大ナルモノアリテ坂本某自身ハ地上物件ノ賣買ニハ反對ナルベキモ小作人中他ノ者ノ意志ニ從ヒツツアルモノト認メラルルヲ以テ坂本ト直接交涉（坂本ハ老齡ノ故ヲ以テ代理人ヲ申請セリ）ヲ主張シテ止マズ。第二回委員會ヲ十月二十四日現狀ニ於テ開催セルニ同日迄ニ調停委員、小作官ノ斡旋ニ依リ双方妥協ノ氣分濃厚トナリ、地主ハ本年度ノ收穫ハ小作人ニ於テ取得シ無條件卽時土地ヲ明渡スベシト主張シ小作人側ハ考慮ヲ約セリ。

十一月十七日甲府地方裁判所ニ於テ第三回委員會ヲ開催、小作人ハ作離料及地上物件代トシテ現金三百圓ノ支出ヲ要求シ斡旋ノ結果二百圓ヲ以テ妥協セリ。

(三) 結末

調停條項

一　申立人等ハ別表土地ヲ現狀ノ儘昭和八年十一月十七日限リ相手方ニ返還シタリ

二　相手方等ハ申立人等ニ對シ右明渡ニ對シ右同日金二百圓ヲ支給セリ

三　相手方等ハ本件土地ニ對スル損害金ノ請求ヲ放棄スルコト

二五　山梨縣中巨摩郡龍王村萬歲（小作料減額）

爭議發生　昭和八年四月十二日

調停申立　昭和八年五月十一日

解　決　昭和八年十一月八日

關係人員　爭議　地主　一名　小作人　二十一人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地　爭議　田　二町六反七畝二十七歩　宅地　三畝十歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

本件地主小作人ハ昭和五年度小作料減免問題ニ付爭議ヲ惹起シ昭和六年中ニ於ケル山梨縣ノ爭議中最モ尖鋭化シタル爭議ヲ行ヒタルガ右事件ハ村長等ノ調停ニ依リ殆ンド小作人ノ要求通リ解決スルニ至リタルモノナリ。然ルニ地主ハ今回契約ノ期限滿了ヲ期トシ土地返還、小作料値上ヲ小作人ニ通告シタルヲ以テ遂ニ爭議トナルニ至レリ。

地主ハ內容證明郵便ヲ以テ從來三箇年間ハ小作料三割減ナリシヲ今後ハ割引ナク賃貸スベキコト若シ之ニ不同意ノ時ハ土地ヲ明渡スベキ旨通告シタルニ小作人ハ從來通リ三割ノ減額ヲ要求シテ地主ノ要求ニ應ゼズ遂ニ地主ハ土地明渡請求訴訟ヲ提起セリ。

抑々本件ハ昭和六年ノ爭議ニ於テ小作人ハ大衆行動、共同耕作、小學兒童ノ同盟休校等總ユル手段ヲ以テ抗爭シタル結果地主ハ止ムナク小作人ノ要求ニ應ジタルモノニシテ、地主ノ不滿ハ契約期間滿了ヲ機トシテ表面化セルモノナリ、從ツテ小作人モコノ點察スルト共ニ又社會狀勢ニ順應シ相當讓歩シテ解決セム意思ヲ以テ八年五月十一日小作調停ノ申立ヲ爲セリ。

（二）調停ノ經過

六月二十六日第一回調停委員會ヲ開催セルニ地主ハ自作ヲ口實トシテ訴訟關係土地全部ノ返還ヲ要求シテ止マズ、一方小作人側ハ三割減ハ幾分讓歩スベキヲ以テ繼續小作ヲ主張ス。仍テ委員會ハ地主ノ考慮ヲ求ムル爲期日ヲ無期延期シタル所其ノ間小作人モ遂ニ地主ノ主張ニ從ハザルベカラザル狀況ヲ察シ同村前農民組合長ヲ介シ地主ト折衝シ四十一俵地（八反歩）ヲ返還シ且殘餘ノ土地ハ從來ノ三割減ヲ取消シ舊入附（契約小作料）ヲ以テ耕作スルコトニテ妥協成リタルヲ以テ十一月八日第二回委員會ニ於テ左ノ條項ヲ以テ調停成立セリ。

（三）結果

調停條項

一　賃貸人ハ賃借人等ニ對シ別紙第一號表示ノ土地ヲ昭和八年度ヨリ昭和十年十二月二十五日迄ノ期限ヲ以テ賃貸シ其ノ賃貸料ハ每年十二月二十五日限リ賃貸人宅ニ持參支拂フコト

賃貸料叚一俵ハ百二十立入ニシテ正味十七貫匁以上タルコト

賃貸料ハ別紙第一號表記載ノ納額ヲ支拂フモノトス

若シ叚現存セサルトキハ時價ニ換算シ現金ヲ以テ支拂フコト

二　賃借人ハ賃貸人ノ承諾ヲ得スシテ其ノ賃借地ヲ轉貸シ又ハ地目ヲ變換シ或ハ共同耕作等ノ行爲ヲ爲ササルコト

三　賃借人ハ賃借期間滿了ニヨリ土地ヲ返還スル場合ニ於テ植付アル裏作地ニ限リ成熟ヲ待ツテ遲滯ナク之ヲ收去シ桑園ニアリテハ賃借人ノ地方ニ於ケル春蠶上簇期迄ニ桑條ヲ收去シ桑株ハ現狀ノ儘

賃貸人ニ引渡スコト

四　賃借人前各項ノ一ニ違背シタルトキハ賃貸人ハ隨時其ノ賃借地ノ明渡ヲ請求スルコトヲ得コノ場合ニ於テハ賃借人ハ地上物件ヲ收去シ無條件ニテ土地ヲ賃貸人ニ引渡スコト

五　別紙第二號表示ノ土地ハ昭和八年十二月二十五日限リ賃貸人ニ明渡シ其ノ際現存セル地上物件ハ賃借期間滿了ニ因ル土地返還ノ例ニ依ルコト

六　賃借期間滿了ノ際ハ双方ノ合意ニ依リ更ニ期間ヲ定メテ更新スルコトヲ得

二六　長野縣上高井郡川田村大字牛島（割地持分確認割替實行）

爭議發生　大正九年十月

調停申立　昭和八年三月九日

解　決　昭和八年十月十四日

關係人員　爭議　大前側　六十三名　小前側　六十四名　中立側　五名

調停　右ニ同ジ（合意申立）

關係土地　爭議　田　五反九畝十二歩　畑　五十四町一歩　原野　九町六反五畝十二歩

宅地　五坪　山林　二畝十九歩

調停　右ニ同ジ

（一）係爭ノ沿革

係爭地ハ千曲、犀兩川ノ合流スル地點ニ存スル地割慣行地ニシテ其ノ制度發生ノ年代ハ判然セザレドモ元祿年代ナリトノ口碑アリ。而テ當時起返リタル土地ハ牛島村本百姓二十二軒ノ平等割トナシ分家無高百姓ハ各ソノ從屬スル本百姓ノ割地ヲ年季買又ハ小作セリ。只割地保護ノ爲ノ賦役竝ニ費用ヲ部落民各個ヨリ據出スルヲ以テ一部ニ於テ一軒當百坪乃至百七十坪（割替當時ノ面積ニヨリ變動）ヲ平等ニ割當テタリ。然ルニ安永五年ニ小前百姓ヨリ全地域ヲ平等割トナスベキ要求ヲナシ藩ニ訴ヘ出デタルガ結局從來ノ二十二軒割ヲ廢シテ牛島村本田高二百九石二斗八升二合ノ持高ニ應ジテ割當ツルコトトシ、從來ノ二十二軒ニ對シテ一軒八兩計百七十六兩ヲ持高ニ按分出金シテ賠償スルノ方法ヲトリ從來ノ面割ハソノ儘存置スルコトトシテ示談成立セリ。

其ノ後天保三年ニ至リ新起返リ地約三萬坪ヲ小前百姓ニ年額籾十五俵ニテ年季賣トナシ置キタルヲ同年割替ニ當リ小前百姓ハ年季賣ノ繼續ヲ要求シ高持重立ノモノハ之ヲ廢シテ割込マントシテ紛議ヲ起シ訴訟トナリ小前百姓ハ總面割ヲ主張シタルガ結局丹波島村ノ勘左衞門ナル人物ノ仲裁ニヨリ從來ノ百坪乃至百七十坪ノ面割ノ代リニ四箇字ノ中西向川原及北向川原ノ二字ノ四分二厘ヲ總面割トナシ右兩川原ノ五分八厘及中川原沖及村北沖ノ二字全部ハ前記ノ高割トナス條件ニテ示談成立シ

タリ。

明治初年ノ地券發行耕地取調ニ際シ一應縣ヨリ共有ニアラズシテ各個人名義ニテ書出ス樣指圖ヲ受ケタルガ、之ヲ動機トシテ小前ノ百姓ヨリ殆ンド全部ノ土地ヲ面割トスベキ事ヲ要求シ紛議トナラムトセシガ縣當局ノ說諭ニヨリ解決シ結局實狀上牛島村名義ニテ書出シタリ。其ノ後數十年間ハ事ナク十箇年毎ニ割替ヲ行ヒ經過セシガ大正九年ニ至リ內務省ガ千曲川改修工事ヲ行フニ當リ、堤防敷地トシテ面割所在ノ西向川原沖三町一反一畝二歩ヲ九千百八十九圓八十三錢ニテ買收セラルルニ至リコノ買收金ノ處分ニ關シ再ビ大紛議ヲ惹起スルニ至レリ。

卽チ大正九年末ニ於テ小前ノモノ六十五名ト石高ヲ多ク所有スル大前ノモノ六十三名ニ分レ小前側ハ平等ニ分割スルカ保管シテ部落全體ノ施設ニ使用スベシト主張シ、大前側ハ持分ニ按分シテ分配スベシト主張シタリ。

當時繭價高ク大小ニ拘ラズ農家ノ經濟ニハ相當ノ餘裕アリ、シカモ係爭地ハ牛島區桑園ノ殆ンド全部ニシテソノ價格亦高カリシヲ以テ大前小前共ニ主張ヲ枉ゲズ、小前側ハ遂ニ年來ノ希望タル共有地全部ノ總面割ヲ主張スルニ至リ問題解決ノ端緒ヲ得ザルニ至レリ。卽チ大正十年三月小前側ヨリ代金引渡訴訟、同五月ニ共有權確認登記手續請求ノ訴訟ヲ起シ、大前側ヨリモ訴訟ヲ提起スルニ及ビ双方ノ感情ハ著シク背馳シ、同年七月部長所轄警察署長ノ仲裁アリシモ解決ノ端緒ヲ得ズニ終リ、十年末ヨリ部落總代竝ニ協議人ノ選擧モ双方ノ競爭トナリ（共有地ノ事ニ就テハ共有地總代及高親二十六人ノ外總代及部落協議人ガ合議決定ス）大正十二年末ニハ部落總代ハ小前側ノ占ムル所トナレリ。

然ルニ大正十三年ニ至リ西、北兩川原ガ割替年度トナルニ及ビ大前側ハ割替ヲ主張シ、小前側ハ係爭中ナルヲ以テ解決迄延期スベシト主張シ、結局大前側ハ單獨ニテ割替ニ着手シタルニ、晝間ナシタル割替ノ標示杭ヲ夜間小前側ニ於テ引拔キ結局割替不可能トナリタリ。之ガ爲ニ双方ノ對立ハ著シク激化シ小前側ハ親分子分ノ關係ヲ絶斷スルコト、一切ノ私的交涉ヲ斷ツコトヲ決議實行スルニ至レリ。

爾後訴訟ヲ繼續シ昭和三年東京控訴院ノ判決ニヨリ共有ハ確認セラレ、ソノ持分率ニ就テハ長野地方裁判所ニ差戻シトナリ、同五年ニ至リテ漸ク持分ノ判決確定セリ。ソノ結果ハ大前主張ノ通リトナレリ。茲ニ於テ大前側ハ小作セシムル都合等ヨリ割替ヲ希望シ前回ノ失敗ニ懲リテ双方ヨリ委員ヲ擧ゲテ協定ニ移リシモ不成立ニ終レリ。小前側トシテハ訴訟ニ於テハ敗ルルモ割替ハ絶對ニ實行セシメズ、大前側ニ損害ヲ負ハシメムトノ行動ヲ執ル氣味アリ。大前側ガ面割ノナキ村北沖ヨリ割替ヲ開始シタルニ對シ小前側ニモ多少ノ高持アルヲ理由ニソノ標示杭ヲ夜間除去セリ。大前側ハ翌日再ビ大杭ヲ打込ミ夜間小前側ニ於テ之ヲ引拔クノ擧ニ出デタリ。

茲ニ於テ大前側ハ復讐手段トシテ控訴院ノ確定シタル判決ニヨル訴訟費用約七百圓ヲ小前側六十四名ニ對シ有體動産ノ差押ヲナシテ取立テタリ。而シテ小前側ニ於テハ大前側ノコノ態度ニ激昂スルト共ニ、部落總代ガ高持トシテコノ割替ニ參加シ部落ノ紛議ヲ大ナラシムルノ擧ニ出デタルハ不都合ナリトシテ不信任ヲ決議シ辭職ヲ迫レリ。ソノ結果總代ハ辭任シ部落ノ自治機關停止シ協議費ノ取立モ不可能トナリ、只僅ニ神社總代ガ神社ノ祭典ト渡航ノ事務ヲ取扱フ外部落トシテノ行事ハ全然廢止セラレ入營兵士ノ送迎ノ如キモ役場ヨリ各個人ニ一々通知スルノ狀態トナレリ。コノ狀態ヲ見テ縣會議員二名村會議員一同調停セムトセシモ成立ノ端緒ヲ得ズ、更ニ昭和七年三、四月村長及村會議員仲裁ニ入リ具體案ヲ示ス程度ニ至リタルモ之亦決裂セリ。

(二) 双方ノ主張

(イ) 小前側

由來係爭割地ハソノ所有權ハ舊藩時代ノ牛島村卽チ現在ノ牛島區ニ屬シ普通ノ共有ニ非ズ、割地ノ持高ナルモノハ割地ヲ使用收益スル權利割合ヲ示スモノナリ。從テ大正九年本件土地ノ所有權ヲ買收セラレタル代金ハ牛島區ニ於テ收得スベク若シ之ヲ分配スルトセバ牛島區民ニ平等ニ分配スベキモノニシテ使用收益權ノ割合タル持高ニヨリテ按分セラルベキモノニ非ズ。殊ニ本件土地ノ保存ノ爲水害時ノ出夫ハ部落民全部平等ナルノミナラズ保存ノ爲ノ費用ノ如キモ區ノ費用ヲ以テセルモノナレバ本件割地ノ賣却代ヲ持高ニヨリテ分配スルハ不合理極マルモノナリ。然レドモ既ニ受領濟ミナル賣却代金ヲ此ノ際平等ニ割直スコトハ大前側トシテモ苦痛ナルベク一方現在持高ノ賣買價格ハ一石百三十圓見當ニシテ賣却代合計一萬三千圓ハ持高百石ニ相當スルヲ以テ持高百石ヲ平等ニ區民ニ分配セラレムコトヲ求ム。

(ロ) 大前側

元來本件割地ハ高割ノミナリシガ天保五年公事起リ示談ノ結果始メテ西向川原沖及中川原沖ノ二字ニ限リ五分八厘ハ高割、四分二厘ハ面割トナリタルモノナリ。而シテ共有ノ持分ニ就テハ昭和三年東京控訴院ノ判決及昭和五年長野地方裁判所ノ判決ニヨリテ確定セルモノニシテ理路明白譲歩ノ餘地ナシ、然レドモ示談スルトセバ現在村長ノ保管セル係爭以外ノ共有地ノ賣却代金及收益金約千圓ヲ仲裁者ニ一任スル程度迄ハ譲歩スベシ。

(三) 調停ノ經過

昭和七年ノ村ノ調停不調トナルヤ、主トシテソノ斡旋ノ衝ニ當リタル村助役竝ニ方面委員兼小作調停委員タル西澤某ハソノ解決方策ニツキ腐心シタルガ隣村保科村竝ニ隣部落ニ於ケル小作調停ノ模様ヨリ小作調停ニヨル外解決ノ途ナシトシテソノ方法ニ就キ裁判所竝ニ縣小作官ニ折ニ觸レ陳情シタリシガ不況深刻トナリテ大前小前共ニ永年ノ爭ニ疲レ既ニ双方ニ於テ支出シタル費用二萬圓ヲ超エ、ソ

ノ爲ニ設ケタル無盡ノ掛金等ニモ支障ヲ來シ解決ノ好機ト認メラレ一方係爭地ハ割替ガ何時行ハルヤ不明ノ爲小作料ノ支拂モ不確實トナリタルヲ以テ小作料問題ノ解決ヲ機緣トシテ本問題全體ヲ附帶事項トシテ解決スルノ方法ヲ樹テ結局一部大前、小前ヨリ調停ノ申立ヲナシ他ノ全部ヲ利害關係人トシテ調停ニ參加セシムルコトトナシタリ。

昭和八年三月九日調停申立アリ第二回期日四月六日ニ大前、小前ノ主要人物各々十二名及中立三名ヲ裁判所ニ招致協議ノ結果調停ニ參加スルコトトナレリ。

其ノ後解決ノ條件ニツキ幾多ノ迂餘曲折ヲ經調停委員會ヲ開クコト二十回十月初メニ至リ條件決定シ十月十四日村社拜殿ニ於テ手打式ヲ兼ネテ最後ノ委員會ヲ開キ正式ニ決定解決セリ。

(三) 結　末

調停條項

一　別紙目錄第一ノ一(略)記載ノ上高井郡川田村大字牛島字西向川原沖千十三番イ號畑八反八畝二十八步外三十四筆ノ共有地ニ對スル高割ヲ五分五厘面割ヲ四分五厘トシ今回限リ楢本某外四名ヲ面割ノ共有者ニ加入セシメ從テ右土地ノ共有者ハ合計百三十一名、而シテ其ノ持分ニ付テハ從前ノ如ク面割ハ平等高割ハ高ニ從フ之ヲ分數ヲ以テ表示セバ別紙目錄第一ノ二(略)記載ノ持分ナリトス

二　別紙目錄第二ノ一(略)ノ記載ノ上高井郡川田村大字牛島字村北沖九百八十二番畑三反七畝歩外四十二筆ノ高割ハ從前ノ如ク其ノ共有者及其ノ持分ハ別紙目錄第二ノ二(略)記載ノ通リナリトス

三　前記別紙目錄第一ノ一(略)竝ニ別紙目錄第二ノ一(略)記載ノ共有地ニ對スル名義書換合筆ニヨル土地臺帳ノ訂正及共有地保存登記ヲ爲スニ付テハ各關係共有者ハ何レモ之ヲ承諾ス而シテ申立人側ノ一部ノ者ニ於テ之カ訂正、登記手續ヲ爲スコトヲ各關係共有者ニ於テ同意ス

四　共有者自ラ共有持分ノ賣却ヲ爲ス際ハ大字牛島區住民(共有者ト否トヲ問ハス)ニ賣渡スヘキモノトス

若シ賣買價格折合ハス大字牛島區住民ニ賣買スル能ハス之ヲ他町村人ニ賣渡ストキハ其ノ賣渡人ハ其ノ關係共有者ニ右牛島區住民ノ買受申出價格ノ二割ヲ提供スルモノトス

五　別紙目錄第三(略)記載ノ土地ハ現在ノ儘之ヲ大字牛島區鎭守牛島神社ニ寄附スヘキモノトス

六　右土地ヨリ從來生シタル收益ニシテ支出ヲナシタル殘存金ニシテ川田村長保管ニ係ル現金及牛島區ニ貸付ケタル貸金四百五十圓ハ牛島神社ノ社務所兼牛島區公會堂ノ建築資金ニ充當スルモノトス

七　右建築資金ハ大字牛島區ニ於テ勸業銀行ヨリノ借用殘金四百圓竝ニ信用組合ヨリノ借用金二百八十圓ノ辨濟ニ一時流用スルコトヲ得

而シテ該流用金ハ無利息トシ昭和九年ヨリ五箇年間ニ共有者百三十一名ニ於テ辨濟ス其ノ辨濟金ハ

地租八分面二分ノ割合ニテ徴收ス

八　前記第一項第二項ノ共有地使用ノ割替ハ昭和八年十二月中ニ從前ノ方法ニヨリ之ヲ實行スルコト

九　第一項ノ共有地ニシテ曩ニ河川敷トシテ收用セラレタル土地ニ付將來不用ニ歸シ緣故拂下ヲ受ケタルトキハ其ノ部分ニ限リ平等ノ持分ニヨル共有トスルコト

十　共有地管理規定ヲ作成スルコト其ノ作成ハ本件調停委員及小作官竝ニ調停主任判事ニ一任ス

附記

條項ニハ記載セザリシガ大前側ヨリ小前側ニ對シ金千圓ヲ一封トシテ交付スルコトヲ決定履行セリ。

二七　長野縣東筑摩郡麻績村梶浦（小作料一時的減額竝ニ小作契約繼續）

爭議發生　昭和七年十二月二日

調停申立　昭和八年三月七日及同年六月五日

解　決　昭和八年六月二十七日

關係人員　爭議　地主　七人　小作人　十二人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地　爭議　田　二町九反六畝二十九歩　畑　一町一反二十二歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

本部落ニハ全國農民組合麻績支部アリ、昭和六年末ヨリ昭和七年初メニ亘リ全農縣聯及五加支部ノ指導應援ニヨリ小作料一時的減額ニ關シ猛烈ナル爭議ヲ惹キ起シ一躍小作爭議地トシテ注目セラルルニ至リシガ七年初メニ殆ンド小作人ノ要求通リノ條件ニテ解決セリ。昭和七年度稻作ハ稻熱病被害ノ爲相當ノ減收ヲ來シ村內全般ノ小作料減額ノ必要ヲ認メラレタルヲ以テ十月中旬前年ノ大爭議ニ鑑ミ村當局、村產業組合長主唱ノ下ニ村內各種團體（村農會、村會、青年團、在鄉軍人會、產業組合、經濟改善委員會）役員ヲ網羅シテ三十名ノ小作調停委員ヲ村長名ヲ以テ囑託シ、ソノ決議ニヨリ左記各項ヲ決定シテ村內全般ニ發表地主、小作人ノ同意勵行ヲ求メタリ。

一　田畑共ニ本年度小作料ハ不況ニ鑑ミ一割ヲ減額スルコト

二　稻熱病被害田ハ各地主小作人間ニ於テ減免率ヲ協定シ協定成ラザルトキハ村調停委員中ノ評議員會（五名）ニ於テ仲裁スルコト

而シテ全農組合員以外ノモノハ十一月中ニ解決ヲ遂ゲタルモ全農組合員ハ村內ノ情勢ヲ注視シツツ沈默ヲ續ケ十二月二日ニ至リ書面ヲ以テ各地主ニ四割乃至八割ノ減額（無被害ノモノヲ四割減トシ最

高被害ノモノヲ八割減トスルコト）ヲ要求シタリ。

小作人ノ要求ヲ受ケタル地主ハ之ヲ不當ナリトシテ拒絶スルト共ニ前年爭議ノ中心地主宮下某ノ指導ニヨリテ結束シ抗爭ノ準備ヲナシタリ。

十二月十三日小作人ハ二、三人一團トナリテ各地主ヲ歷訪シ十二月十五日迄ニ回答ナキトキハ總テノ交涉ヲ農民組合ニ一任スベキコトヲ告ゲタリ。

村ノ調停委員評議員會ハ十二月中旬調停ニ着手シ、地主側ヲ說得シテ大體二割乃至五割ノ減免可能ノ見込立チタルヲ以テ小作人側ニ交涉ヲ開キタルニ小作人側ハ三割五分乃至七割五分減免ヲ主張シテ妥協成立ノ見込立タズ、小作人ノ要求餘リニモ無暴ナリトシテ十二月二十日頃仲裁ヲ打切リタリ。

越エテ昭和八年一月二十四日ニ亘リ地主側ハ全農支部ノ幹部タル七名ノ小作人ニ對シ小作料請求竝ニ小作料滯納ニヨル土地返還要求ノ訴訟ヲ松本區裁判所ニ提起シタリ。

二月六日第一回ノ訴訟期日ノ際小作人ハ五加村支部員等ノ應援ヲ受ケ法廷デモヲ敢行スルノ計畫ヲナシタルガ、當日ニ至リコノ空氣ノ爲期日延期トナリ、小作人ハ歸途松本警察署前ニテ示威的ニ休憩スル等ノ擧ニ出デタリ。

然ルニ二、四事件ノ影響ニヨリテ全農ノ活動鈍ルト共ニ本村支部ノ中心人物ガ前年ノ暴動事件ノ刑執行ノ爲下獄シ、指導中心人物ヲ失ヒタル爲遂ニ小作人ヨリ松本支部ニ調停ノ申立ヲナスニ至レリ。

（二）調停ノ經過

三月七日小作人ヨリ調停ノ申立アリ裁判所ノ囑託ニヨリ小作官ニ於テ實情調査ヲ遂ゲ、四月十日村役場ニ於テ第一回ノ調停委員會ヲ開キタルモ地主ハ七年度小作料ヲ問題トセズ強ク土地返還ヲ主張シ小作人ハ土地返還絕對反對ヲ唱ヘ加フルニ調停委員中一名ハ小作人、一名ハ地主ノ主張ヲ支持スル等ノ事態ヲ釀シ調停ノ端緖ヲ得ズシテ散會セリ。

裁判所ト小作官協議ノ結果委員會ニヨル調停ヲ中止シ小作官ニ於テ調停ヲ進行スルコトトシ、四月二十八日產業組合事務所ニ双方ヲ招集シ調停ノ結果地主ハ小作繼續ヲ認ムルニ至リタルガソノ條件ニ付テ容易ニ一致セズ、五月九日更ニ調停ヲ進行シタル結果、小作契約ノ條件ニ付大體ノ成案ヲ得、殘ルハ昭和七年度ノ小作料品質及土地返還條項ノ緩和ニ關スル問題トナリタルヲ以テ、五月二十三日午前十時村役場ニ於テ裁判所ノ調停トシテ再開シタルガ十七時間無休憩ニテ調停シタルコトガ效ヲ奏シ、翌二十四日午前三時半ニ至リ調停成立セリ。

一方調停申立ナキ部分ニ就テモ地主ハコノ調停ト同一ノ條件ノ小作契約ヲ調停ニテ締結スルコトヲ解決ノ條件トシテ要求シ小作人亦之ニ同意シタル爲、六月五日地主ヨリ調停ヲ申立テ（六件）略同一ノ調停條項ヲ以テ六月二十七日調停成立シ解決セリ。

（三）結　末

爭議ノ調停ハ最初申立テタル七件ヲ一括調停シ一ノ調停條項トナシ後ニ申立テタルモノハ各一件毎ニ調停條項ヲ作成シタルガ大部分ノ條件ハ同樣ナルヲ以テ最初ノ合併シタル條項ヲ左ニ記載セリ。尙昭和七年度分ノ減免率ハ村調停委員評議員會案ニ五分乃至一割ヲ加ヘタルモノナリ。

調停條項

一　相手方ハ申立人ニ對シ別紙第一表(略)記載ノ土地ヲ同小作料欄記載ノ小作料ヲ以テ繼續小作セシム

二　別紙第一表記載ノ土地反別カ實測面積ト符合セサルコトアルモ小作料ノ增減ヲ爲サス

三　本件土地ノ小作料ハ天災地變其ノ他不可抗力ニ因リ減收シタル年次ニ於テハ左ノ如ク減免ス

（イ）收量カ小作料ノ十割以上十八割未滿ナル場合ハ其ノ收量ヲ小作料十八割ヨリ減シタル額ノ八分ノ五ヲ減免ス

（ロ）收量カ小作料ノ十割未滿ナル場合ハ其ノ收量ヲ小作料ノ二十割ヨリ減シタル額ノ八分ノ五ヲ減免ス

但シ全免ニ止ム

四　申立人ニ於テ前條ノ減免ヲ受ケムトスル時ハ其ノ相手方ニ對シ遲クトモ刈取十五日前迄ニ書面ヲ以テ見込收量ヲ通告シ檢見ノ申出ヲ爲スヘシ

五　相手方カ前條ノ告知見込數量ヲ不相當トスルトキハ右申出ヲ受ケタル後五日內ニ申立人ニ對シ自己ノ見込數量ヲ書面ヲ以テ通告スヘシ

六　申立人カ前條相手方ノ告知見込數量ヲ不相當トスルトキハ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ縣小作官ニ申出テ數量ノ鑑定ヲ受クヘシ

右鑑定ノ結果ヲ實收量ト定ム

鑑定ニハ双方立會フコトヲ得

當事者ハ小作官ノ鑑定方法及結果ニ對シ異議ヲ主張スルコトヲ得ス

七　前條ノ鑑定ノ爲メ耕地ニ立入又ハ立毛ノ一部ヲ刈取檢査スルコトアルモ異議ヲ述ヘ若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲ササルコト

鑑定ノ爲刈取檢査シタル耕作物ハ申立人ノ所有タルコトヲ得ス

八　申立人ニ於テ第四條ノ申出ヲ爲ササルトキハ減免セス

申立人ニ於テ第六條鑑定ノ申出ヲ爲サス又ハ鑑定終了前ニ立毛ヲ刈取リ其ノ他鑑定ヲ妨クル行爲アリタルトキハ相手方ノ告知見込收量ヲ以テ實收量ト看做ス

相手方カ申立人ヨリ第四條ノ申出ヲ受ケナカラ其ノ見込收量ヲ申立人ニ告知セサルトキハ申立人ノ告知見込收量ヲ以テ實收量ト看做ス

九　將來ノ小作料ハ籾五斗ヲ正味十三貫五百匁ト換算シ長野縣生産檢査濟ニシテ籾ハ四等玄米ハ五等ノモノヲ以テ納入スヘシ

俵裝用俵ハ相手方ニ於テ提供シ申立人ハ自己ノ繩ヲ以テ俵裝ヲ爲スヘシ

生産檢査費用ハ相手方ニ於テ負擔ス

十　相手方ハ小作料ヲ受領シタルトキハ申立人ニ對シ籾又ハ玄米ノ檢査等級ニ應シ左記ノ金員ヲ交付スヘシ

玄米一俵(正味四斗)ニ對シ五等金二十三錢、四等金三十八錢、三等金五十八錢

籾一俵(正味十四貫)ニ對シ四等金三十八錢三等金五十八錢

十一　小作料ノ支拂ハ毎年籾ニ付テハ十二月十五日限リ玄米ハ十二月末日限リ相手方宅ニ於テ之ヲ爲ス

十二　申立人カ前條納期迄ニ小作料ヲ納入セサルトキハ相手方ハ第十七條猶豫期間滿了前十日間ノ信濃毎日新聞所載直江津正米平均相場ヨリ一割引ヲ以テ換算シタル金額ヲ請求スル事ヲ得

籾ニ付テハ一俵ヲ玄米二斗五升トシテ換算ス

十三　相手方ハ不況其ノ他不作以外ノ理由ニヨリ村内全般ニ小作料ノ減免ヲ爲シタル場合ハ申立人ニ對シ之ト同樣ニ減額ヲ爲スヘシ

十四　相手方ニ於テ本件土地ヲ他ニ賣却スル必要生シタルトキハ申立人ニ對シ價格ヲ明示シテ買取方ノ申込ヲナス事ヲ要ス

右申込アリタル日ヨリ三十日以內ニ當事者間ニ於テ書面ニヨル賣買契約成立セサルトキハ他ニ賣却スル事ヲ得

十五　相手方自作ノ必要生シ稻收穫後年末迄ノ間ニ返還ノ申込ヲ申立人ニ爲シタルトキハ申立人ハ翌年十一月三十日限リ異議ナク土地ヲ返還スヘシ

但シ相手方ハ昭和八年昭和九年兩年ハ自作ノ必要アルモ反還ノ申出ヲ爲サス

十六　申立人ハ相手方ノ承諾ヲ得ルニ非レハ土地ノ轉貸又ハ永年作物ノ植栽地形ノ變更ヲ爲ス事ヲ得ス

十七　申立人カ小作料ヲ支拂ハサルトキハ相手方ハ少クトモ三十日ノ期間ヲ置キテ其ノ履行ヲ催告シ申立人之ニ應セサルトキ及前條ニ違反シタルトキハ相手方ハ直ニ申立人ニ土地ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於テハ申立人ハ異議ナク土地ヲ返還スヘシ

十八　前條ニ因リ土地ヲ返還シタル場合ハ相手方ハ其ノ地上ニ存スル桑樹又ハ工作物ニ付相當ト認ムル代價ヲ申立人ニ支拂フヘシ第十五條ニ因リ土地ヲ返還シタル場合ハ相手方ハ其ノ地上ニ存スル桑樹又ハ工作物ニ付申立人及相手方ニ於テ協定シタル代價ヲ申立人ニ支拂フヘシ

右代價ノ協定成ラサルトキハ縣小作官ノ判定シタル價格ヲ以テ代價ト看做ス

十九　前各條ニ於ケル申立人及相手方ト稱スルハ小作關係ヲ有スル當該申立人及相手方ヲ謂フ

二十　相手方ハ申立人等小作ノ別紙第一表(略)土地中田ノ昭和七年度滯リ小作料ヲ別紙第二表(略)(イ)欄ノ如ク減額ス

申立人ハ之ヲ昭和八年六月十日限リ相手方ニ支拂フヘシ

但シ期日ニ完納シタルトキハ相手方ハ同(ロ)欄記載ノ支拂ヲ受ケ其他ヲ免除スヘシ

二十一　相手方宮下某ハ申立人宮下某ノ小作スル別紙第一表(略)中畑ノ昭和七年度小作料ヲ金七圓二十錢ト玄米一斗二升ニ減額ス

申立人ハ之ヲ昭和八年六月十日迄ニ相手方ヘ持參支拂フヘシ

二十二　相手方桐山某ハ申立人宮下某ノ小作スル別紙第一表(略)記載ノ土地ノ滯リ小作料中昭和五年度分ヲ免除ス

昭和六年度小作料籾三俵ハ其ノ三割ヲ減免ス

昭和七年度ハ籾二俵半ニ減額ス

右昭和六、七年度分ハ昭和八年六月十日限リ相手方ニ持參支拂フヘシ

右相手方カ右申立人ニ對シ有スル桑苗代貸付金十圓ハ無利息ニテ昭和九年九月末日迄支拂ヲ猶豫

二八　岐阜縣可兒郡春里村大字鹽河（捉米減額）

爭議發生　昭和八年一月三十一日

調停申立　昭和八年四月十三日

解　決　昭和八年五月二十九日

關係人員　爭議　地主　三人　小作人　四十六人

　　調停　右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地　爭議　田　五町三反六畝十九歩

　　調停　右ニ同ジ

(一)　爭議ノ概況

昭和七年度ノ稻作ハ全般的ニ稻熱病ノ發生ニ因ル被害アリ。其ノ激甚ナル一部ニ於テハ收穫殆ド皆無ニ歸シタル狀態ナリシガ、小作人側ニ於テハ組合ノ協議ノ結果、同年ノ稻作ハ稻熱病ノタメ未曾有ノ被害ニシテ平年作ニ比シ平均四割程度ノ減收ヲ來シ契約小作料ヲ支拂フ場合ハ生活困難ニ陷ルト爲シ掟米ノ三割減額ヲ要求セリ。

之ニ對シ地主側ハ假令稻熱病發生セリト雖、小部分ニシテ其ノ被害程度モ輕微ナリ。而カモ之ガ發

生タルヤ耕作方法ノ不適、殊ニ施肥方法ノ誤ニ基因スル所尠カラザルノミナラズ、本件土地ハ昭和五年度ニ於テ調停ノ結果定免掟トナリタルヲ以テ當然契約掟米ノ全額ヲ納付スベキモノナリト主張セリ。

元來本件爭議地ハ山間部落ニシテ耕地狹少ナルガタメ集約的栽培ヲ爲セルモ、地勢ノ關係上或ハ年ニ依リ或ハ地域ニ依リ甚シキ豐凶アルノミナラズ、本部落ノ土地ハ不在地主ノ所有地多ク、夙ニ地主小作人間ノ確執アリ。大正九年鹽河信用農業組合ト稱スル小作人組合ノ組織以來ハ一層紛糾ヲ重ネ或ハ示談協定或ハ裁判所和解或ハ小作調停ヲ以テ解決セシ等幾多ノ經緯ヲ有シ、本件爭議ノ惹起竝ニ之ガ解決ノ至難ニ陷リタル主因モ昭和五年十月成立セル昭和五年(小調)第三五號事件ノ調停條項ト之ガ補足ノタメ調停直後ニ於テ當事者間ニ成立シタル協定事項トニ依存スルモノニシテ、其ノ調停條項ノ要旨ヲ示セバ左ノ如シ。

一　小作人ハ地主ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ同目錄記載ノ一箇年掟米額ヨリ一割五分(一部分ハ一割三分)ヲ減額シタル賃料ヲ以テ從前通リ引續キ本年度ヨリ昭和十年六月二十日迄賃貸スルコト

二　小作人ハ前項賃貸料ヲ毎年十二月二十日限リ可兒郡春里村丑岩倉庫ニ持參支拂フコト

三　納米稅ハ從前通リノコト

右條件ヲ以テ一旦解決シタルニ、調停直後地主側ハ調停條項第一項ノ掟米ニハ定免ノ表示ナキモ調停ノ際ニハ定免ノ話合ナリシトシ、小作人側ト折衝ノ上、調停條項ニ定免ノ字句ナキモ當事者ノ眞意ハ定免掟ナリシヲ以テ不作引ヲ爲サザル旨ノ協定ヲ爲シ、契約證書ヲ作成セリ。然レ共此ノ協定ニ就キテハ當事者双方見解ヲ異ニシ、小作人側ハ假令定免掟ト爲スモ甚シキ不作ノ場合ニハ減額要求ヲ爲シ得ルモノト思惟シ、昭和七年度ノ稻作ハ平年作ニ比シ四割程度ノ減收ヲ來シタルヲ以テ當然減額要求ヲ爲シ得ベキ作柄ト認メ檢見ノ申出ヲ爲シタリ。然ルニ地主側ニ於テハ現在ノ小作料ハ定免掟契約ナルヲ以テ昭和七年度ノ作柄ニ就キテハ不作引ヲ要求シ得ザルモノナリト稱シ檢見ヲ爲サズ。斯ク折衝中遂ニ收穫時期切迫ノタメ小作人側ハ已ムナク收穫スルニ至リシガ、其ノ收穫高ハ豫想以上ノ減收ナリト稱シ小作人組合ノ申合ニ基キ掟米三割減額ヲ要求シ、之ガ貫徹ヲ期スルタメ小作人側委員ハ屢地主側ト折衝ヲ重ネタルモ地主側ハ之ヲ拒絕シ、解決容易ナラザルヲ認メタル小作人側ハ契約小作料ヨリ減額要求分三割ヲ控除シテ納米セントシタルモ地主亦之ガ受領ヲ拒ミテ强硬ナル態度ヲ示セリ。其ノ後引續キ地主ト交涉ヲ試ミシガ解決ノ見込ナキニ依リ昭和八年四月十三日岐阜地方裁判所ヘ小作調停ノ申立ニ及ビタリ。

(二)　調停ノ經過

昭和八年五月九日當事者双方ヲ裁判所ニ招致シ調停ヲ開始シタルニ、地主側ハ强硬ニ定免掟ナルコトヲ主張シ、昭和七年ノ如キハ稻熱病ノ被害アリト雖、平年作ニ比シ平均一割五分乃至二割程度ノ減收ト見レバ誤ナカルベク、此ノ程度ノ作柄ニ於テハ完全ニ小作料ノ納入ヲ爲スベキ精神ニテ定免掟額ヲ定メタルモノナレバ絕對ニ減額要求ニ應ジ難シト稱スルニ對シ、小作人側ニアリテハ曩ノ調停當時

ニ於テ小作料ヲ減額セルハ從前ノ小作料ガ高率ナリシタメ引下ゲタルモノニシテ、如何ナル不作ノ場合ト雖減免要求ヲ爲サザル意味ノ定免掟ニアラザルヲ以テ、昭和七年ノ如キ四割以上ノ減收ヲ蒙リタル著シキ不作ノ場合ニハ勿論減額セラルベキモノナリ。現ニ隣村竝ニ村内他區ニ於テモ昭和七年度ハ相當ノ減免ヲ爲セリ。此ノ隣村竝ニ他區ノ地主ハ孰レモ曾テハ小作料高率ノ故ヲ以テ曩ノ調停當時ニ於テ一割乃至二割ノ永久引ヲ爲シタルモノナレバ相手方地主ニ限リ契約小作料ノ全額納付ヲ求ムルハ不當ナリト主張シテ双方對峙セリ。

斯シテ地主側ト小作人側トニ於テハ被害程度ノ認定ニ著シキ相違ヲ來シ、被害程度ノ確定ハ本件調停ノ要點ト認メラレシヲ以テ徹底的ニ之ガ調査ヲ爲シ、尙附近村落ノ被害程度ト減額歩合等ニ關スル精査ヲ遂ゲタリ。其ノ結果被害程度ハ平年作ニ比シ二割五分乃至三割以下ト認メラレタルヲ以テ、調停案トシテハ從來ノ經過及小作料ノ分配率竝ニ他部落ノ減額率等ヨリ考慮シ、小作料二割減ヲ適當ト認メ、五月十七日委員會ヲ開キ地主ニ對シ被害ノ狀況、小作料ノ分配關係其ノ他該地方ノ實情ヲ詳細說明シ相當減額セシムベク說示シタル所、地主側モ大ニ理解スル所アリ、幾分ノ減額ニ應ズルノ表示ヲ爲シタルニ付、更ニ勸說ニ努力シタル所、委員會ノ誠意ヲ認ムルニ至レリ。小作人側ニ對シテモ同樣說示シタル所、小作人側ニ於テハ減額率ヲ委員會ニ一任スルコトトナリシヲ以テ、地主側モ亦小作人側ノ態度ニ刺戟セラレ減額率ニ就キテハ一任スルコトトナレリ。斯ク双方共減額率ヲ委員會ニ一任セシヲ以テ委員會ハ更ニ愼重ナル態度ヲ執リ、次回ノ現地調停ニ依リ小作條件協定ト減額率ヲ發表スベキ旨ヲ約シテ期日ノ延期ヲ爲シタリ。

五月二十四日春里村役場ニ於テ委員會ヲ開催シ、小作條件ノ協定ヲ遂ゲテ之ニ同意セシメ、最後ニ減額率ヲ發表セシ所、當事者双方之ヲ快諾シ左記條項ノ通リ調停成立セリ。

(三) 結　末

調停條項

一　相手方ハ申立人ニ對シ別紙記載ノ土地ヲ別紙目錄記載ノ定免ヲ以テ昭和十三年六月三十日迄賃貸シタリ

但シ賃貸期間滿了シタル場合ハ當事者双方合意アリタルトキ本賃貸條項通リノ條項ニ依リ右期間ヲ更新スルコトヲ得ルコト

二　掟米ハ定免ノ定ナルヲ以テ作柄ノ如何ニ拘ラス契約ノ掟米ヲ納入スルコト

三　不可抗力ニ依リ收穫カ三割減以上ノ土地ヲ生シタルトキハ其ノ土地ニ限リ掟米額ヲ協定スルコトヲ得此ノ場合其ノ作人ハ立毛刈取前少クトモ十日前ニ相手方ニ對シ檢見ノ申込ヲ爲スコトヲ要ス

右檢見ノ申出アリタルトキハ相手方ハ遲滯ナク檢見ヲ爲シ協定スルコト

協議調ハサルトキハ減額協定ヲ爲スヘキ年ナリヤ否ヤ其ノ減額率如何ハ春里村長ノ指定シタル三名

ノ委員ヨリナル合議體ノ裁定ニ待ツ右裁定ニ對シテハ異議ヲ申立テサルコト

立毛刈取ニ着手シタルトキハ最早減額ノ請求權ナキモノトス

作人ヨリ檢見ノ申立アリタルニ拘ラス檢見ヲ爲ササリシトキハ作人主張ノ減額ニ應シタルモノト看做スコト

四　掟米ノ納期ハ毎年一月末日限リタルコト若シ納入スヘキ米ナキトキハ一月末日ノ春里村鹽河區ノ相場ニ依リ換算シタル金額ヲ支拂フコト

五　掟米納入場所ハ春里村丑岩倉庫ニ於テ爲スコト

但シ相手方眞野某ニ對スル分ニ限リ可兒甲某方ニ於テ爲スコト

六　相手方太田某カ本件土地ノ內可兒乙某、長谷川某ニ賣渡シタル三四筆ノ土地ニ付テハ本條項ヲ適用セス

七　納米稅ハ從前通リトス

八　昭和七年度掟米ハ一割八分引トナスコト

九　右七年度掟米ハ昭和八年五月二十六日限リ納入ノコト若シ納入スヘキ米ナキトキハ同日ノ春里村鹽河區ニ於ケル相場ニ換算シテ支拂フコト

十　掟米ハ總テ申立人等連帶シテ納入スルコト

（別紙目錄省略）

二九　岐阜縣本巢郡西郷村大字中西郷（土地返還）

爭議發生　昭和七年十二月二十五日

調停申立　昭和八年四月七日

解　決　昭和八年五月二十九日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　一人

調停　右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地　爭議　田　一反三畝九歩　畑　七畝歩

調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

地主ハ契約期間ノ滿了ヲ機會ニ小作地ノ明渡ヲ求メ自作經營ヲ爲シ、經濟不況ニ基ク收入不足ヲ補顚セントセルニ基因スルモノニシテ、小作人ハ耕作反別狹少ナルニ家族多ク、而カモ農村不況ノタメ副業所得ト勞賃收入ノ減少ヲ來シタルヲ以テ、小作地ノ明渡ハ生活上一大脅威ヲ感ズルノミナラズ、他ノ小作地ニモ影響ヲ及ボス虞アルガタメ飽迄耕作繼續ヲ要求スルニ對シ、地主ハ經濟不況ノタメ早クヨリ返地ヲ求メ自作セント欲シタルモ、昭和二年ニ於ケル小作調停ノ結果賃貸期間ヲ定メタルニ依

リ已ムナク期間満了ヲ待チタル次第ニ付是非共即時明渡ヲ求メタシト云フニアリ。

元來本件相手方地主ハ村内ニ於ケル中流階級ノ自作農ニシテ本件以外ニハ小作關係ヲ有セザルモノニシテ、本部落ハ農民運動熾烈ナルタメ煩鎖ナル小作關係ヲ斷タントシテ豫テ本件土地ノ明渡ヲ望ミ居リシ所、偶大正十四、五年產米ニ關スル減額問題ニ付深刻ナル抗爭ヲ惹起シ、本部落内ニ小作地ヲ有スル地主ハ全部結束シテ掟米請求ト土地明渡ノ請求訴訟ヲ提起シ法廷戰ヲ採ルニ至レリ。爲ニ小作人側ハ掟米減額ト耕作繼續ヲ求メントシテ小作調停ノ申立ニ及ビ、調停ノ結果昭和三年三月十四日ニ調停成立セリ。本件土地ハ此ノ一部ニシテ其ノ調停條項ヲ拔萃セバ左ノ如シ。

一　當事者間ニ於テ別紙土地目錄記載ノ通リ昭和七年十二月末日迄契約スルコト

二　前項土地ノ掟米ハ毎年其ノ年ノ十二月末日迄ニ本縣穀物檢查合格米ヲ以テ相手方ノ指定スル場所ニ持參ノ上納米スルコト

但シ已ムヲ得ザル事情ノタメ不合格米ヲ以テ之ニ代フルトキハ一俵（四斗入）ニ付一升五合宛ノ增米ヲ納ムルモノトス

八　相手方ガ自作又ハ其ノ家族カ分家ノタメ貸地ノ返還ヲ需ムル必要ヲ生シタルトキハ申立人ニ對シ一箇年前ニ其ノ旨ノ豫告ヲ爲シ土地ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

十一　當事者間ノ土地ノ賃貸ハ第一項ノ期間滿了ニ依リ消滅ス但シ双方ノ合意ニ依リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケサルコト

本件地主ハ前敍ノ通リ自作階級ナルガタメ右調停當時既ニ返地セシメ自作セントスル意圖ナリシモ、卽時返還ハ調停ノ成否ニ關スル問題ナリシニ付他ノ地主同樣小作繼續ヲ認メタルニ依リ、其ノ後ニ於テ小作人ニ對シ之ガ明渡ノ直接交涉ヲ爲シタルモ妥協スルコトヲ得ズ荏苒經過セリ。而シテ久シク待望セシ契約期間滿了セシヲ以テ地主ハ現下ノ經濟ハ甚シキ窮迫狀態ニアリ、之ガ打開ノタメニハ自作地ノ擴張ハ必要缺クベカラザルヲ以テ卽時返還ヲ求ムル外ナク、尙又畑ニ就キテハ調停事件ニ關係ナカリシモ田同樣ノ條件ヲ以テ小作契約ヲ爲シタルモノニシテ共ニ期間滿了ノモノナリト稱シ、期間滿了ニ魁ケ昭和七年十二月二十五日頃口頭催告ヲ爲シタル所、小作人ハ調停條項ニハ五箇年ノ小作期間ヲ設ケタリト雖、期間滿了ノ場合ニ於テ無條件返還ヲ爲スベキモノニアラズ、更新ヲ前提トシテ期間ヲ定メタルモノニシテ該調停ニ關與セル他ノ地主ハ孰レモ更新セルニ本件地主ニ限リ返地ヲ求ムルハ不當ナリ。殊ニ畑ニハ桑、柿等ノ永年作物ヲ栽植シ、柿ノ如キハ漸ク結實期ニ達セル若木ナレバ急ニ明渡スコトヲ得ズ。又土地ノ返還ハ他ノ小作地ニ關係アルヲ以テ農民組合ノ意嚮ヲ徵スル必要アリ。尙小作料ハ村内ニ於ケル減額協定ヲ見ザルタメ直ニ納入スルコトヲ得ズト稱シ契約履行ヲ爲サザリシタメ地主ハ岐阜地方裁判所ヘ掟米支拂竝ニ土地明渡請求訴訟ヲ提起シ、昭和八年一月十一日掟米ノ假差押ヲ爲セリ。

斯ク抗爭中地主ノ幼兒ガ一月二十一日小作人ノ耕作地ニ入リテ弄火シ、一反三畝歩ノ稻藁ヲ約半分

燒失セシタメ之ガ損害賠償問題ヲ發生セシニ付、小作人ハ之ヲ奇貨トシテ農民組合支部ニ其ノ交渉ヲ依賴シタルヲ以テ、支部ノ某幹部ハ一應折衝シタリシモ面白カラザリシニ依リ、更ニ全農縣聯幹部平工某ヲシテ一月二十六日、同二十七日、同三十日ノ三回ニ渉リ地主ヲ訪問セシメ、稻藁ノ損害賠償ト本件トノ交錯セル問題ヲ交渉セシメタルモ、小作人ノ期待セル結果ヲ見ザルノミナラズ、地主ハ一旦主張セシコトハ飽ク迄貫徹セントスル性質ナルタメ之ガ下方解決ハ困難ト認メ、昭和八年四月七日本調停ノ申立ニ及ビタリ。

(二) 調停ノ經過

四月十四日裁判所調停ヲ開始シタル所、小作人ハ同村農民組合支部役員林某ヲ代理出席セシメタルニ依リ期日ヲ延期セリ。

次回ヲ四月二十四日ニ開キ、地主ニ對シテ地方ニ於ケル小作權賠償事例ヲ示シ其ノ必要ヲ力說シタルモ地主ハ小作人ノ誠意ヲ認メズ妥協不可能ナリト稱シテ調停ヲ拒絕セリ。殊ニ訴訟ヲ委任シタル辯護士ニ對シテハ費用全額支拂濟ナリト稱シ卽時返還ヲ主張シテ一步モ讓ラズ。又小作人ハ契約期間滿了セバ當然更新繼續スベキモノニシテ、他ノ地主ハ悉ク更新ヲ爲シ明渡ヲ求メタルモノナク、若シ明渡ヲ求ムル場合ニ於テハ小作權ノ賠償ノ慣行アリ、又小作人間ニテハ反當七、八十圓乃至百圓位ニテ小作權ヲ賣買スル事實ハ一般ニ確認スル所ナリト稱ヘ耕作繼續ヲ主張セリ。

五月十一日第三回ノ調停ニ於テ、地方ノ小作事情竝ニ双方ノ經濟關係等ニ鑑ミ田ハ相當期間ノ猶豫ヲ以テ、畑ハ永年作物ニ對スル補償ヲ加味シタル作離料ヲ以テ返還セシムルヲ適當ト認メ勸說ニ努メタルモ双方共ニ主張强硬ニシテ讓步セザルタメ、調停委員ヲ合意選定セシメ之ガ解決ヲ期セントシタルモ、相手方之ヲ峻拒シ合意ヲ得ザルタメ調停主任之ヲ指定セリ。

五月二十三日裁判所ニ委員會ヲ開キ田ハ期間猶豫、畑ハ作離料ヲ加味シタル永年作物ニ對スル補償ヲ以テ解決セント說示シタルニ、小作人ハ本件ガ訴訟ニ繼續セル關係上飽ク迄主張ヲ貫徹セントスルコトノ不利ナルヲ悟リ、調停ニ依リ解決セントスル意嚮ヲ示スニ至リ、地主モ亦條件ノ如何ニ依リテハ調停ニ應ズルノ態度ヲ示シタルヲ以テ、更ニ勸說ニ努メタル所、双方意志ヲ和ゲ別紙調停條項ノ通リ解決セリ。

(三) 結末

調停條項

一　相手方ハ申立人ニ對シ本巢郡西郷村大字中西郷字桑掛八百十七番田一反三畝九步（掟米一石四斗三升五合）ヲ昭和九年六月十日迄賃貸シタリ申立人ハ期限滿了シタルトキハ右土地ヲ相手方ニ返還スルモノトス

二　第一項土地ノ小作料ハ從來通リトシ不作ノ場合ハ上西郷字本郷竝ニ依リ減額スルモノトス

三　相手方ハ申立人ニ對シ本巢郡西郷村大字中西郷字桑掛八百四十二番ノ畑七畝歩（掟米一石一斗七合）ヲ昭和十一年十一月三十日迄賃貸シタリ期間滿了シタル場合ハ申立人ハ右土地ヲ現狀ノ儘相手方ニ引渡スモノトス

四　第三項土地小作料ハ從來通リノ定免トス

五　相手方ハ第三項土地ノ柿木其ノ他ノ立木代トシテ金二十圓ト玄米二俵ヲ昭和十一年十一月三十日限リ申立人ニ支拂フモノトス

三〇　靜岡縣沼津市下香貫（作離料支拂）

爭議發生　昭和八年九月三十日

調停申立　昭和八年十月二十五日

解　決　昭和九年五月一日

關係人員　爭議　地主　一人　小作人　一人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地　爭議　畑　一反五畝四歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

本件係爭畑一反五畝歩ハ十七、八年前迄荒地狀態ナリシモノヲ本件小作人ガ當時ノ所有者東京市在住藤田某ヨリ借受ケ丹精シテ現在ノ蔬菜畑トナシタルモノナルガ昭和七年十月頃西遠無盡會社ガ競賣ヲ申立テソノ結果無盡會社ノ所有ニ歸シタルモノナリ。

小作人ハ西遠無盡會社沼津出張所主任林某ト小作繼續又ハ小作別レ金ニ付若干ノ交涉ヲナシタルモ明確ナル取極ヲナサザル間ニ昭和八年八月西遠無盡會社ハ小作人ニ對シ不法占有ニ依ル土地明渡ノ訴訟ヲ沼津區裁判所ニ提起シ判決言渡ノ期日迫リタリ、仍テ小作人ハ沼津支部ニ作離料請求ノ調停申立ヲナシタリ。

（二）調停ノ經過

小作人ハ坪一圓位ノ別レ金ヲ要求セルモ、會社ハ何分莫大ノ負債ヲ有シ、本件土地ノ如キモ多額ノ債務ノ不履行ニ依ル處分ニシテ到底小作人ニ涙金ヲ提供スル等ノ餘裕ナキノミナラズ當會社トシテ何等ノ小作關係無ク考慮スル餘地ナシトシテ調停委員會數回ニ亘ルモ別レ金ヲ提供スルコトノ條件ヲ以テシテハ調停ニ應ゼズト强硬ニ繰返スノミ、其ノ後三十圓位ノ涙金ヲ支出シテモ可ナリト申出デタリ。然ルニ本件香貫地方ニ於テハ新シキ買手ニ土地明渡ノ際ハ地主ハ借地料一年分ヲ小作別レ金トシテ小作人ニ與フルコトヲ以テ一般ニ慣行トシツツアリ、且本件小作人ハコノ土地ヲ主タル生活ノ根據トセルヲ以テ斯ル會社ノ要求ニハ應ジ得ズト主張シ調停ニ於テモ坪一圓程度ノ別レ金ヲ要求セリ。

會社側ハ本件ヲ長引カシムルヨリモ手頃ノ買手ニ對シ賣渡スコトノ利益ナルヲ知ルニ至リ訴訟提起後半年餘ヲ經過シタル昭和九年五月一日沼津支部ニ於ケル調停委員會ニテ坪當五十錢ノ作離料ヲ支給スルコトヲ以テ妥協セント決意スルニ至リ同日無事解決スルニ至レリ。

(三) 結末

調停條項

一　相手方會社ハ申立人ニ對シ本件別紙目錄(略)記載ノ土地ニ對スル作離料(小作別レ金)トシテ一坪ニ付金五十錢ノ割合ニ依ル一反五畝四歩コノ坪數四百五十四坪分合計二百二十七圓也ヲ昭和九年五月十日限リ支拂フコト

二　申立人ハ右金二百二十七圓ヲ受領ト同時ニ本件土地ニ對スル從來ノ小作關係ヲ離脫シ土地ヲ相手方ニ明渡スコト

三　申立人カ本件土地ニ對シ爲シタル現在存スル耕作物一切ニ付テハ申立人ハ之ヲ拋棄シ相手方會社又ハ相手方ヨリ土地ヲ買受ケタル第三者カ同地上ニ建築其ノ他ノ工作ヲ爲ス都合上耕作物ヲ引取ラルルモ申立人ハ之ニ對シテ何等ノ異議ヲ主張セサルコト

四　申立人ハ爾後本件土地ニ立入ラサルモノトス

五　本件ノ費用ハ各自辨ノコト

爭議發生　昭和八年七月

調停申立　昭和八年十月七日

解　決　昭和八年十二月二十七日

關係人員　(爭　議　地主　一人　小作人　五十六人　債權者　九人　土地周旋人　六人
　　(調　停　右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地　(爭　議　田　二十町歩　畑　五町歩　宅地　一町歩
　　(調　停　右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件爭議地ハ日本デンマークノ稱アル碧海郡安城町ニ隣接セル土地ニシテ東海地方ニ其ノ名ノ著レタル明治用水開鑿ニヨリ耕地トナリシ土地ナリ。本件地主ノ先代ハ夙ニ土地開墾ノ有望ナルコトニ着眼シ、小作百姓ヲ誘致シ、專ラ開墾ニ意ヲ須ヒ、其ノ盛年時代ニハ所有地六十町歩ニ及ビ、明治用水開墾事業ノ成功者ノ一人ニ數ヘラレタルモノナリ。

現代地主丹羽某ハ競馬事業ニ興味ヲ持チ、自然浪費性ヲ帶ブルニ至リ、亡父ガ實權ヲ握レル時代ニ於テ既ニ多大ノ債務ヲ負ヒ、密ニ財產處分ヲ爲セル事實スラアリ。現地主ノ此ノ性癖ハ金融ブローカ

ーノ乘ズルトコロトナリ、必要以上ニ債務ヲ負ハシメ浪費ニ拍車ヲ掛ケタリ。爲ニ現地主ガ其ノ實權ヲ繼承セル時ニハ金利ハ累加シ、普通手段ヲ以テシテハ家政整理困難ノ狀勢ニアルリタヲ以テ、債權者中ニハ債權確保ノタメ競賣處分ニ出ヅルモノ續出シ、遂ニ地主ヲシテ所有土地全部ヲ一擧ニ處分セントスル意ヲ決セシメ、之ガタメ其ノ土地ノ耕作ヲ以テ生活スル小作人ニ衝動ヲ與フルニ至レリ。

卽チ地主ガ負債整理ノ爲所有土地ヲ一擧處分ノ止ムナキニ至リタルモ、其ノ土地ヲ一括シテ引受ケ之ヲ從來通リ小作セシムルガ如キ大資產家出デザルタメ、小作人等ハ之ヲ野田小作人組合ノ問題トシテ講究ヲ重ネタル結果、組合長稻垣某ニ其ノ解決ヲ委任スルニ至レリ。

昭和八年七月頃債權者ノ督促漸ク急ヲ告グルヤ、地主ハ碧海郡新川町神谷某ニ一括引受ケシメントセルガ、神谷某ハ小作人ノ意嚮ヲ探ラントシテ其ノ會合ヲ求メタルニ、買取資力ナキ小作人ノ暗躍起リ一括引受ノ進行意ノ如クナラザルニ至レリ。斯クテ時ノ經過ト共ニ金利重ナリ回收策ニ確信ヲ失フニ至レル債權者ハ昭和八年九月二日ニ至リ競賣處分ヲ爲シタルモ引値（最低價格）高キタメ一筆ノ落札モナク、徒ニ恐怖參集セル小作人ニ剩載ヲ與フルニ過ザル結果トナレリ。此ノ間ノ情勢ヲ察知セル債權者側ノ代理人神谷某（新川町ノ神谷某ニアラズ）ハ小作人ヲ對抗狀態ニ置ク事ハ圓滿解決ノ所以ニアラズトシ小作人組合長稻垣某ヲ訪ヒ次ノ協定ヲ爲セリ。

一　小作人ニ於テ買取希望ノ者ハ買取ルコト

一　買取資力ナキモノモ金主ヲ求メ得ル者ハ其ノ方途ヲ講ズルコト

一　前二法トモ見込ナキモノハ他ニ轉賣シ、小作付評價額ノ差額ノ半額ヲ小作權賠償額トシテ與フルコト（其ノ差額百圓）

而シテ土地ノ評價額ハ時價、債權額、利子、其ノ他ノ諸雜費等ヲ考慮ニ入レ反當金四百二十二圓トシ、右ノ協定ニ基キ整理案ヲ作リ土地賣買ノ契約ヲ締結セントセシガ、小作人側ニ於テハ稻垣組合長專橫ナリトスルモノ、資力ナキ小作人ヲシテ小作離ヲ爲サシムル如キハ不當ナリトスルモノ、或ハ地主ト特別關係ニアル小作人ニアリテハ稻垣ヲ排擊シテ有利ノ立場ニ立タントスルモノ等アリテ、右整理案ニヨル賣却ハ遂ニ地主ノ遁逃的退却ニ依リ賣買契約締結ニ至ラズ、同時ニ小作人組合モ約半數ノ脫退者ヲ生ズルニ至レリ。然ルニ偶本件土地ヲ一擧ニ引受ケントスル寶飯郡前芝村靑木某現レ地主トノ間ニ次ノ契約成立スルニ至レリ。

碧海郡依佐美村大字野田字西屋敷　番地

（甲）　丹羽某

寶飯郡前芝村大字前芝

右當事者間ニ於テ別紙記載ノ土地ニ對シ左ノ賣買契約ヲ締結ス

一　甲ハ其ノ所有ニ係ル末尾記載ノ物件ヲ抵當權設定ノ儘（元利金共）ニテ乙ニ賣渡シ乙ハ其ノ買受ヲ受諾ス

一　右ニ付乙ハ買損金四千圓ヲ甲ニ交付スルモノトス但シ此ノ金額ハ契約ト同時ニ乙ヨリ甲ニ支拂フモノトス

一　抵當權設定中共同擔保ノ內宇西屋敷宅地及建物、山林、畑ノ全部ト字芝ノ中沖ノ道切替地藏山ノ各字ハ昭和八年十月三十日迄ニ抵當權抹消登記ヲ爲シ之ハ其ノ儘甲ノ所有タルコトヲ

一　從來抵當權設定ノ元利金ハ其ノ儘乙ニ於テ引受ケ債權者ニ對シ辨濟ノ義務ヲ負フモノトス

一　尙甲ハ乙ノ必要ニ應ジ賣渡證及之ニ對スル移轉登記申請ニ要スル委任狀ヲ渡スモノトス

一　昭和八年九月徵收ノ分迄ノ公課及附加稅區費一切ヲ甲ニ於テ支拂ヒ同年十月分ヨリノ公課及附加稅區費一切ハ乙ニ於テ納稅スルコト

昭和八年九月十九日

（乙）　青木某

一　賣渡土地地上ノ立木ハ賣買セズ甲ノ所有タルコト

昭和八年九月十九日

丹羽某

青木某

碧海郡矢作町大字下佐々木字屋敷八十七番地

立會人　太田某

碧海郡依佐美村大字野田字地屋敷七十八番地

立會人　丹羽某

此ノ契約ハ小作人トノ反目ノ間ニ密ニ締結セラレタルモルモノニシテ、地主ハ右契約ノ成立スルヤ小作人全員ヲ參集セシメ、今回青木某ニ所有地一切ヲ賣渡スコトトナリタルモ、青木某ハ現地主ヲシテ土地ヲ管理セシメ、從前ノ如ク小作セシムルモノナル旨ヲ告ゲ、青木某トノ間ニ取交セリト稱スル次ノ如キ契約書ヲ提示シ、小作人ノ動搖ヲ抑止スルニ努ムル所アリタリ。

證

一　今回貴殿ヨリ買受土地ニ關シ現在ノ儘小作人ニ小作可被致候事

一　右土地管理ヲ貴殿ニ委任スル事

昭和八年九月十九日

寶飯郡前芝村大字前芝

青木某

依佐美村大字野田

丹羽某

然レドモ此ノ契約書ハ實ニ虛構ニ基ケルモノニシテ、次ノ返リ書ハ之ヲ證スルニ餘アリ。

記

昭和八年九月十九日付ノ契約ニ基キ小作人ニ對スル云々ノ證書ヲ受取リ居ルモ今後小作人ニ迷惑ノ掛ラザル以上ハ他ヘ賣却相成ルモ拙者ニ於テ異議無之後日ノ爲證者如件

昭和八年九月二十六日

碧海郡依佐美村大字野田西屋敷　番地

丹羽某

青木某殿

此ノ契約書ハ密ニ取交セルモノナルモ、前後ノ情勢ヨリ債權者竝ニ小作人ノ一部ノ者ノ疑フトコロトナリタリ。一面債權者側ノ競賣ハ十月二十七日ト定リ、地主ハ競賣期日迄ニハ賣買受渡完了スルト稱シ居ルモ、引受者タル青木某ノ擧動ニ幾多釋然タラザル所アリテ其ノ實現性ヲ見透シ得ザル爲、稻垣組合長派ニ屬スル小作人三十名ハ永小作權設定登記或ハ永小作權ヲ加味スル價格ヲ以テ土地ノ賣買ヲ求メ、小作調停ノ申立ヲ爲スニ至レリ。

此ノ調停ノ申立ヲ受クルト同時ニ小作官ハ競賣期日ノ延期、小作人間ノ反目嫉視ノ緩和、債權者、地主、買受契約人竝ニ之ヲ取卷ク土地賣買周旋者團ニ向テ活動ヲ開始シ、調停開始ト同時ニ或ハ調停上ニ於テ、或ハ調停外ニ於テ各方面ニ斡旋スルトコロアリタリ。

本件爭議ニ就キテ關係者各自ノ採レル手段ヲ見ルニ、

（イ）地主ニアリテハ

小作人ノ團結ハ賣却價格ニ最モ大ナル影響ヲ與フルモノナルヲ以テ之ヲ分散セシムルコトニ腐心シ、自己ノ緣故者ニハ永小作又ハ賃貸借ノ登記ヲ爲シ安定ヲ謀ラント其ノ準備ニ着手セルモ、小作人ノ活動以外ニ響多ク其ノ事ノ爲遂ゲ難キヲ知ルヤ、青木某トノ間ニ虛構ノ契約ヲナシテ小作人ノ安靜ヲ圖リ、土地處分ノ餘儀ナキ上ハ只管實收ヲ多カラシムル爲ニ手段ヲ擇バザルモノノ如ク、

（ロ）債權者ニアリテハ

小作人ノ行動、輿論ノ影響等ヨリ土地價格ノ低下ノ危險アルヲ慮リ、一日モ速ニ競賣處分ニ附センコトスルモノアルモ、抵當順位末位ニアルモノハ其ノ配分ニ預ル事ナキ場合ヲ惧レ、青木某ノ買取實現ヲ望ミ、必ズシモ其ノ行動一ナラズ。

（ハ）小作人ニアリテハ

買取資力アルモノト然ラザルモノトハ其ノ事情大ニ異ルモノアリ。殊ニ地主緣故者ハ小作人組合ノ手ヲ離レテ有利ノ立場ヲ作ラントシ表面穩健ナルモ內面ニ於テ陰險ナル策動ヲナシ、

（ニ）買受契約者ニアリテハ

最初地主ト買受契約ヲ爲セル當時ハ小作人ニ從前ノ如ク小作セシムルモノノ如ク假裝契約ニヨリ之ヲ欺キ土地處分ヲ有利ニ爲サントセルモ、調停開始セラレテ意ノ如ク暗躍シ能ハザルニ至ルヤ容易ニ賣買授受ヲ肯ゼズ、只轉賣ニヨリ利益ヲ得ントシ、

（ホ）土地賣買周旋者團ニアリテハ

青木某ニ金六千圓ノ保證擔保ヲ差入レ賣買ハ利得ヲ割セルモ、青木某ノ態度煮切ラザルニ至ルヤ是ガ買取督勵ニ必死トナレルモ受渡代金ノ捻出容易ナラズ、又轉賣先モ調停ノ經過、小作人ノ態度明ナラザル爲容易ニ資金ノ放出ヲナサズ。

右ノ如キ各種ノ事情交互ニ錯綜シ本件爭議ヲシテ複雜化セシメタルモ、一面競賣期日ノ切迫ハ此ノ

複雑ナル爭議ヲ急速解決セシムルニ預ツテ力アリタリ。

（二）調停ノ經過

本件爭議ハ調停着手前後ニ於ケル調査ニヨリ、單純ナル地主小作人間ニ於ケル爭議ニアラズシテ、小作料ヲ未納ノ狀態ニ置キタルコトハ單ニ留保ノ意味ニ過ギズ。爭議ノ關係者ハ地主、債權者、買受契約者、土地周旋業者、小作人ニ及ビ、就中小作人ノ危險ヲ感ズルハ競賣處分ニヨリ土地ガ自作階級ノ者ノ競落スルトコロトナリ、其ノ競落者トノ間ニ土地爭奪ノ起ルベキコト及小作人中ニ於テモ資力アルモノハ之ヲ競落シ同志打ノ狀態ニ陷ルベキコトニアリ。

本件爭議ノ情勢上述ノ如クナルヲ以テ調停機關ハ此等關係者間ノ運動交涉ヲ單純化セントシ、又關係者ハ他ヲ顧ルコトナク何レモ自己ノ利害ノミニ專念シ其ノ手段ヲ擇バザルノ嫌アリテ、時ニ土地周旋者團ト調停機關トハ其ノ實力ヲ競フノ奇觀ナキニアラザリキ。

斯ノ如キ情勢ノ中ニ於テ調停ヲ進ムルニ當リ、先ヅ買取契約者青木某ヲシテ地主ガ聲明セル如ク（假令眞意ニアラズトスルモ）小作人ニ耕作上ノ動搖ヲ與ヘザルコトヲ得ルナラバ最モ簡易ナルヲ以テ、此ノ點ニ就キテ青木ノ眞意ヲ聽取セルニ、土地買取ノ決意ヲ爲シタルハ土地周旋業者ノ勸說ニ基ケルモノニシテ固ヨリ繼續シテ土地ヲ所有スルノ意ナク、差金利得ヲ主眼トシタルモノナルガ、買受轉賣ニ對シ小作人ガ如何ナル程度ニ反抗スベキヤノ點ニ付土地周旋業者ヨリ聞知スルトコロト調停機關ノ說示トハ甚シク相違シ、其ノ取捨ニ迷フトコロナシトセザルモ、調停開催中ニアリテハ小作人ノ依賴心强ク目的遂行上障害多キヲ以テ、事ノ成否ニ拘ラズ速ニ調停ヲ終了セシメラレタキコトヲ希望シ、小作離ヲ爲ス場合ニテ於ハ反當金四、五十圓ノ涙金ヲ支出スベキコトヲ申出デタリ。

調停機關ノ聞知セル小作人ノ態度ハ統一セラレタルモノナキモ、其ノ主流ヲ爲スモノハ明治用水開鑿後ノ開墾熟田化ハ小作人ノ手ニ依テ成レルモノニシテ、當時ニ於ケル開墾地ト未開墾地トノ價値ノ差異ハ頗ル大ナリシモ、吾等ノ今日ハ涙金ノ多寡ヲ云爲スルガ如キ餘裕ナク、土地ヲ失フコトハ卽チ失業ナルヲ以テ土地ヲ死守スルヨリ他ニ方途ナシト云ニアリ。玆ニ於テ作離料ニ依テ本問題ヲ解決スルコトハ適當ナラザルヲ以テ青木某ニ買取權ヲ放棄セシメ、債權者中大地主ニ屬スルモノニ引受ケシメ、其ノ手ニ依テ小作繼續ヲ爲サシメントシタルニ、青木某ハ轉賣利得ノ見込確實ナラザル今日、手附金及雜費ヲ受クルニ於テハ買取權ヲ放棄スルモ可ナル旨申出ヅルニ至レリ。

此ノ方針ヲ採ル上ニ於テ先ヅ第一ニ其ノ進行ヲ阻ムモノハ小作人ガ同一ノ態度ニ出デザルコトニシテ、調停申立小作人ハ調停機關ノ手ニ依テ土地買取若ハ小作條件設定ヲ希望セルモ、申立人外ノ小作人卽チ小作人組合脫退者ハ或ハ調停申立小作人ニ優先ノ契約ヲ爲サントシ、或ハ地主若ハ青木某トノ間ニ特殊契約ヲ爲サントシテ調停ノ進行ノ妨害トナルベキ點多キニヨリ、先ヅ以テ小作人間ノ態度ヲ一樣ナラシムベク、隣保相助ノ精神ト同志陷排ノ非ヲ懇說シ、一樣ニ調停機關ノ手ニ依テ善處スベキ

コトニ爲サシメタリ。

斯クテ小作人等ハ一樣ニ調停機關ニ信賴スルコトトナリタルヲ以テ、土地ヲ債權者中ノ地主ニ對シ引受ケシメ、小作人中買取リ得ザルモノニ小作繼續セシメントセルニ、債權者ハ債權額ノ範圍內ニ於テ引受ントセル爲、勢ヒ地主靑木間ノ賣買契約價格ヨリ切下ノ要アルモ、地主ハ全財產ノ處分ニシテ最後的ノ場合ナルヲ以テ擔保價額ヨリ金額ニ於テ金四千圓、外ニ家屋金三千圓、附屬地六反步見積金三千圓、此ノ合計金一萬圓ヲ浮キ出サシメントシテ價格切下ヲ肯ゼザルノミナラズ、靑木某ニ對シ辯護士ヲ介シ土地引取ノ催告ヲ發セルタメ、債權者引取案ノ前途ニ暗影ヲ投ズルニ至リ、調停機關ガ地主、債權者、買取契約者、小作人等總テノ關係者ニ讓步セシメタル上解決セントシタル連續旬餘ニ涉ル努力モ空クナリタルヲ以テ、已ムナク最後案トシテ買取リ得ベキ小作人ニハ買取ラシメ買取リ能ハザル小作人ノ小作地ハ小作繼續ヲ爲サシメ、靑木某ノ轉賣スル場合ニハ小作繼續ニ付誠實ニ盡力スベシト云フ精神的ノ取極メ方ニテ滿足スルノ餘議ナキ結果トナレリ。

然レドモ此ノ方法ヲ行フニアタリテハ從前原野ナリシモノヲ開墾シタル關係上公簿面積ト實面積トノ間ニ相當差異アルノミナラズ、其ノ土質ニ於テモ良否アルニヨリ每筆ノ實測ヲ行フ必要ニ迫ラレ、多大ナル現業ヲ伴フコトトナレリ。而シテ此ノ現業ニ要スベキ費用ハ各關係者ガ前述ノ如キ立場ニアル關係上負擔困難ナル事情ニアルヲ以テ、勸解ノ方法ニヨリ測量ニ堪能ナルモノヲ勸解者トシ、小作官ト共ニ連續二十八日間ニ涉リ之ガ實測ヲ終レリ。其ノ評價問題ハ利害ノ及ブ所最モ重大ナルヲ以テ買取契約者靑木某及小作人ヨリ評價表ヲ提出セシメ、委員會ニ於テハ小作人及小作人ノ爲ニ金主トナリタルモノノ買取ルベキ分ヲ合計シ、他面靑木ノ手ニスベキ分ヲ合計シ、此ノ二者ノ包括評價ノ查定ヲ爲シ、各筆評價ハ小作人間ノ自決方法ニ依ラシムルコトトシ、折衝面ヲ狹小ナラシメタリ。

因ニ本件地主ノ債務關係ヲ表示セバ次ノ如シ。

債權者	貸付年月日	貸付金額	計算上ノ債權額	協定額	調停ニヨリ讓步セシメタル額
市古某	昭和五、五、一四	五、五〇〇・〇〇円	七、八一七・七八円	六、六二二・六〇円	一、一九五・一八円
同人	六、五、一	五、〇〇〇・〇〇	六、四八五・四八	六、〇二〇・五四	四六四・九四
佐野某	五、九、一	二〇、〇〇〇・〇〇	二七、六二七・五四	二四、〇八三・三三	三、五四四・二一
鬼頭某	五、七、一六	二、〇〇〇・〇〇	二、八二七・一〇	二、四〇八・三三	四一八・七七
高木某	六、二、二五	二、五〇〇・〇〇	三、二八〇・九八	三、〇一〇・四一	二七〇・五七
岡田某	六、一、二五	四〇三・〇〇	五四八・四〇	四八五・二七	六三・一三
杉浦某	七、一〇、一一	四五〇・〇〇	五六五・〇一	五一三・九二	五一・〇九
加藤某	八、八、二九	九、九七〇・〇〇	一〇、三四九・九五	一〇、三四九・九五	一、七六六・一二
某銀行	三、一一、一二	四五、〇〇〇・〇〇	五五、三九四・二二	五三、六二八・一〇	一、七六六・一二
同人	五、一〇、二九	六、〇〇〇・〇〇	五、八三九・九一	五、八二三・一四	一六・七七
計		九六、八二三・〇〇	一二〇、七三六・三七	一一二、九四五・五九	七、七九〇・七八

右ノ如ク其ノ利子額等ニ就キテハ多ク之ヲ譲歩セシメタルモ、獨リ加藤某ハ債權確保ノ手段トシテ債權額ヲ以テ土地買取ノ假登記ヲ爲シ、利子減額ニ付毫モ譲歩ノ色ヲ見セズ。而カモ其ノ土地ハ小作人中買取希望者相當多數ニ上リテ之ヲ除外スルコト能ハズ、又他ノ利子減額承諾者ノ不滿ヲ買ヒ、一時調停ノ停滯ヲ見タルモ、終ニハ他ノ債權者モ加藤某ハ特異性ノ人トシテ之ヲ承服スルニ至リ、爾後競賣期日ノ關係上殆ド連日ニ渉リ調停シ、十月十六日ニ始リ十二月二十七日調停成立迄、調停委員會ヲ開催スルコト二十九日、勸解二十八日ヲ費シ、茲ニ解決困難ナリシ本件モ漸ク成立ヲ見ルニ至レリ。尤モ此ノ日數中ニハ一方ニ實測勸解ヲ併行シタルヲ以テ日數ハ重複セルコトモアリ。

本件調停ニ當リ之ガ特殊ト認メラレタル點ヲ要約スレバ左ノ如シ。

一　小作人ハ調停ノ必要上相提携シタルモ內部ニ於テハ常ニ鬪爭シ、同志相排擊シ、自己小作地ノ確保ノミニ着眼シ、甚シキニ至リテハ自己ノ所有權獲得ノ曉ニ於ケル轉賣自由ノ素地ヲ作リ利得センコトスルノ傾向アリシコト

一　債權者中擔保條件ノ有利ナルモノニアリテハ小作人ト通ジ共同解決ヲ破壞セントシタルモノアリシコト

一　土地ブローカーハ調停ヲ不成立ニ終ラシメ、自己ノ手ニヨル利得範圍ニ自由ノ餘地ヲ多カラシムル爲捨身ノ態度トナリ協調性ヲ缺ケルコト之ヲ要スルニ小作料ノ問題ニ就キテハ小作人ノ團結ハ相當强キモ、其ノ他ノ場合ニ於テハ小作人モ自己本位ニシテ、其ノ他ノ關係者亦自己打算主義ニ終始シ、隣保共助觀念ノ如キハ容易ニ認メラレザリシコトナリ。

因ニ本件解決後ノ小作料ハ地主小作人間ニ於テ滯リナク交涉進メラレ解決セリ。

(三)　結　末

調停條項

一　丹羽某ト青木某間ノ昭和八年九月十九日付土地賣買契約及同月二十六日付附帶契約ハ右當事者ノ合意ニヨリ之ヲ解除スルコト

一　丹羽某ハ別表第一號乃至第三號記載ノ土地ヲ別表第一號乃至第三號記載ノ買受人ニ代金合計金十一萬九千五百圓ヲ以テ賣渡スコト

各買受人ノ氏名、其ノ買受土地、其ノ支拂フヘキ代金ハ前記各別表ノ通リトス

丹羽某ハ右總代金中ヨリ金四千圓ヲ受取ルコト但シ內金二千圓ハ昭和八年九月二十六日青木某ヨリ受領セル金二千圓ヲ以テ之ニ充ツルコト

青木某ハ既ニ丹羽某ニ對シテ支拂ヒタル右金二千圓ヲ右總代金中ヨリ受領スルコト

別表第四號記載ノ各債權者ハ同表記載ノ各債權ヲ前記總代金中ヨリ辨濟ヲ受ケ其ノ餘ハ拋棄スルコト

一　前項ノ賣買代金ノ授受ハ昭和九年一月十五日午前十時當廳ニ於テ左記書類ノ授受ト同時ニ之ヲ爲スコト

（イ）丹羽某及青木某間ニ於テ授受スヘキ書類（第一項ノ契約書）

（ロ）債權者ヨリ買受人ヘ交付スヘキ書類（競賣取下ニ要スル書類、抵當權設定登記抹消手續ニ要スル書類、抵當權設定金員貸借證書）

（ハ）各債權者ヨリ丹羽某ニ交付スヘキ書類（別表第一號乃至第三號及第五號ニ對スル各抵當權設定登記抹消ノ手續ニ要スル書類）

（ニ）分筆ニ要スル書類

以上ノ書類ニ不備ノ點アル時ハ其ノ交付者ハ何時ニテモ其ノ書替又ハ訂正捺印等ノ請求ニ應スルコト

一　右代金ノ合計ト別表第四號記載ノ本件債權總額及丹羽某ノ受領シタル前記金四千圓ノ合計トノ差額ハ青木某ヲシテ之ヲ受領セシメ本件申立人カ調停申立ニ關シテ要シタル實費、競賣申立及其ノ取下ニ關スル實費、代位登記ニ要シタル實費、昭和八年十月一日ヨリ本件取引完了迄ノ公租公課及準公課其ノ他一切ノ費用ニ充テシメ殘餘アルトキハ佐野某、青木某及小作人惣代間ニ於テ誠意ヲ以テ其ノ分配ニ付協定スルコト

尙右分配ニ至ル迄該金圓ハ青木某ニ於テ右關係者ノ爲其ノ保管ノ責ニ任スルコト

一　公租公課及準公課中昭和八年九月末日迄ノ分ハ丹羽某ノ負擔トシ本件取引完了後ノ分ハ買受人ノ負擔トスルコト

一　青木某ハ其ノ買受ケタル土地ニ付其ノ現在ノ小作人ヲシテ繼續小作セシメ之ヲ他ニ轉賣スル場合ニ於テハ其ノ買主ヲシテ從前ノ小作關係ヲ繼續セシムル樣誠意ヲ以テ盡力スルコト

一　別表第二號ノ買受人ハ同表記載ノ從前ノ小作人ニ對シ繼續小作セシムルコト

一　丹羽某ヨリ鈴木某ニ賣渡濟ニ係ル字荒田八十九番ノ一山林三反六畝十四歩ノ內實測田九畝五歩ハ鈴木某ノ所有名義ニ移轉登記ノ手續ヲ爲シ丹羽某ハ前記金二千圓ヲ受領スルト同時ニ青木某ニ對シ金四百十圓ヲ支拂フコト

（別表省略）

三二　三重縣一志郡久居町大字蜜柑山　（小作料一時的竝ニ永久的減額）

爭議發生　昭和六年十一月

調停申立　昭和八年二月二十四日

解　決　昭和八年六月二日

關係人員　爭議　地主　百八十二人　小作人　一人（某鐵道株式會社）
　　調停　右ニ同ジ（地主申立）
關係土地　爭議　田　五町九反四畝二歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

本件土地ハ地主ガ小作人側ニ對シ大正七年以降鐵道用地トシテ小作料ヲ定メ賃貸シ居タルモノナルガ、昭和六年十一月ニ至リ小作人側ハ營業不振ノ理由ヲ以テ小作料減額方ヲ地主ニ要求セリ。然レ共地主等ハ到底此ノ要求ニ應ジ得ザルヲ以テ遂ニ小作調停ノ申立ヲ爲スニ至レリ。

（二）調停ノ經過

右ニ付小作調停委員會ヲ同町役場或ハ同郡各種團體事務所ニ於テ開催スルコト前後三回ニ及ビ調停成立ニ努力シタルモ双方ノ主張強硬ニシテ妥協容易ナラザリシモ、双方ニ對シ種々懇談ヲ遂ゲ調停ニ努メタル結果、昭和八年六月二日調停ノ成立ヲ見タリ。

（三）結末

調停條項

一　本件ニ關スル昭和六年度分小作料ハ減免ナシ

昭和七年度分小作料ハ一志郡大井村及同郡川口村（某殖産株式會社分）分ハ掟米ノ三割七分五厘引、其ノ他ノ分ハ三割引トス

二　相手方ハ申立人ニ對シ昭和八年六月末日迄ニ右昭和六、七年度分ノ小作料ヲ夫々計算ノ上支拂フコト

三　昭和八年度分ヨリ向フ五箇年間ハ一志郡大井村及同郡川口村（某殖産株式會社分）分ハ掟米ノ三割七分五厘引、其ノ他ノ分ハ三割引トス

四　前項ノ期間經過後ニ於ケル小作料ハ內外ノ狀勢ニ應シテ從前ノ小作料ヲ基本トシテ更新スルコト

三三　三重縣三重郡竹永村大字竹成（小作料一時的減額）

爭議發生　昭和八年九月一日
調停申立　昭和八年九月十九日
解　決　昭和八年十月二十日
關係人員　爭議　地主　一人　小作人　二人
　　調停　右ニ同ジ（小作人申立）
關係土地　爭議　田　一反七畝二十九歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

昭和六年度ハ病蟲害ノタメ凶作ナリシヲ理由ニ小作人ハ地主ニ對シ同年度掟米八割減額方ヲ懇請シタルモ、地主側ハ之ヲ不當ナリトテ應ゼズ。尚本事件ハ昭和八年第五〇號土地返還竝小作料請求訴訟事件トシテ當時四日市區裁判所ニ於テ係爭中ニシテ、甚ダ困却セルタメ圓滿ナル解決ヲ見タシトテ小作調停申立ヲ爲シタルモノナリ。

（二）調停ノ經過

右ニ付前後二回ニ渉リ小作調停委員會ヲ同村役場ニ於テ開催シ調停ニ努メタルモ双方ノ意見容易ニ一致セザリシガ極力調停ニ努力セシ結果、遂ニ双方相譲リ昭和八年十月二十日圓滿ナル調停ノ成立ヲ見タリ。

（三）結　末

調停條項

第一條　申立人ハ相手方所有ノ別紙（省略）目錄記載ノ土地ヲ同目錄記載ノ掟米ヲ以テ其ノ支拂期ヲ毎年十二月二十日限リトシ賃借小作ヲ爲スモノトス

尚相手方ハ申立人ニ對スル昭和六年度ノ掟米ハ五割減引、昭和七年度ハ二割五分減引、昭和八年度ハ減引ナシトシ右昭和六、七年度ノ滯納米ハ昭和九年ヨリ向フ七箇年間ニ平分分割シテ毎年十二月二十日ヲ期シ七分ノ一宛ヲ年賦辨濟ヲ爲シ昭和八年度分ハ昭和八年十二月二十日限リ支拂フモノトス

第二條　申立人ハ相手方ノ承諾ナクシテ賃借地ノ形狀變更工事又ハ賃借地ノ權利ヲ譲渡及第三者ニ轉貸シ或ハ建築物等ヲ營造スルコトヲ得ス

第三條　今後凶作ノ場合ハ申立人ヨリ相手方ニ對シ稻毛刈取十日以前ニ檢見ノ申出ヲ爲シ双方立會ノ上減免率ヲ協定スルコト

右協定調ハサルトキハ双方竝ニ農業技術員若ハ調停委員立會ノ上檢見又ハ坪刈ヲ爲シ實收穫ヲ算定シ反當四俵二斗以下ノ收穫高ナルトキハ相手方四分、申立人六分ノ割合ニテ分割ス尚申立人ハ世間並ノ施肥、耕作ヲ怠ラサルモノトス

右檢見又ハ坪刈ノ場合双方立合ハスシテ刈取リタルトキハ減免無シトス

第四條　申立人ニ於テ第一條ノ年賦辨濟米竝ニ今後ノ掟米ヲ其ノ支拂期日ニ支拂ヲ怠リ相手方ヨリ二週間ノ期日ヲ置キテ催告ヲ受ケナカラ尚之ニ應セサルトキハ申立人ハ相手方ニ對シ異議ナク本件土地ヲ返還スルコト

三四　滋賀縣蒲生郡桐原村大字中小森（小作料一時的減額小作條件決定）

爭議發生　昭和八年二月二十八日

調停申立　昭和八年五月二十四日

解　決　昭和八年十一月三十日

關係人員　爭議　地主　十六人　小作人　八十二人
　　調停　右ニ同ジ（地主申立）

關係土地　爭議　田　二十五町三反二畝二十一歩　畑　一畝七歩　宅地　三反一畝二十歩
　　調停　右ニ同ジ

（一）爭議ノ概況

昭和七年十二月小作料納入期ニ際シ、各部落小作人組合幹部聯合協議會ヲ開催シ、昭和七年十月二十五日ノ降雹及同年十一月十四日ノ暴風雨ハ稻作ノ被害多大ニシテ減收著シキヲ理由トシ、總代五名ヲ選定シ總代ヨリ大字區長ヲ經テ地主側ニ契約小作料ノ二割五分ノ一時減免ヲ要求セリ。

地主側ハ協議ノ結果昭和七年ノ稻作ハ幾分減收ヲ認ムルモ本大字ノ小作料ハ隣接地方ニ比シ比較的低額ナレバ小作料ノ減免ヲ行フベキ程度ニアラズト主張シ、小作人側ノ要求ヲ拒絶セリ。

其ノ後數回小作總代ハ主ナル地主ニ對シ懇望ヲ重ヌルモ解決セズ、地主側ハ再三協議ノ結果、個人的關係ニアル小作契約ニ對シ團體的折衝ニ依リ解決ヲ强要セントスル小作人側ノ態度ハ不條理ナリトテ、二月十五日各地主ヨリ各自ノ小作人ニ對シ、昭和七年度小作料減免額ハ契約小作料ノ六分ヲ減額スベク敎ニ減免額ヲ控除シ二月二十八日限リ未納小作料全額ヲ完納スベク通知セシガ、小作人側ハ益々結束ヲ固メ小作料ノ不納同盟ヲナシ、極力個人的交涉ヲ排シ、目的ノ貫徹ヲ期スベク申合セ地主側ノ個人的折衝ヲ拒絶セリ。

故ニ地主ハ更ニ三月二十日最終期限ヲ三月二十七日ト定メ未納小作料ノ完納方ニ付最後的通達ヲ發シ、一面各個人ニ面接シテ解決ヲ迫リシガ、漸ク小作人側ハ結束ノ一部ヲ破壞セラレ約七割ノ小作人ハ地主ノ主張ヲ承認セルモ、其ノ餘ハ飽迄主張ヲ固持シテ讓ラズ、其ノ後地主側ハ益々之ガ切崩ニ狂奔セルモ、最後迄抗爭スベク決意セル一部小作人ハ小作料不納同盟ノ一部ヲ緩和シ約七割ノ小作料ヲ納入セルニ止マリ、小作料減免額ニ關シテハ自說ヲ固持シテ讓ラズ全ク解決ノ途ナキニ至レリ。

地主側ハ更ニ協議ノ結果、最後的對策トシテ頑强ニ抗爭セル小作人ニ對シ、耕地ノ返還請求ヲ以テ對抗セント協議ヲ進メシモ、本地方ノ一部ニハ小作權反當二百圓乃至三百圓ニテ賣買セラレツツアル慣行アリテ、其ノ實行容易ナラザル小作事情ニアルヲ以テ、未納小作料請求竝ニ小作契約ノ改善確保ヲ目的トシテ、各自ヨリ各關係小作人ヲ相手方トシ四月二十八日大津地方裁判所ニ小作調停ノ申立ヲナシタリ。

（二）調停ノ經過

爭議ノ實情ニ依リ十六名ノ地主ヨリ申立タル調停事件十六件ヲ合併調停ヲナスベク關係小作人八十二名ニ對シ六名ノ總代ヲ選定セシメ、五月二十三日蒲生郡八幡町蒲生郡農會事務所ニ於テ地主及小作